

八王子市
地域福祉計画改定に伴う意識調査
調査結果報告書

素案

平成 29 年 2 月
八王子市

目 次

第1章 調査の概要	1
1 調査の目的	2
2 調査対象	3
3 調査期間	4
4 調査方法	5
5 回収状況	6
6 調査結果の表示方法	7
第2章 調査結果	8
1. 回答者について	9
（1）性別	10
（2）年齢	11
（3）居住年数	12
（4）居住地区	13
（5）同居人数	14
（6）同居者	15
（7）住まい	16
（8）職業	17
（9）年収	18
2. 地域での暮らしについて	19
（1）地域の認識	20
（2）自治会等への加入状況	21
（3）地域での暮らしやすさ	22
（4）困ったときの相談相手	23
（5）近所づきあいの実際と希望	24
（6）地域の人にしてほしいこと	25
（7）地域課題への取り組み	26
（8）近隣世帯についての相談相手	27
（9）近隣世帯にできること	28
（10）地域での安心した暮らしに必要なこと	29
3. 地域活動への参加について	30
（1）地域活動への参加	31
（2）今後参加したい活動	32
（3）参考にすべき事例等	33
（4）ボランティアの報酬	34
（5）ボランティアが活動しやすくなる条件	35
4. 福祉施策や制度、サービスについて	36
（1）福祉にまつわる用語等の認知度	37

- (2) 福祉制度等のわかりやすさ
- (3) 福祉についての講習会等への意向
- (4) 情報の入手先
- (5) 行政と住民の関係
- (6) 地域福祉推進拠点
- 5. 地震や災害があったときの対応等について
- (1) 災害時に頼れる人
- (2) 災害時に地域で支えあうしくみ
- (3) 災害時への備えと個人情報
- (4) 災害時のボランティア
- 6. 生活が苦しくなった場合の支援について
- (1) 生活困窮時の相談窓口の認知度
- (2) 生活困窮者自立支援制度で重視する点

- 第3章 調査結果の概要
- 1 回答者について
- 2 世代ごとのとらえ方の違い
- 3 若い世代の地域への取り込み
- 4 虐待・孤立化の防止
- 5 社会的弱者の支援
- 6 災害時の要援護者支援
- 7 地域福祉の担い手の確保
- 8 用語の認知度と生活困窮者制度

第1章

調査の概要

第1章 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、「八王子市地域福祉計画」の改定にあたり、地域保健福祉に関する基礎資料を得ることを目的としています。

2 調査対象

市内に居住する18歳以上の男女3,000名を無作為抽出

3 調査期間

平成28年 月 日から平成28年 月 日

4 調査方法

郵送による配布・回収

5 回収状況

配布数	有効回収数	有効回収率
3,000通	1,266通	42.2%

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・本文や図表中の選択肢表記は、実際の調査票で使用した語句を短縮または簡略化している場合があります。

■クロス集計について

- ・クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・今回のクロス集計においては、表側（左）側の項目（選択肢）を選択した人を回答者数（n）とし、これを基数として表頭（上）側の項目（選択肢）の割合を百分率（%）で示してあります。表側側の選択肢が無回答またはその他などの場合は表示しないことがあります。
- ・網掛けのしてある部分については、文中に言及がない場合、全体より5.0ポイント以上高いことを示します。
- ・回答の傾向が異なる場合でも、回答者数が少ない場合などは言及しないことがあります。

第2章

調査結果

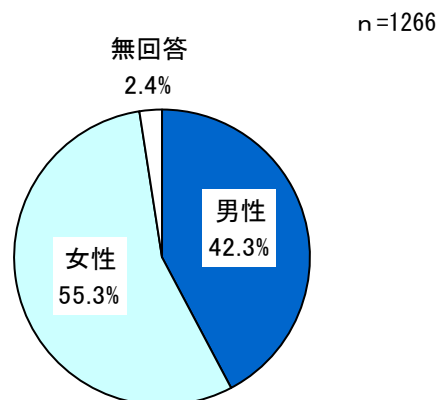
第2章 調査結果

1. 回答者について

(1) 性別

問1 あなたの性別はどちらですか。

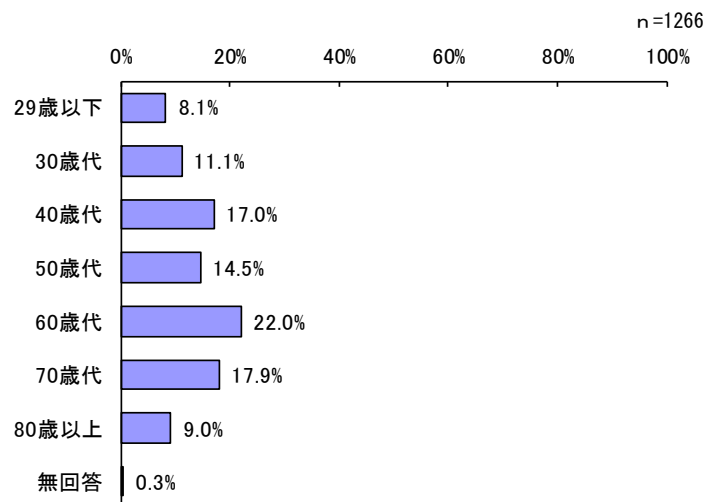
「男性」の割合が45.5%、「女性」の割合が54.0%となっています。



(2) 年齢

問2 あなたの年齢はおいくつですか。

「60歳代」の割合が22.0%で最も高く、次いで「70歳以上」の割合が17.9%、「40歳代」の割合が17.0%などとなっています。

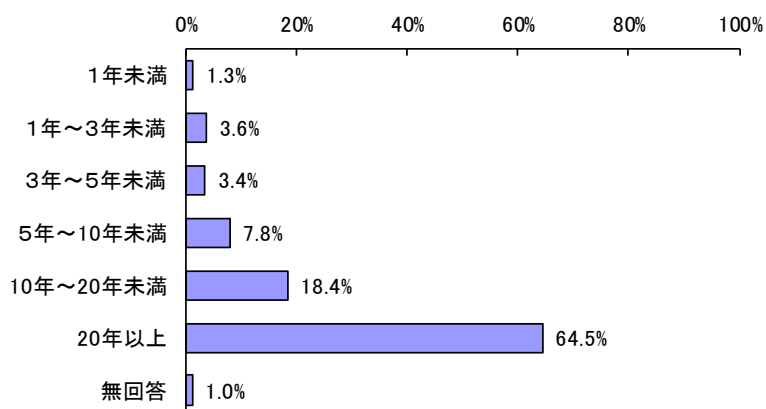


(3) 居住年数

問3 あなたは八王子市に住まわれて何年ですか。

n=1266

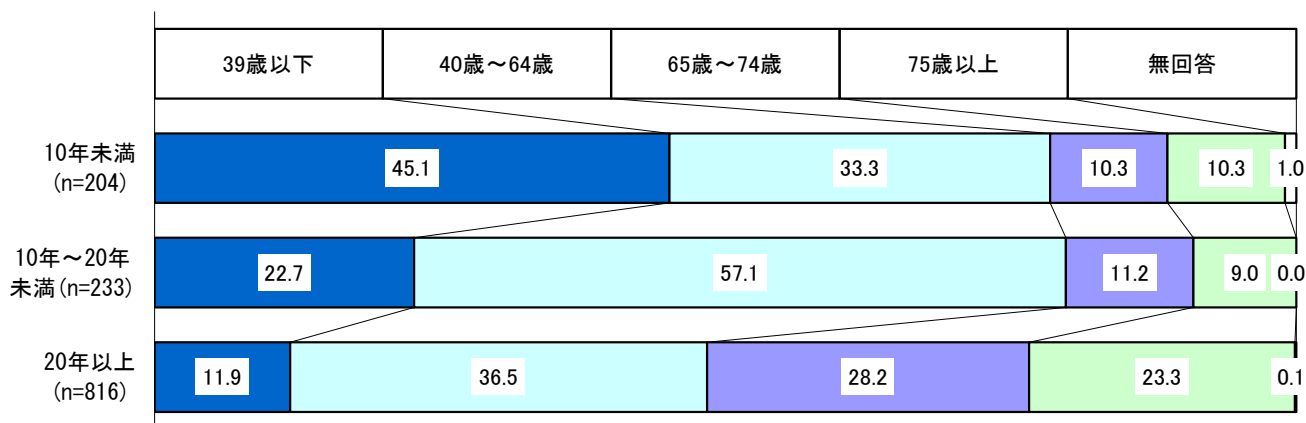
「20年以上」の割合が64.5%と最も高く、次いで「10年～20年」の割合が18.4%、「5年～10年」の割合が7.8%などとなっています



■ 居住年数別にみた年齢

居住年数の回答を10年未満と、10～20年未満、20年以上にまとめ、それぞれを年齢別に見たところ、居住年数が短いほど「39歳以下」が高く、「40歳～64歳」では10年～20年未満の占める割合が高く、「65歳以上」では20年以上が高くなる結果となっています。

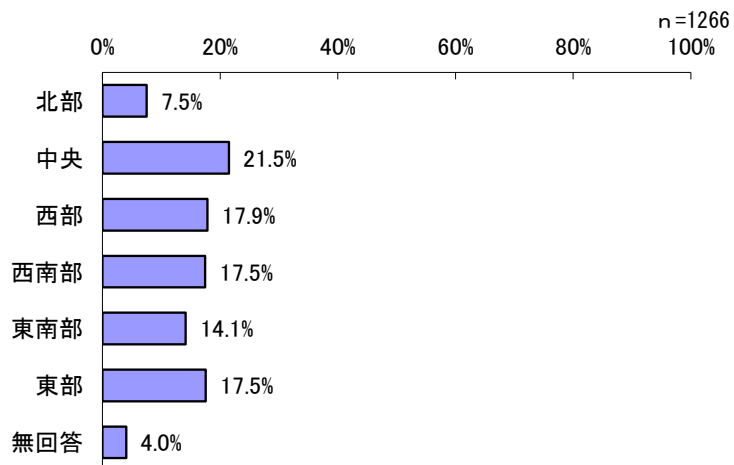
単位：%



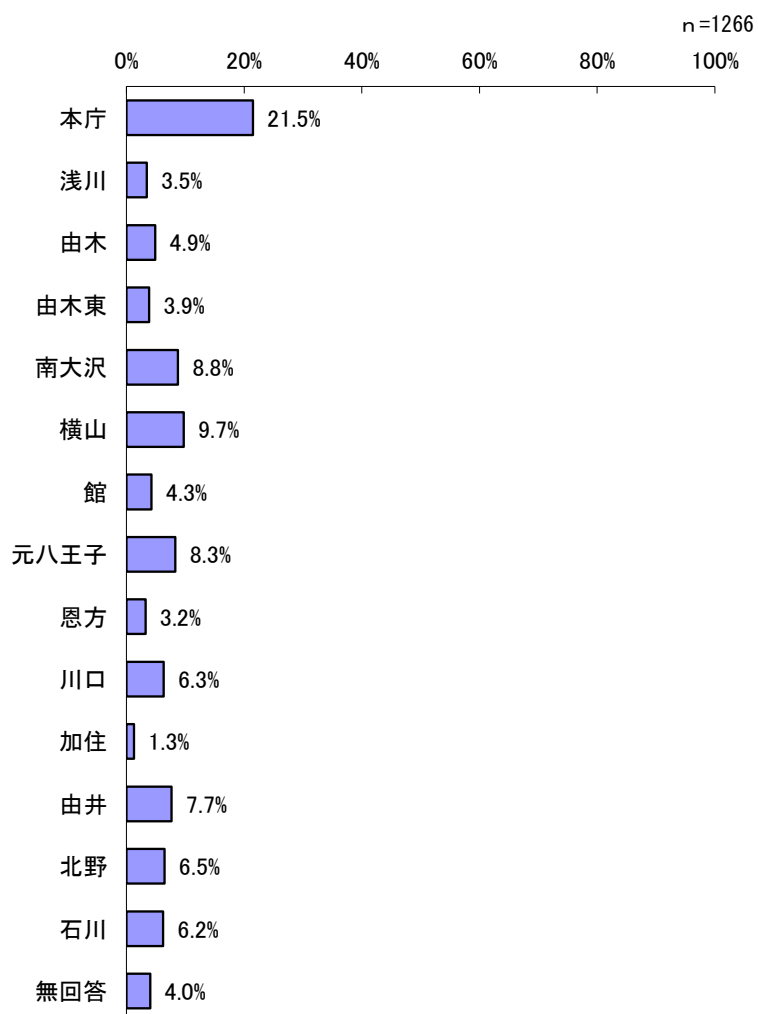
(4) 居住地区

問4 あなたのお住まいの町（住所で八王子市の次に来るもの）はどちらですか。

■ 6 圏域（「八王子ゆめおりプラン」（八王子市基本構想・基本計画等）による分類）



■ 14 圏域（かつての事務所の管轄区域による分類）



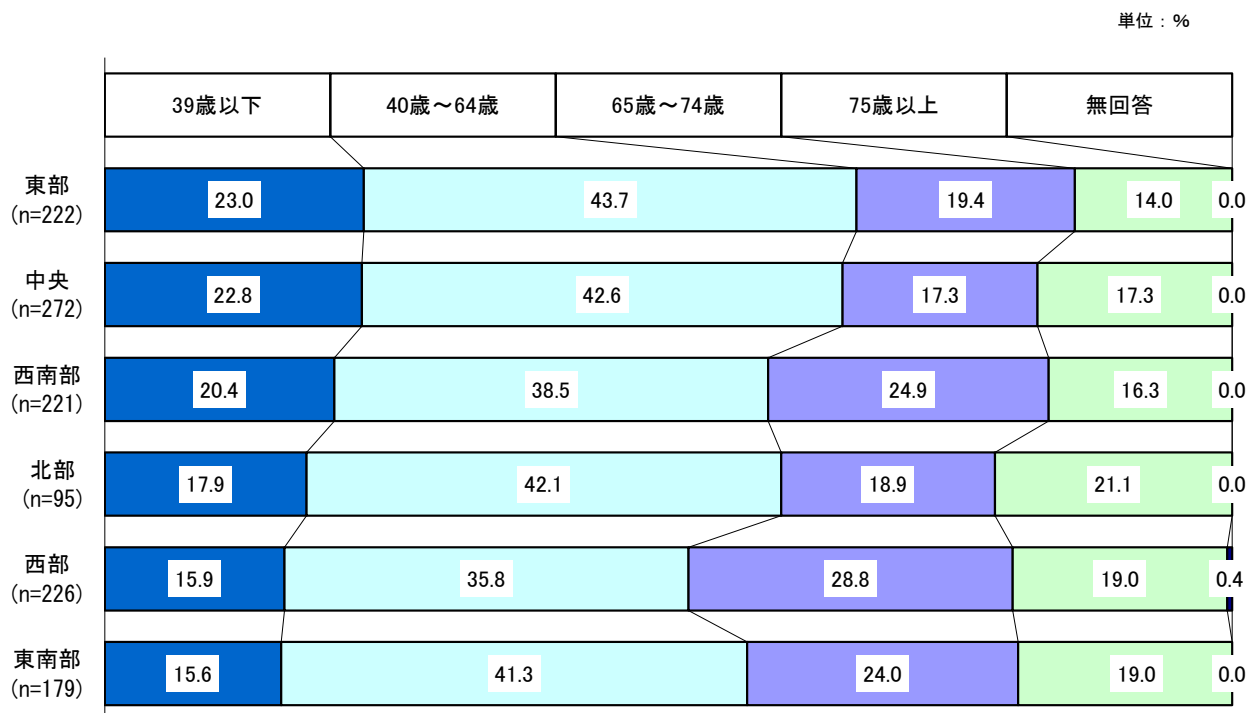
【住所の区分について】

6圏域	14 圏域	町丁目
中央	本庁	横山町・八日町・八幡町・八木町・追分町・千人町（一丁目～四丁目）・日吉町・元本郷町（一丁目～四丁目）・平岡町・本郷町・大横町・本町・元横山町（一丁目～三丁目）・田町・新町・明神町（一丁目～四丁目）・子安町（一丁目～四丁目）・東町・旭町・三崎町・中町・南町・寺町・万町・上野町・天神町・南新町・小門町・台町（一丁目～四丁目）・中野町・暁町（一丁目～三丁目）・中野山王（一丁目～三丁目）・中野上町（一丁目～五丁目）・大和田町（一丁目～七丁目）・富士見町・緑町・清川町
西南部	浅川	東浅川町・初沢町・高尾町・南浅川町・西浅川町・裏高尾町・廿里町
	横山	並木町・散田町（一丁目～五丁目）・山田町・めじろ台（一丁目～四丁目）・長房町・城山手（一丁目・二丁目）・狭間町
	館	梶田町・館町・寺田町・大船町
東部	由木	下柚木・下柚木（二丁目・三丁目）・上柚木・上柚木（二丁目・三丁目）・中山・越野・南陽台（一丁目～三丁目）・堀之内・堀之内（二丁目・三丁目）
	由木東	東中野・大塚・鹿島・松が谷
	南大沢	鑑水・鑑水二丁目・南大沢（一丁目～五丁目）・松木・別所（一丁目・二丁目）
西部	元八王子	大楽寺町・上壱分方町・諏訪町・四谷町・叶谷町・泉町・横川町・弐分方町・川町・元八王子町（一丁目～三丁目）
	恩方	下恩方町・上恩方町・西寺方町・小津町
	川口	川口町・上川町・犬目町・檜原町・美山町
東南部	由井	小比企町・片倉町・西片倉（一丁目～三丁目）・宇津貫町・みなみ野（一丁目～六丁目）・兵衛（一丁目・二丁目）・七国（一丁目～六丁目）
北部	加住	尾崎町・左入町・滝山町（一丁目・二丁目）・梅坪町・谷野町・みつ台（一丁目・二丁目）・丹木町（一丁目～三丁目）・加住町（一丁目・二丁目）・宮下町・戸吹町・高月町
	北野	北野町・打越町・北野台（一丁目～五丁目）・長沼町・絹ヶ丘（一丁目～三丁目）
	石川	高倉町・石川町・宇津木町・平町・小宮町・久保山町（一丁目・二丁目）・大谷町・丸山町

※分析の視点としては、回収数等の関係から、主に6圏域による分析を行います。

■地域別にみた年齢

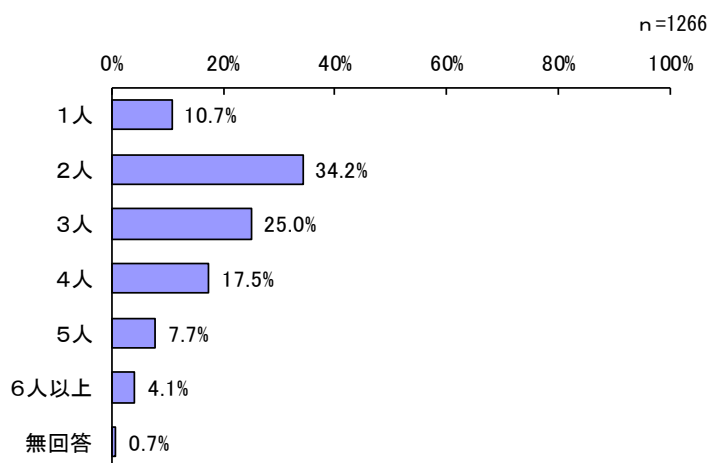
地域での回答を市内6地区に分けてそれぞれを年齢別に見たところ、東部、中央は「39歳以下」の回答者が高く、西部、東南部では「65歳以上」が高くなっていることがわかります。



(5) 同居人数

問5 あなた自身も含めて、一緒に住んでいるのは何人ですか。

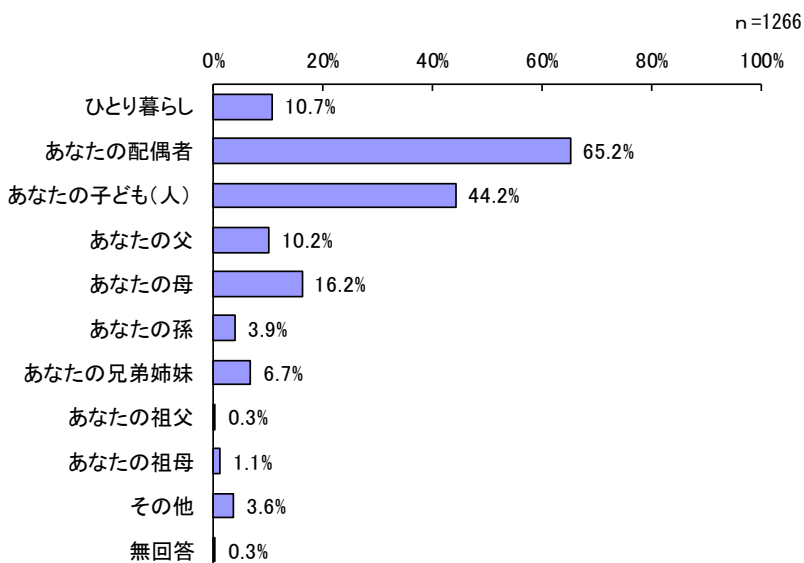
「2人」の割合が34.2%と最も高く、次いで「3人」の割合が25.0%、「4人」の割合が17.5%などとなっています。



(6) 同居者

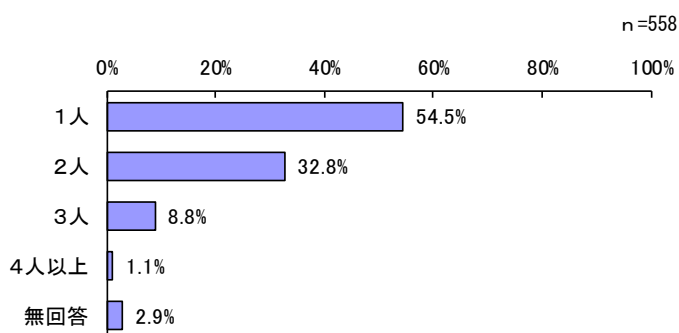
問6 あなたと一緒に住んでいるのはどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

「あなたの配偶者」の割合が65.2%と最も高く、次いで「あなたの子ども」の割合が44.2%、「あなたの母」の割合が16.2%などとなっています。



◇子どもの人数

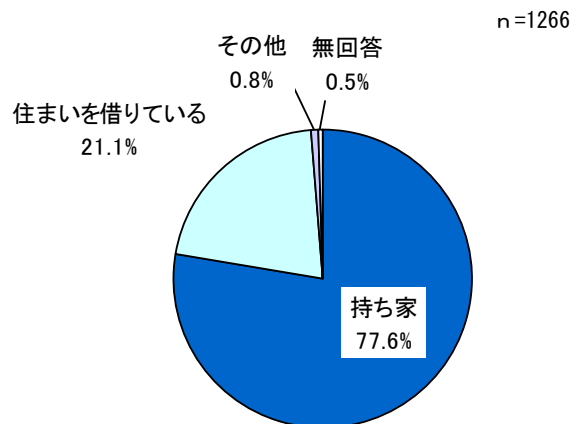
「あなたの子ども」と回答した人の子どもの人数は、「1人」の割合が54.5%と最も高く、次いで「2人」の割合が32.8%、「3人以上」の割合が8.1%などとなっています。



(7) 住まい

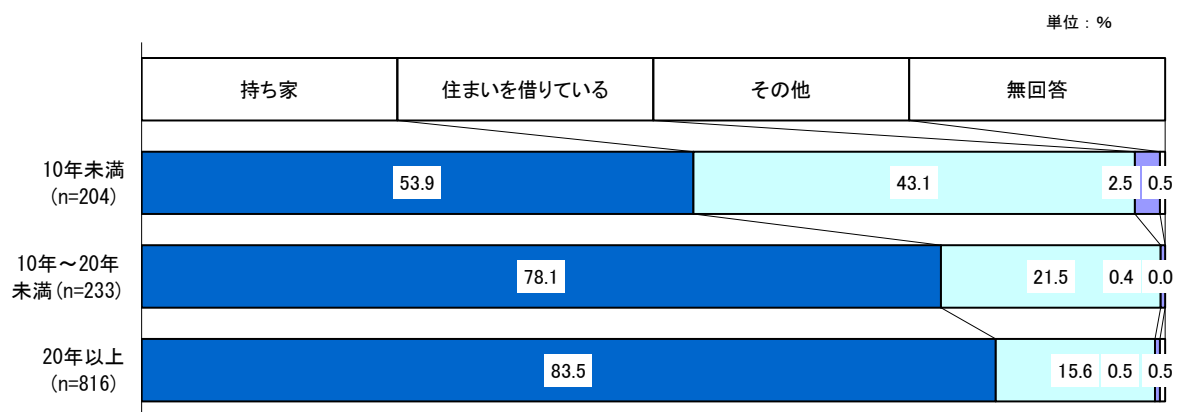
問7 あなたのお住まいは次のうちどれですか。(〇はひとつ)

「持ち家」の割合が77.6%、「住まいを借りている」の割合が21.1%などとなっています。



■ 居住年数別にみた傾向

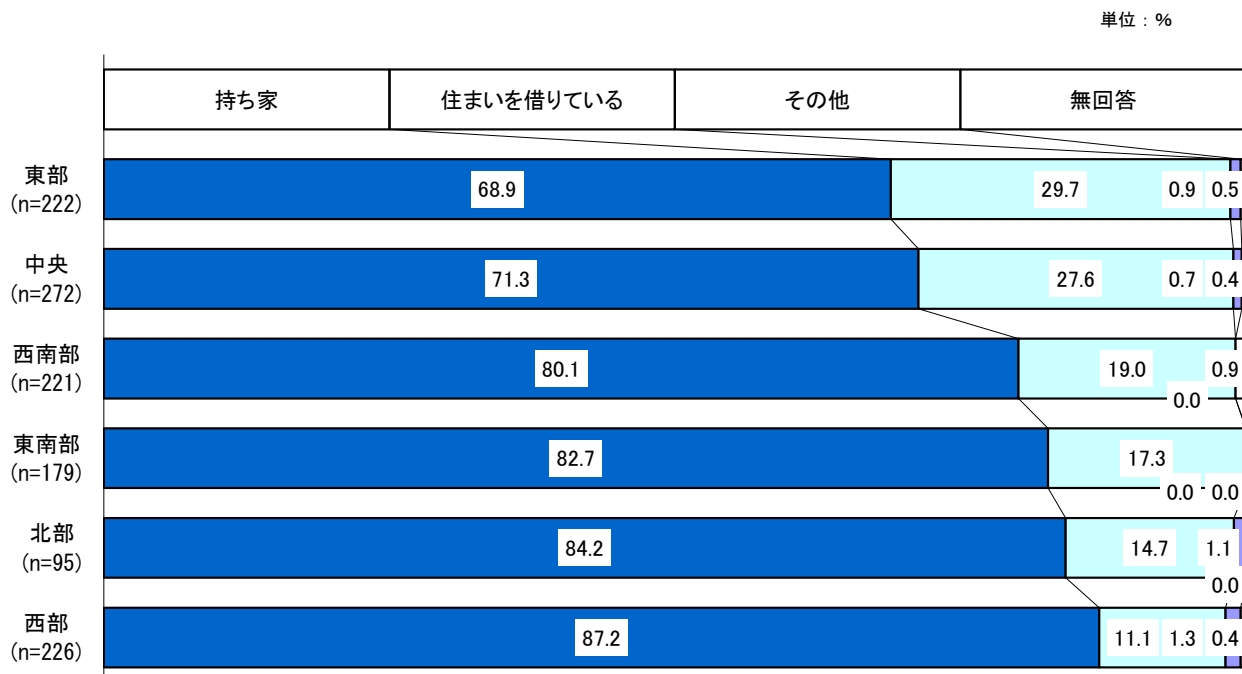
居住年数が長くなるにつれ、「持ち家」との回答が高くなっていることがわかります。



■地区別に見た傾向

東部、中央では「持ち家」の割合は7割前後にとどまっており、それに伴って、「住まいを借りている」人の割合が高くなっています。

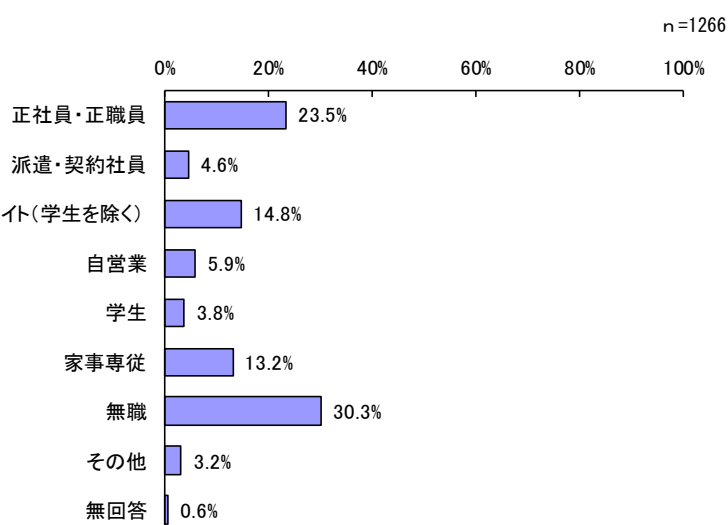
西部では、「持ち家」の回答が最も高くなっています。



(8) 職業

問8 あなたの職業は次のうちどれですか。(○はひとつ)

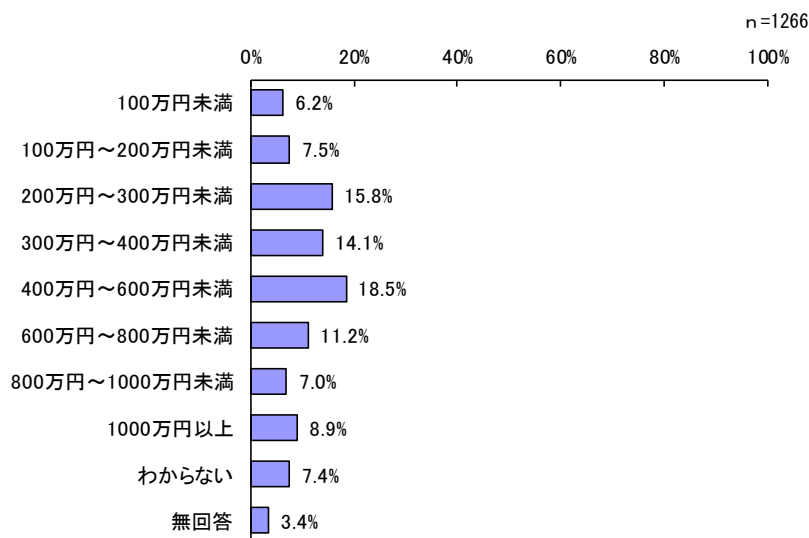
「無職」の割合が30.3%と最も高く、「正社員・正職員」の割合が26.3%、次いで「家事専従」の割合が16.3%などとなっています。



（９）年収

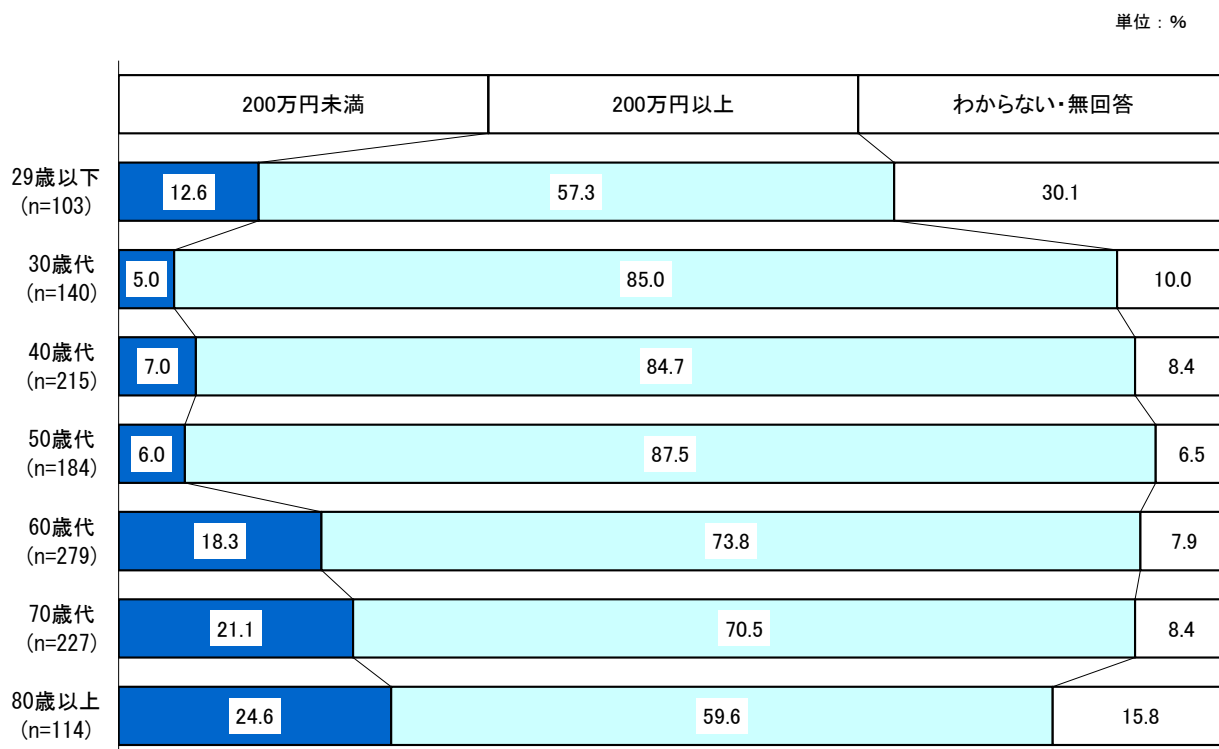
問 9 あなたの世帯の昨年の総収入は次のうちどれですか。（○はひとつ）

「400～600 万円未満」の割合が 18.5%と最も高く、「200～300 万円未満」の割合が 15.8%、次いで「300～400 万円未満」の割合が 14.1%などとなっています。



■年齢別に見た傾向

退職後が含まれる 60 歳以上の方で 200 万円未満の回答者の割合が高くなっています。



2. 地域での暮らしについて

(1) 地域の認識

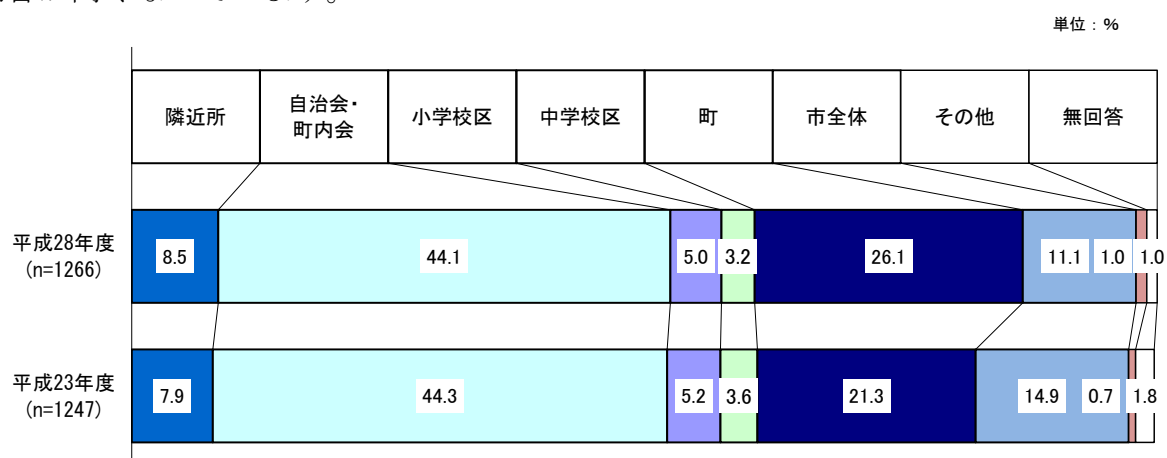
問 10 あなたは、地域という言葉聞いたとき、どの範囲を思い浮かべますか。

(○はひとつ)

■経年変化

「自治会・町内会」の割合が 44.1%と最も高く、次いで「町」、「市全体」などとなっています。

前回調査と比較すると、今回の調査では「市全体」の割合が低くなり、一方で、「町」の割合が高くなっています。



■年齢別に見た傾向

70 歳以上では「町会・自治会」が、さらに 80 歳以上では「隣近所」が全体より高い一方、50 歳代と 29 歳以下では「町」、さらに 29 歳以下では「市全体」との回答が高くなっています。

(単位：%)	隣近所	町会・自治会	小学校区	中学校区	町	市全体	その他	無回答
全体(n=1266)	8.5	44.1	5.0	3.2	26.1	11.1	1.0	1.0
29 歳以下(n=103)	3.9	31.1	3.9	7.8	35.0	16.5	1.9	0.0
30 歳代(n=140)	5.7	39.3	5.7	4.3	30.0	13.6	0.0	1.4
40 歳代(n=215)	7.0	41.4	9.8	5.1	22.8	12.1	1.4	0.5
50 歳代(n=184)	8.2	35.9	6.0	3.8	33.2	12.5	0.5	0.0
60 歳代(n=279)	7.9	48.7	4.3	2.5	24.7	9.3	1.8	0.7
70 歳代(n=227)	9.7	52.9	2.2	0.4	23.3	8.8	0.9	1.8
80 歳以上(n=114)	18.4	52.6	1.8	0.9	17.5	6.1	0.0	2.6

■地区別に見た傾向

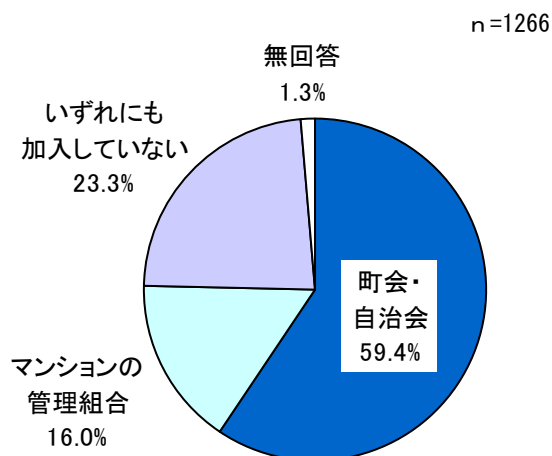
中央、西部では「町会・自治会」との回答が、東部では「小学校区」、「町」との回答が高くなっています。

(単位: %)	隣近所	町会・自治会	小学校区	中学校区	町	市全体	その他	無回答
全体(n=1266)	8.5	44.1	5.0	3.2	26.1	11.1	1.0	1.0
北部(n=95)	12.6	41.1	0.0	2.1	30.5	12.6	0.0	1.1
中央(n=272)	8.8	50.4	4.8	1.8	20.2	12.9	0.7	0.4
西部(n=226)	8.0	49.6	4.0	4.4	25.7	6.6	1.8	0.0
西南部(n=221)	8.6	45.2	3.2	3.2	29.0	8.6	0.9	1.4
東南部(n=179)	6.1	44.7	5.6	3.4	27.4	12.3	0.6	0.0
東部(n=222)	7.7	30.6	10.8	4.5	31.1	13.1	0.9	1.4
全体(n=1266)	8.5	44.1	5.0	3.2	26.1	11.1	1.0	1.0

(2) 自治会等への加入状況

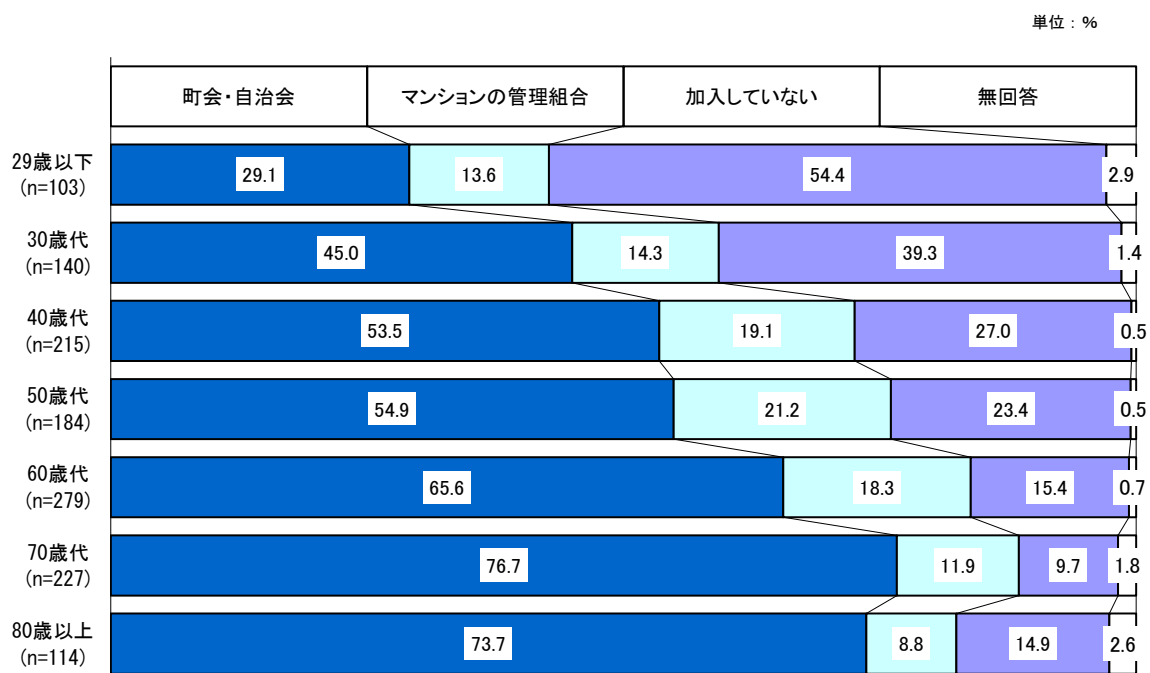
問 11 あなたは以下のどの組織に加入していますか。(○はひとつ)

「町会・自治会」の割合は 59.4%、「マンションの管理組合」の割合は 16.0%、「いずれにも加入していない」の割合は 23.3%となっています。



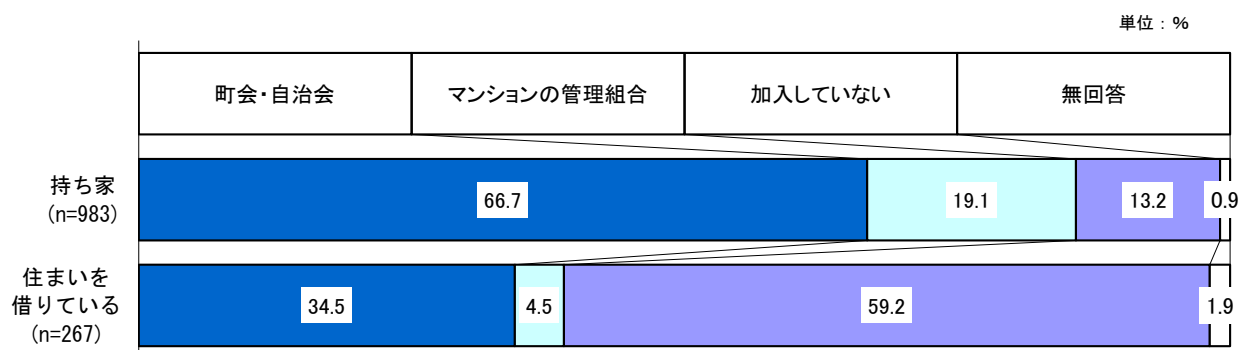
■年齢別に見た傾向

「町会・自治会」は 70 歳代となるまで、年代が上がるにつれ回答が高くなり、それに伴って、「加入していない」との回答が低くなっていることがわかります。80 歳以上では、70 歳代に比べるとやや低くなっているものの、その他の世代に比べても高くなっています。



■住まい別に見た傾向

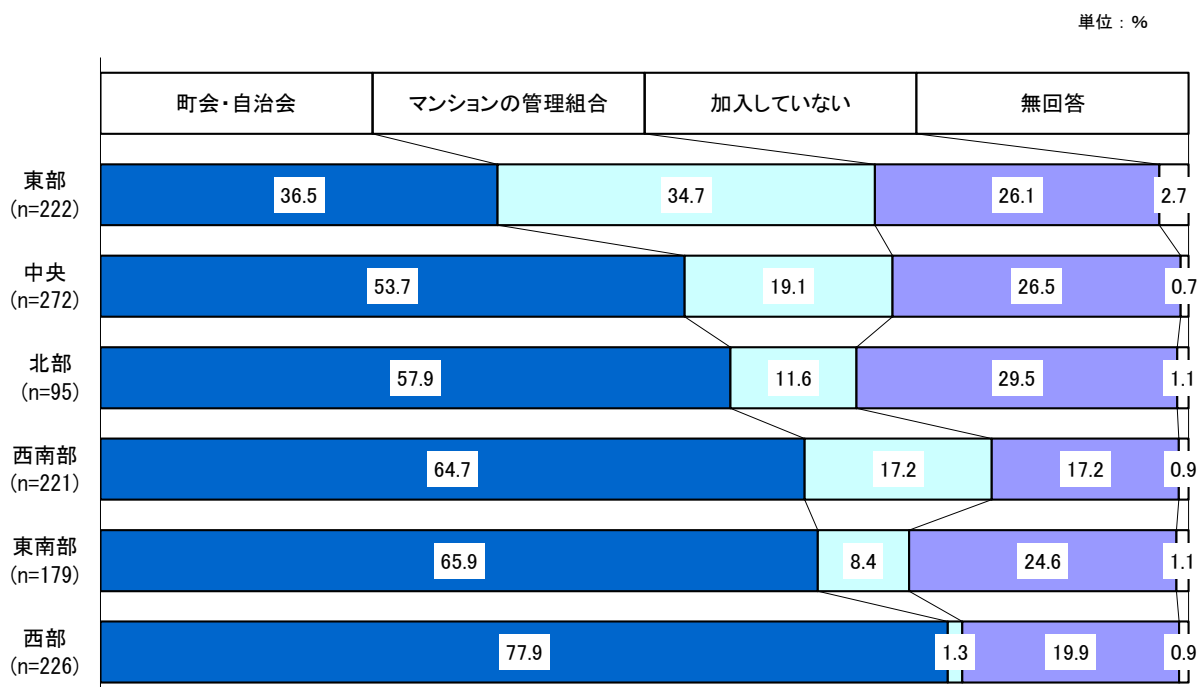
持ち家の人に比べ、住まいを借りている人は「町会・自治会」または「マンションの管理組合」のいずれも回答の割合が低く、それに伴い「加入していない」との回答が高くなっています。



■地区別に見た傾向

「町会・自治会」は、西部で77.9%と最も高くなっており、東部が36.5%と最も低くなっていますが、「マンションの管理組合」との回答では東部が34.7%で最も高くなっています。

「町会・自治会」と「マンションの管理組合」を併せた『加入している』との回答は、いずれの地区も7割前後かそれ以上と大きな差は見られません。



(3) 地域での暮らしやすさ

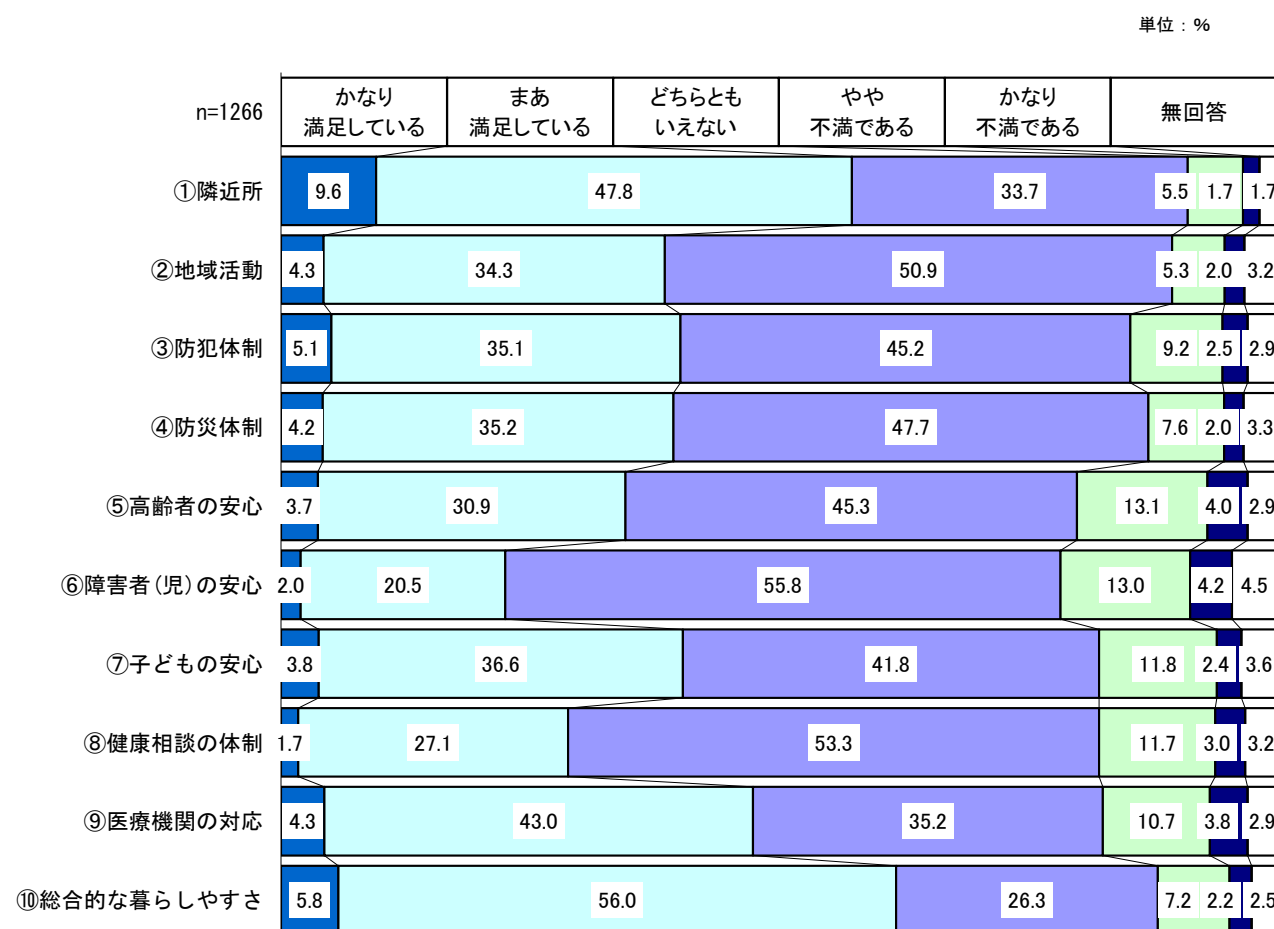
問 12 あなたが現在お住まいの地域での暮らしやすさについて、どの程度満足していますか。(項目ごとに○はひとつ)

総合的な満足度となる「⑩総合的な暮らしやすさ」では、「かなり満足している」と「まあ満足している」をあわせた『満足』している人の割合が約6割となっています。地域の様子を示す、「①隣近所」では6割近くの方が『満足』と回答されていますが、「②地域活動」では「満足」との回答は4割弱です。

防犯や防災については、「③防犯体制」「④防災体制」とともに、「満足」との回答は4割程度です。

対象者に限定してみると、「⑦子どもの安心」での「満足」が4割程度となっているものの、「⑤高齢者の安心」「⑥障害者（児）の安心」も、いずれも「どちらともいえない」が最も高く、中でも「⑥障害者（児）の安心」の『満足』との回答は10項目で最も低く2割を超えた程度にとどまっています。

保健や医療の面では、「⑨医療機関の対応」での『満足』は5割弱となっていますが、「⑧健康相談の体制」は『満足』との回答は3割台にとどまっています。



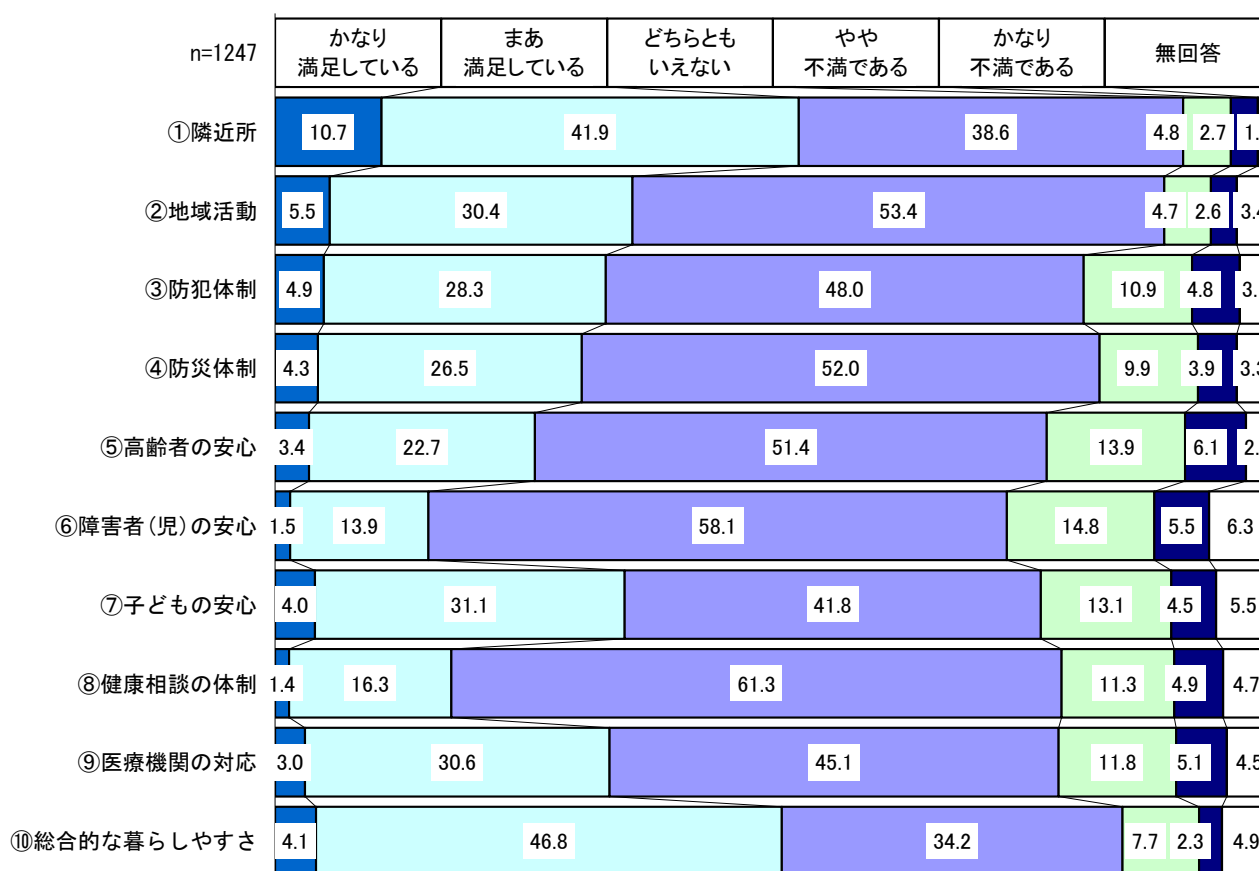
■経年変化

経年変化をみると、すべての項目で、前回の調査に比べ『満足』との回答が高くなっており、『不満』との回答が低くなっていることが分かります。中でも「⑨医療機関の対応」は『満足』が大きく伸び、「④防災体制」では『不満』が大きく減っています。

市全体の「⑩総合的な暮らしやすさ」については『満足』の伸びは高いものの、「不満」の減少はわずかでした。また、地域については「①隣近所」「②地域活動」とともに10項目の中ではもっとも動きが小さく、ほぼ前回同様の結果となっていることが分かります。

◇平成 23 年度調査

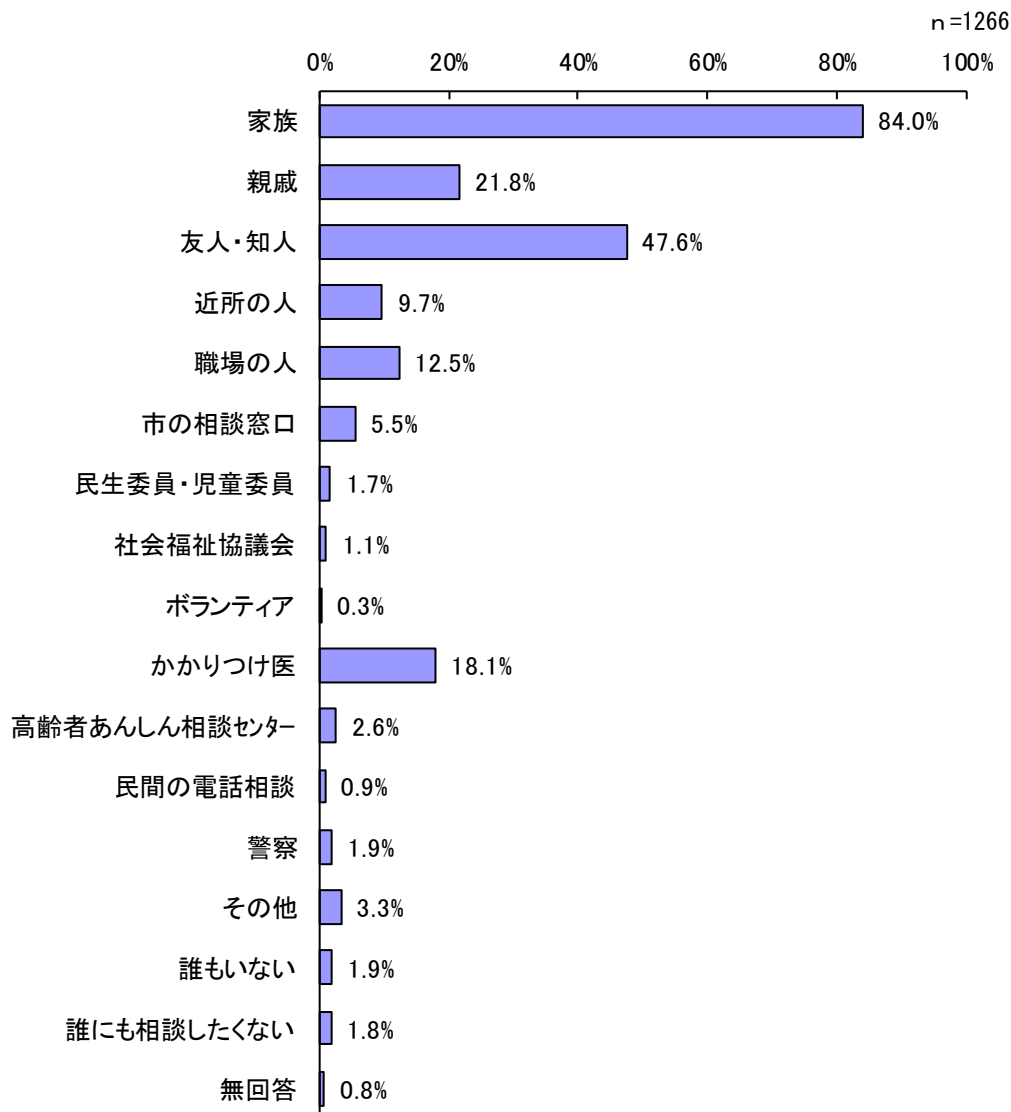
単位：％



(4) 困ったときの相談相手

問 13 あなたに悩みや不安があったり生活に困ったりした時などには、誰に相談していますか。(あてはまるものすべてに○)

「家族」との回答が84.0%と非常に高く、次いで、「友人・知人」、「親戚」、「かかりつけ医」、「職場の人」などとなっています。



■年齢別に見た傾向

40歳代以下では、「友人・知人」、「職場の人」との回答が高くなっています。また、30歳代では「家族」との回答も高くなっています。

60歳代では「近所の人」が、70歳代では「かかりつけ医」がそれぞれ高くなっています。80歳以上では、「近所の人」や「かかりつけ医」に加え、「民生委員・児童委員」や「高齢者あんしん相談センター」が高く、また、「市の相談窓口」や「社会福祉協議会」、「警察」では各年代で最も高い回答となっており、様々なつながりができていることがうかがえます。

(単位: %)	家族	親戚	友人・知人	近所の人	職場の人	市の相談窓口	民生委員・児童委員	社会福祉協議会	ボランティア	かかりつけ医	高齢者あんしん相談センター	民間の電話相談	警察	その他	誰もいない	誰にも相談したくない	無回答
全体 (n=1266)	84.0	21.8	47.6	9.7	12.5	5.5	1.7	1.1	0.3	18.1	2.6	0.9	1.9	3.3	1.9	1.8	0.8
29歳以下 (n=103)	83.5	6.8	68.0	2.9	18.4	1.9	0.0	0.0	0.0	3.9	0.0	1.9	0.0	3.9	0.0	3.9	0.0
30歳代 (n=140)	89.3	19.3	65.0	7.9	26.4	3.6	0.0	1.4	0.0	12.9	0.7	0.0	2.1	3.6	1.4	2.1	0.0
40歳代 (n=215)	87.9	17.2	58.1	5.6	21.4	4.7	0.0	0.0	0.0	8.4	0.5	0.5	0.5	5.1	0.9	2.3	0.9
50歳代 (n=184)	83.2	18.5	47.8	4.9	16.8	6.5	1.1	1.1	0.5	14.7	1.6	2.7	2.2	2.2	1.1	1.1	1.1
60歳代 (n=279)	82.8	30.5	44.1	14.7	9.0	6.8	1.4	1.4	0.4	18.6	2.2	0.0	2.2	1.4	2.5	1.8	0.4
70歳代 (n=227)	83.3	26.4	34.8	11.9	0.0	5.3	2.6	0.9	0.9	33.5	4.8	0.9	2.6	2.6	2.6	1.3	0.4
80歳以上 (n=114)	78.9	22.8	21.9	17.5	0.0	8.8	8.8	3.5	0.0	29.8	9.6	0.9	3.5	6.1	4.4	0.0	2.6

(5) 近所づきあいの実際と希望

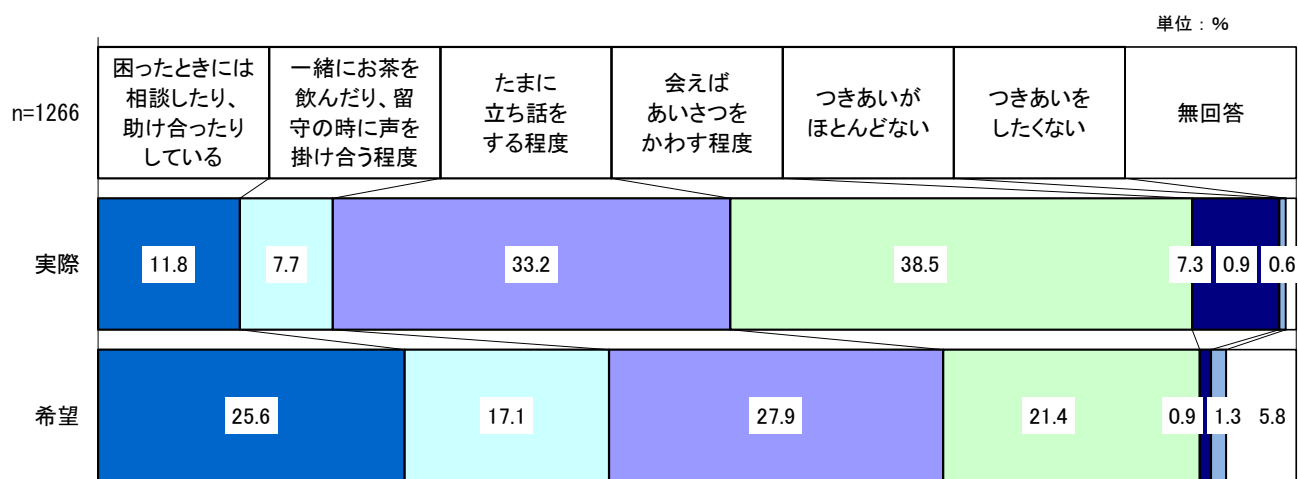
問 14 あなたは、日頃、隣近所とどのようなつきあい方をしていますか。(○はひとつ)

問 15 今後、隣近所とはどのようなつきあい方を望んでいますか。

(問 14 の選択肢の番号からひとつ選んで、番号を下の□に記入してください)

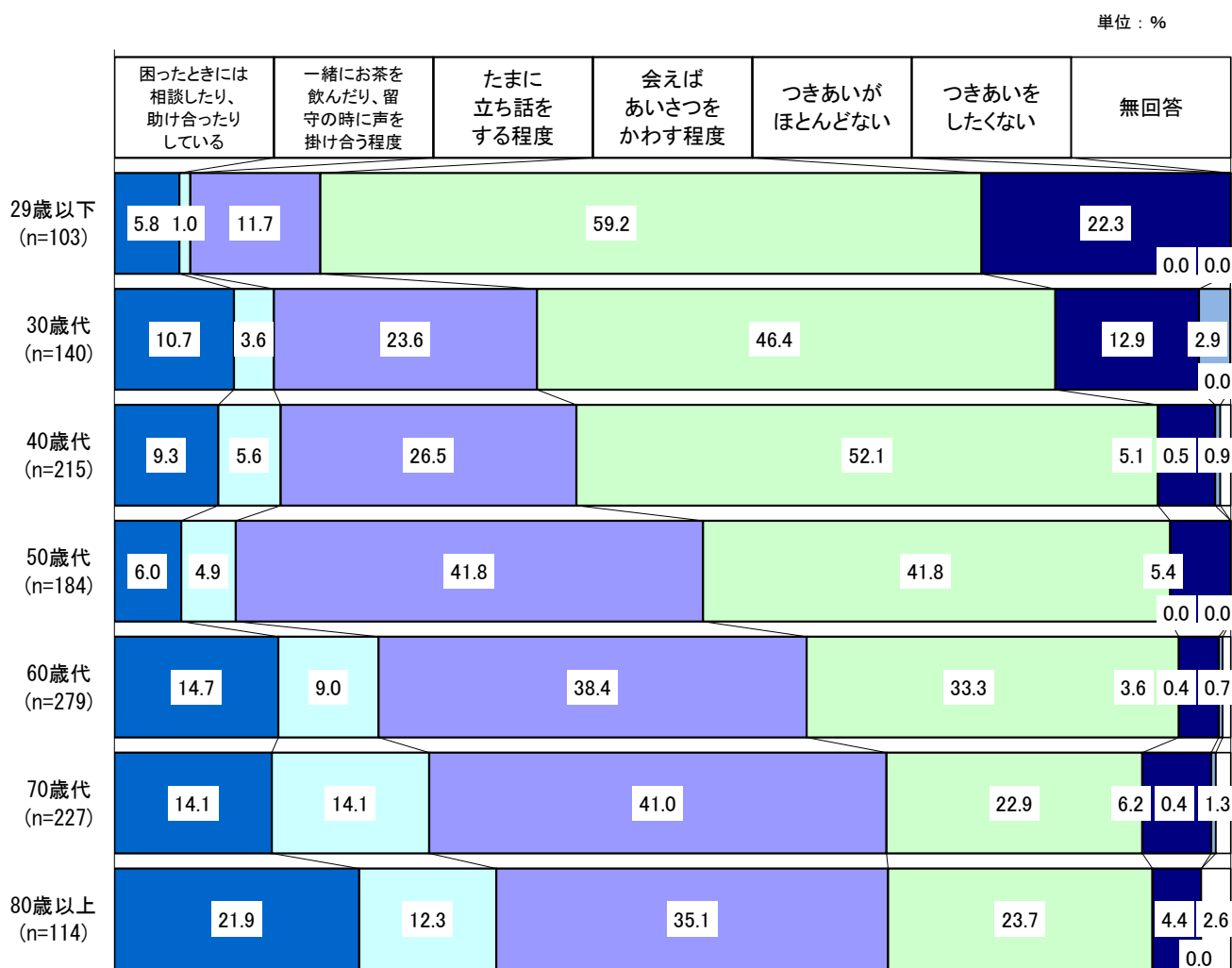
日頃のつきあい方の「実際」については、「会えばあいさつをかわす程度」との回答が 38.5%と最も高く、次いで「たまに立ち話をする程度」となっており、この2項目で全体の7割を超える回答となっています。

一方、日頃のつきあい方の「希望」については、「たまに立ち話をする程度」との回答が 27.4%と最も高いものの、「困ったときには相談したり、助け合ったりしている」や「一緒にお茶を飲んだり、留守の時に声を掛け合う程度」については現実よりも回答が高くなっています。



■年齢別に見た「実際」の傾向

つきあい方の「実際」について、年齢別に見たところ、29歳以下では「会えばあいさつをかわす程度」が59.2%と高く、「つきあいがほとんどない」と併せると約8割がそのような近所づきあいをしているとの回答がみられます。世帯を持つ傾向が高まる30歳代から「たまに立ち話をする程度」との傾向が高くなり、60歳代から上の世代では、「困ったときには相談したり、助け合ったりしている」や「一緒にお茶を飲んだり、留守の時に声を掛け合う程度」との回答が高くなる傾向がみられます。

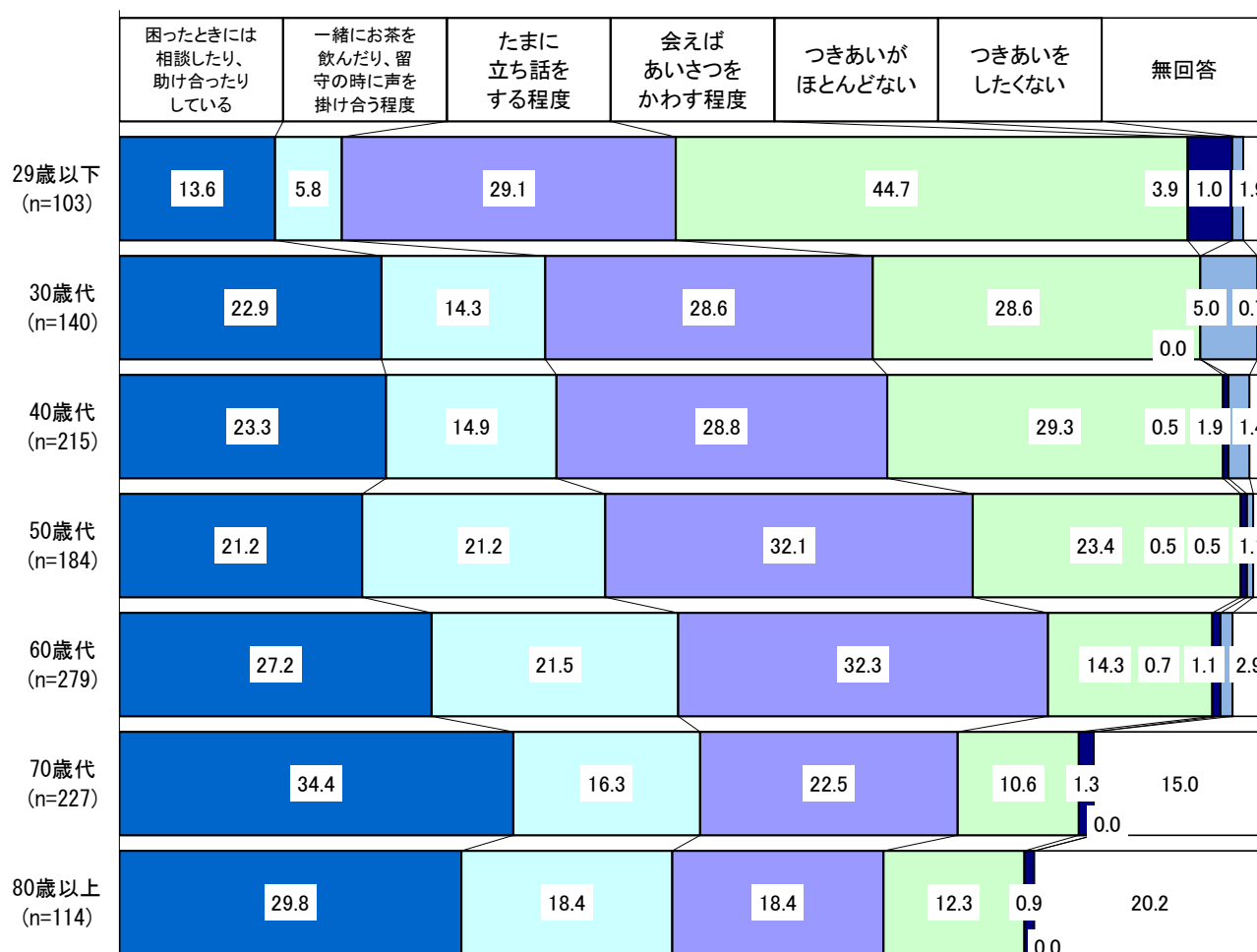


■年齢別に見た「希望」の傾向

つきあい方の理想について、年齢別に見たところ、「実際」の傾向と同じように、おおよそ年代が上がるにつれて、「会えばあいさつを交わす程度」との回答が低くなるなどの傾向がみられます。

また、全体の傾向と同じように「困ったときには相談したり、助け合ったりしている」や「一緒にお茶を飲んだり、留守の時に声を掛け合う程度」との回答はどの世代でも「実際」の回答よりも高い傾向がみられます。

単位：％



■「実際」と「希望」の重なり

<下の表の見方>

以下の表は、近所づきあいの「実際」と「希望」についての重なり具合を見たものです。表の見方としては、表側側が近所づきあいの「実際」についての回答、表頭側が「希望」についての回答を表し、その二つの回答を行った人が全体のどの程度の割合がいるかを%で示してあります。

例えば、近所づきあいでは、「実際」には「会えばあいさつをかわす程度」の人は、前のページで述べたように全体の38.5%となっています。また、「希望」として、「困った時には相談したり、助け合ったりしている」関係を望んでいると回答された方は25.6%です。

この2つを回答した、つまり、「実際」には「会えばあいさつをかわす程度」だが、「希望」としては「困った時には相談したり、助け合ったりしている」関係を望んでいる人は、回答者数1266人を100%として見た場合、4.1%います、ということを示しています。

【「実際」と「希望」の重なるの表】

(n=1266、単位:%)	→ 「希望」 の回答	困った時には…	一緒にお茶を…	たまに立ち話…	会えばあいさつ…	ほとんどない	したくない
↓「実際」の回答		25.6	17.1	27.9	21.4	0.9	1.3
困った時には相談したり、助け合ったりしている	11.8	10.0	0.7	0.1	0.2	0.0	0.0
一緒にお茶を飲んだり、留守のときに声をかけあう程度	7.7	2.9	3.5	0.2	0.2	0.0	0.0
たまに立ち話をする程度	33.2	7.9	7.9	15.3	0.7	0.2	0.0
会えばあいさつをかわす程度	38.5	4.1	4.3	10.7	17.4	0.3	0.5
つきあいがほとんどない	7.3	0.7	0.6	1.6	2.8	0.5	0.5
つきあいをしたくない	0.6	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.3

この表を見ると、「実際」のつきあい方が「希望」のつきあい方と同じである（網掛けの部分）人は、全体の47.0%となっており、約半数の方はおよそ希望通りの近所づきあいが実際にできていると考えられます。

この網掛けの部分より左下にあたる部分は、「実際」のつきあい方より、「希望」としてはより濃いつきあい方を望んでいる方であると言えます。このような方は全体の44.0%となっています。

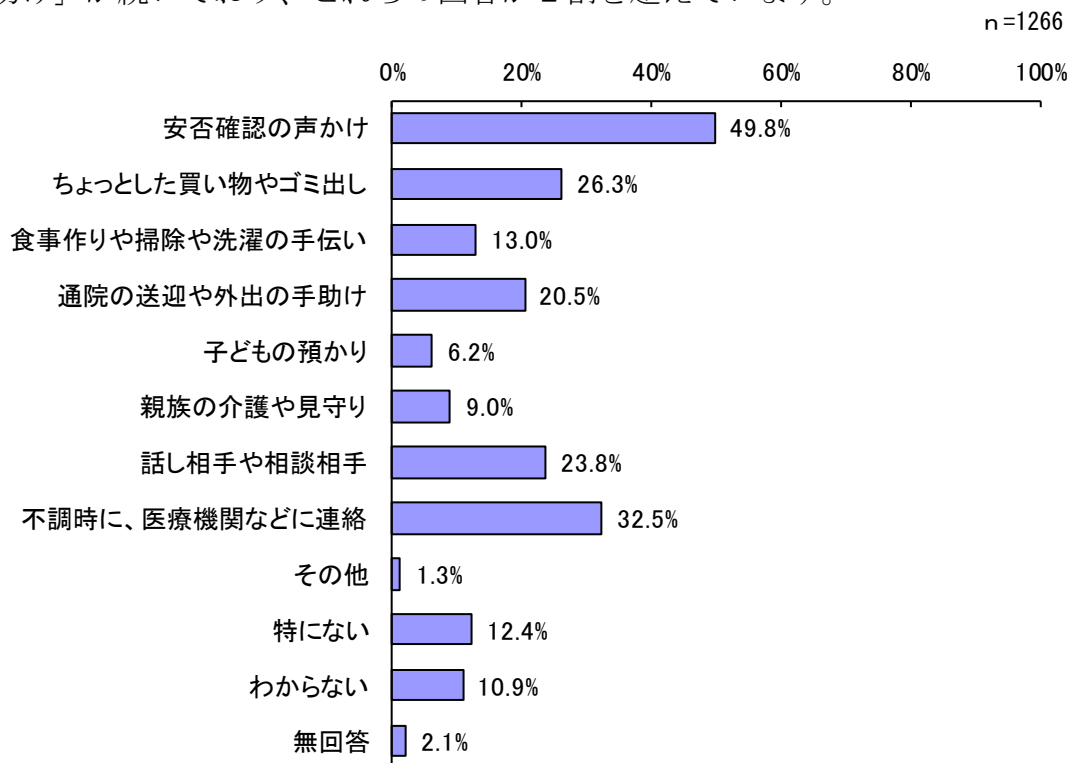
一方、網掛けの部分より右上にあたる部分は、「実際」のつきあい方より、「希望」としてはゆるいつきあい方を望んでいる方であると言えます。このような方は全体の3.4%となっています。

(6) 地域の人にしてほしいこと

問 16 あなたが、高齢や病気、事故などで、生活に困ったり日常生活が不自由になったりしたとき、地域の人にどのようなことをしてほしいですか。

(あてはまるものすべてに○)

「安否確認の声かけ」との回答が 49.8%と最も高く、次いで、「不調時に、医療機関などに連絡」、「ちょっとした買い物やゴミ出し」、「話し相手や相談相手」、「通院の送迎や外出の手助け」が続いており、これらの回答が2割を超えています。



■年齢別に見た傾向

「不調時に、医療機関などに連絡」では、29歳以下で42.7%と高くなっています。

「話し相手や相談相手」では、30歳代で29.3%と高くなっています。

「通院の送迎や外出の手助け」では、60歳代で25.8%と高くなっています。

「子供の預かり」では、30歳代が22.9%、40歳代が12.1%と高くなっています。

(単位: %)	安否確認の声かけ	ちょっとした買い物やゴミ出し	食事作りや掃除や洗濯の手伝い	通院の送迎や外出の手助け	子どもの預かり	親族の介護や見守り	話し相手や相談相手	不調時に、医療機関などに連絡	その他	特にない	わからない	無回答
全体(n=1266)	49.8	26.3	13.0	20.5	6.2	9.0	23.8	32.5	1.3	12.4	10.9	2.1
29歳以下(n=103)	44.7	21.4	11.7	14.6	9.7	4.9	23.3	42.7	1.0	12.6	16.5	0.0
30歳代(n=140)	48.6	24.3	12.9	16.4	22.9	7.9	29.3	27.9	0.7	13.6	10.7	0.0
40歳代(n=215)	52.1	25.6	12.6	20.5	12.1	10.7	27.4	31.6	2.3	9.8	11.6	0.0
50歳代(n=184)	52.2	22.3	6.5	14.7	2.2	10.3	20.1	29.9	0.5	12.5	14.1	0.5
60歳代(n=279)	53.8	31.2	14.3	25.8	2.2	7.2	25.4	32.3	1.1	14.3	10.4	0.7
70歳代(n=227)	49.3	28.6	16.7	24.2	0.0	9.7	18.9	34.4	1.8	10.1	10.6	4.8
80歳以上(n=114)	41.2	24.6	14.9	19.3	0.0	11.4	22.8	31.6	0.9	14.9	1.8	9.6

(7) 地域課題への取り組み

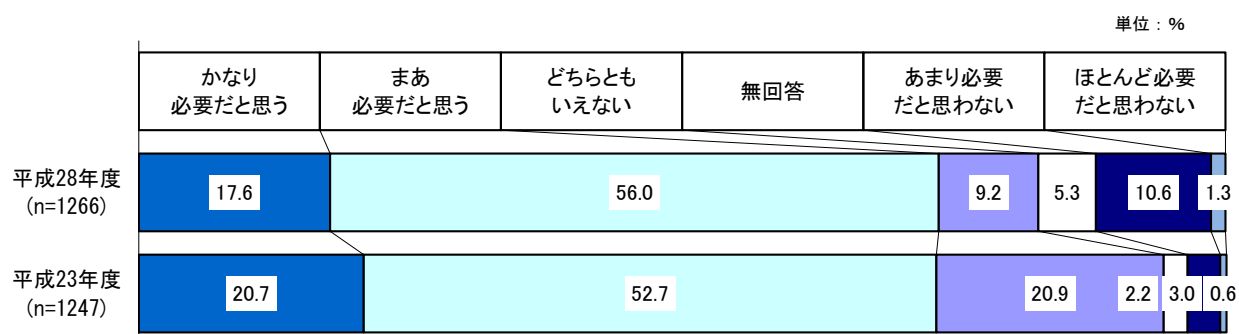
①地域課題と住民の協力

問 17 あなたは、地域でおきる生活上の問題に対して、住民相互の協力関係が必要だと思いますか。(〇はひとつ)

■経年変化

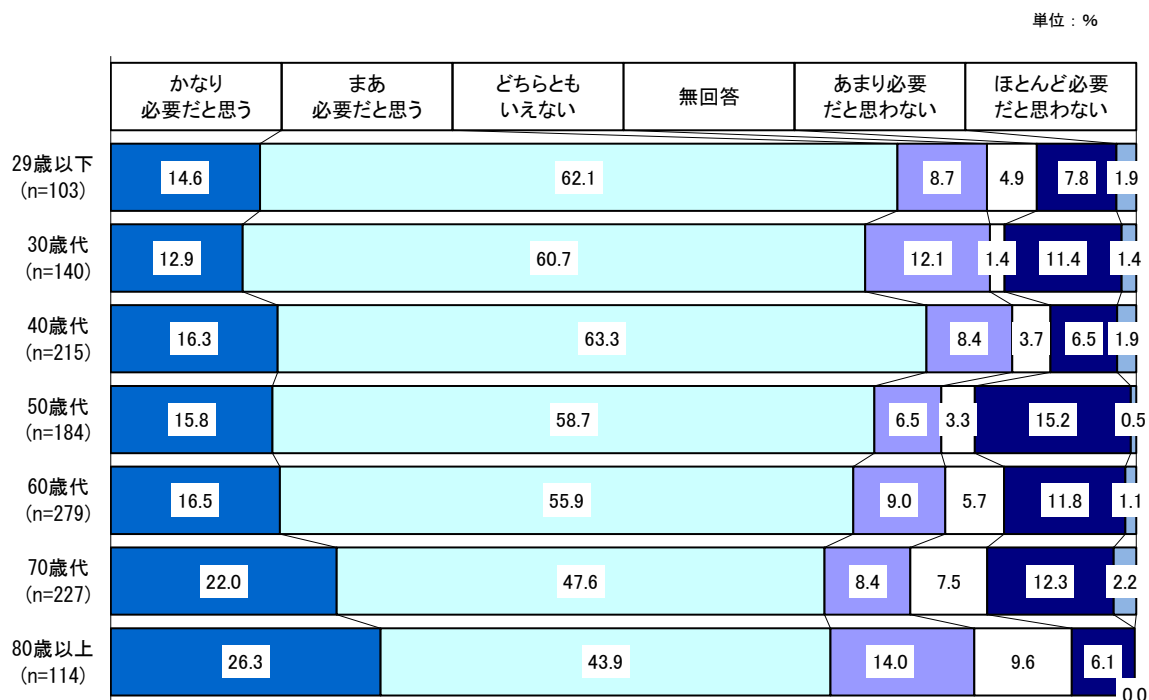
今回の調査では「かなり必要だと思う」と「まあ必要だと思う」を併せた『必要だと思う』は全体の73.6%となっています。「あまり必要だと思わない」と「ほとんど必要だと思わない」を併せた『必要だと思わない』は全体の11.9%です。

前回調査と比較すると『必要だと思う』層の割合はほとんど変わっていないものの、「どちらともいえない」との回答者数が低くなり、「あまり必要だと思わない」との回答者が高くなっています。



■年齢別に見た傾向

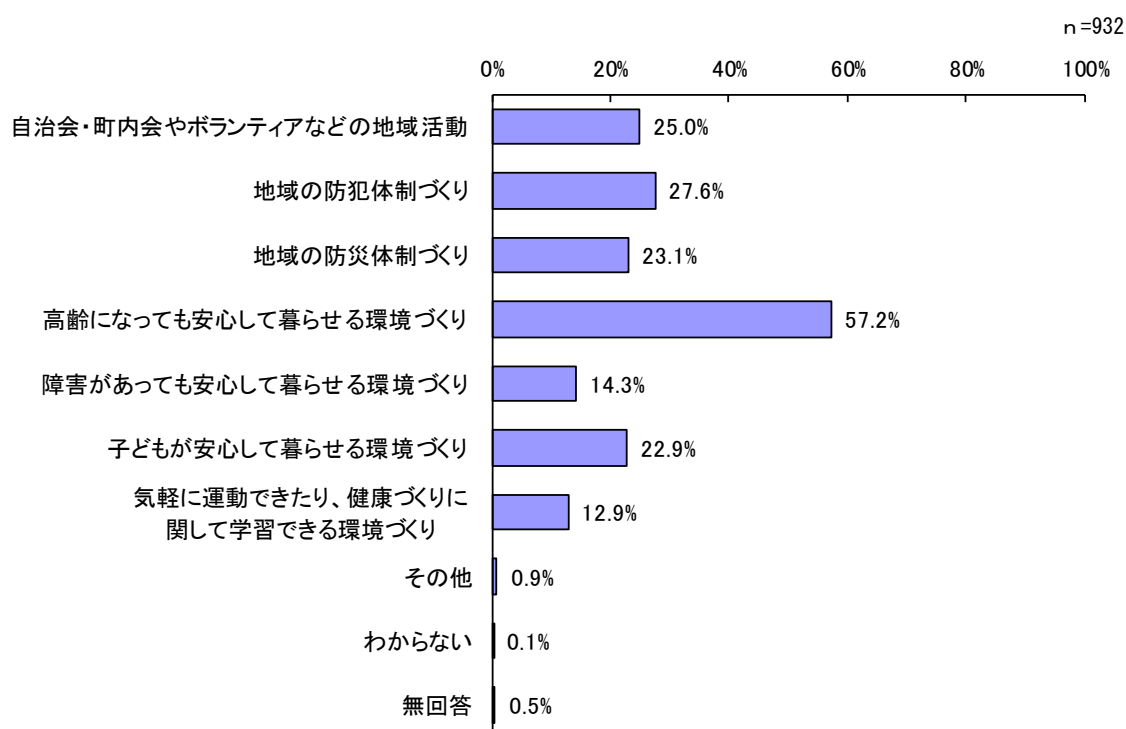
「かなり必要だと思う」との回答については、70 歳以上で 2 割台と高くなっています。
「かなり必要だと思う」と「まあ必要だと思う」を併せた『必要だと思う』については、40 歳代の 79.6% が最も高くなるなど、どの世代も 7 割前後かそれ以上という高い割合となっています。



②地域で必要な取り組み

問 17-1 (問 17 で「1. かなり必要だと思う」「2. まあ必要だと思う」に○をつけた方にお聞きします。) 地域の人たちが協力して、取り組んでいくことが特に必要なことは、どのようなことだと思いますか。(○は2つまで)

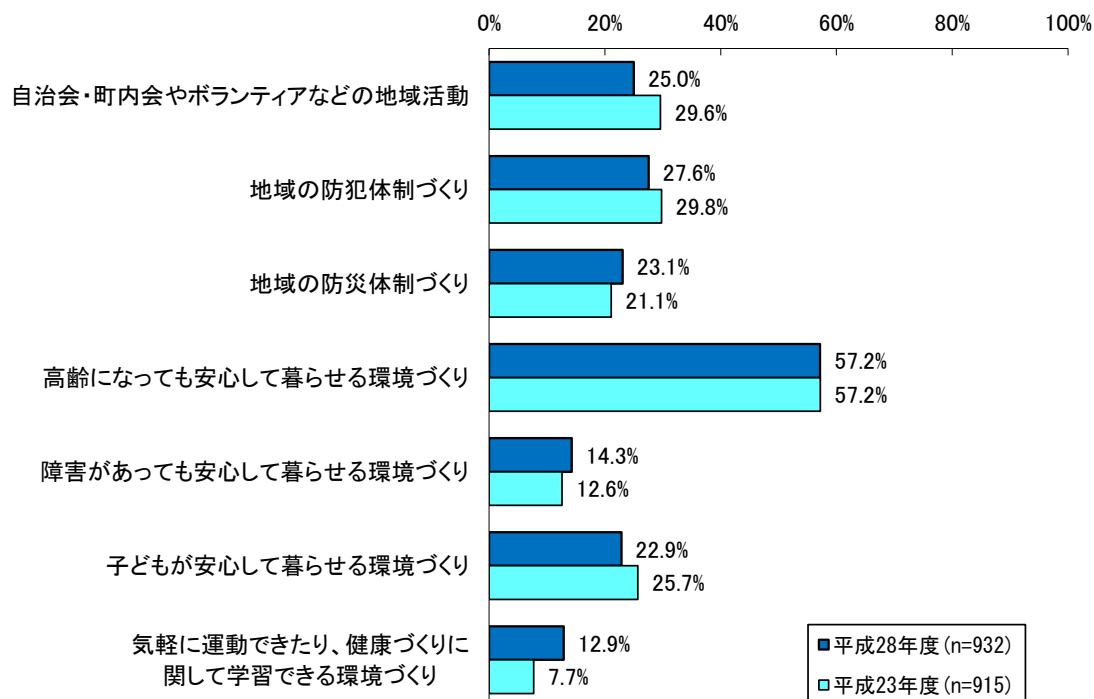
「高齢になっても安心して暮らせる環境づくり」が 57.2%と唯一半数を超えて高くなっています。次いで、「地域の防犯体制づくり」、「地域活動」、「地域の防災体制づくり」、「子どもが安心して暮らせる環境づくり」が続いており、これらの回答が2割を超えています。



■経年変化（参考）

この設問については選択肢の増減があったため、経年変化については参考として掲載します。

前回と同様のあった選択肢では、「気軽に運動できたり、健康づくりに関して学習できる環境づくり」が前回よりも高くなっています。



■年齢別に見た傾向

「自治会・町内会やボランティアなどの地域活動」、「高齢になっても安心して暮らせる環境づくり」、「気軽に運動できたり、健康づくりに関して学習できる環境づくり」の3項目に関しては、おおむね40歳代以下に比べ、60歳代や70歳代での回答が高くなっています。

一方、「地域の防犯体制づくり」、「地域の防災体制づくり」、「子どもが安心して暮らせる環境づくり」については、おおむね60歳以上に比べ、40歳代以下での回答が高くなっており、世代による意識の異なりが見られます。

(単位: %)	自治会・町内会やボランティアなどの地域活動	地域の防犯体制づくり	地域の防災体制づくり	高齢になっても安心して暮らせる環境づくり	障害があっても安心して暮らせる環境づくり	子どもが安心して暮らせる環境づくり	気軽に運動できたり、健康づくりに関して学習できる環境づくり	その他	わからない	無回答
全体(n=932)	25.0	27.6	23.1	57.2	14.3	22.9	12.9	0.9	0.1	0.5
29歳以下(n=79)	15.2	38.0	38.0	40.5	6.3	34.2	8.9	1.3	1.3	0.0
30歳代(n=103)	13.6	39.8	24.3	39.8	17.5	49.5	8.7	1.0	0.0	0.0
40歳代(n=171)	18.1	31.0	25.7	49.1	14.0	42.1	7.6	1.8	0.0	0.0
50歳代(n=137)	23.4	26.3	28.5	60.6	16.8	21.2	9.5	0.7	0.0	1.5
60歳代(n=202)	32.2	23.3	19.8	65.3	13.9	11.4	17.3	0.5	0.0	0.0
70歳代(n=158)	34.8	18.4	13.3	69.6	13.9	4.4	20.9	0.0	0.0	1.3
80歳以上(n=80)	30.0	25.0	18.8	62.5	16.3	5.0	12.5	1.3	0.0	1.3

③協力が必要だと思わない理由

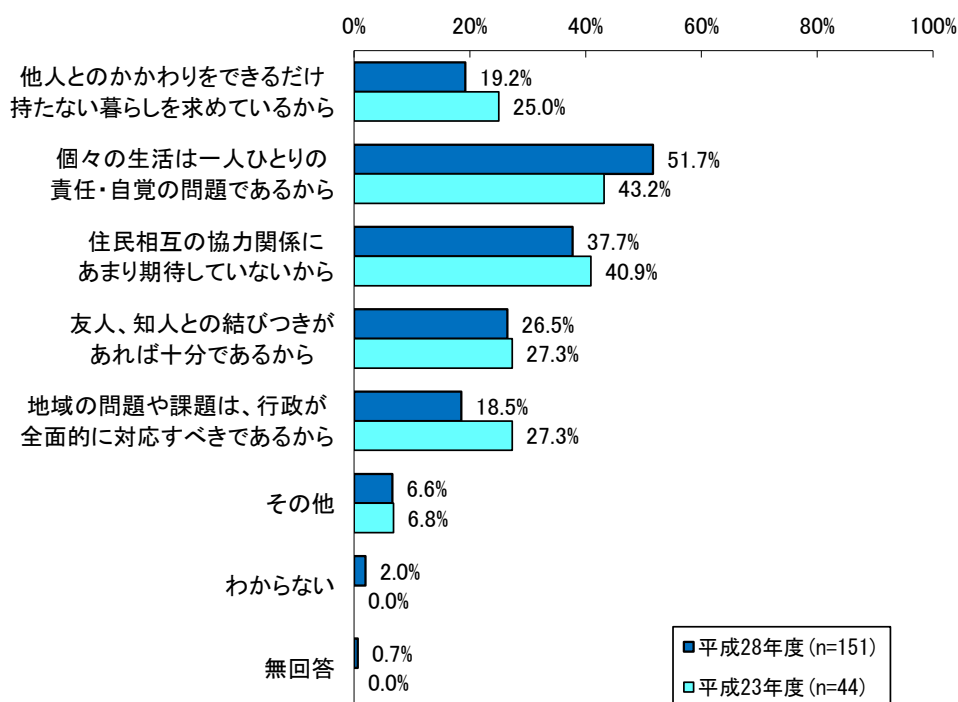
問 17-2 (問 17で「3.あまり必要だと思わない」「4.ほとんど必要だと思わない」に○をつけた方にお聞きします。) 必要ないと思う理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

■ 経年変化

「個々の生活は一人ひとりの責任・自覚の問題だ」が51.7%と半数を超えて高く、次いで、「住民相互の協力関係にあまり期待していない」、「友人知人との結びつきがあれば十分」などとなっています。

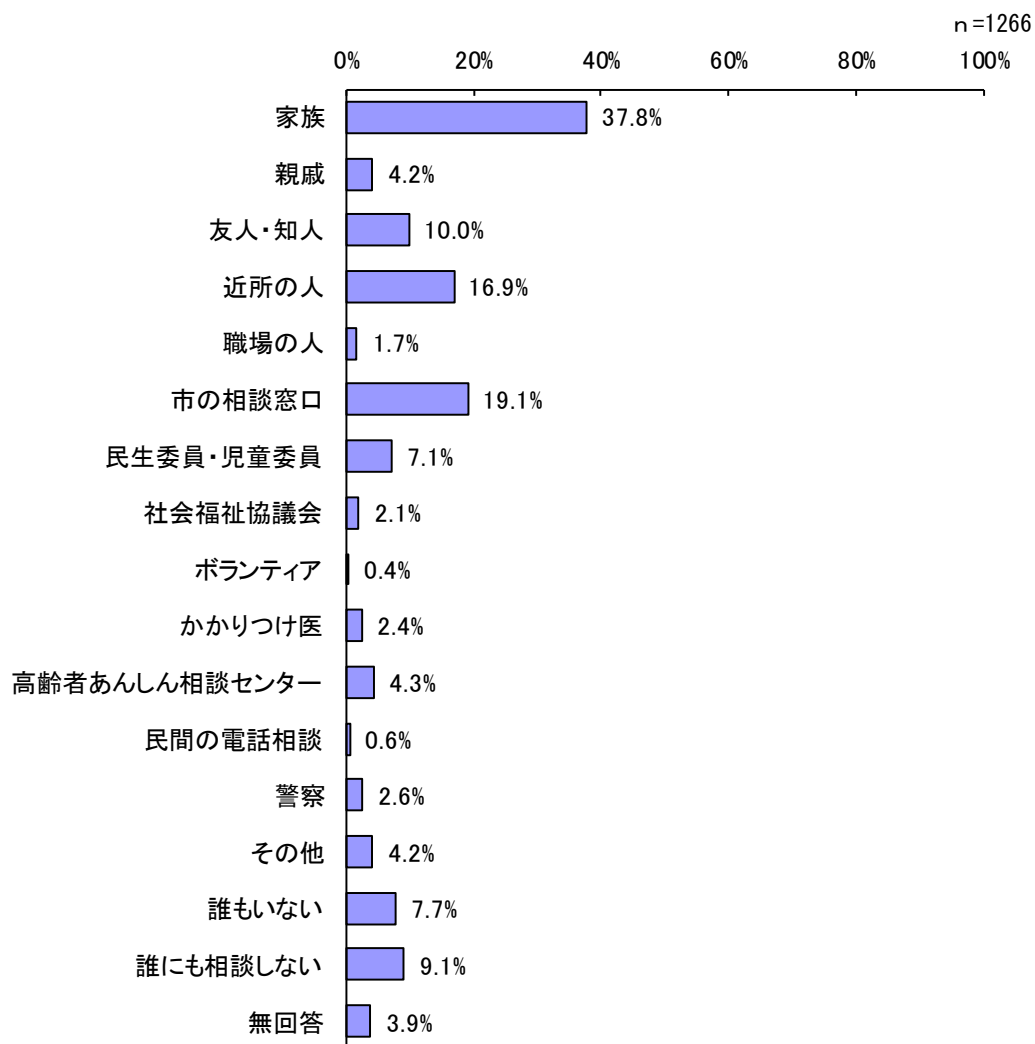
前回と比較すると、「個々の生活は一人ひとりの責任・自覚の問題だ」が高くなっており、一方で、「地域の問題や課題は、行政が全面的に対応すべき」、「他人とのかかわりをできるだけ持たない暮らしを求めている」は低くなっています。



(8) 近隣世帯についての相談相手

問 18 近所で高齢や病気、事故などで、生活に困ったり日常生活が不自由になったりした世帯があった場合、あなたは誰に相談していますか。(あてはまるものすべてに○)

「家族」との回答が 37.8%で最も高くなっています。次いで、「市の相談窓口」、「近所の人」、「友人・知人」と続いており、これらの回答が1割を超えています。



■年齢別に見た傾向

「家族」では、40 歳代以下の回答が高くなっています。

「友人・知人」では、30 歳代の回答が高くなっています。

「市の相談窓口」では、50 歳代と 60 歳代の回答が高くなっています。

「近所の人」では、70 歳代の回答が高くなっています。

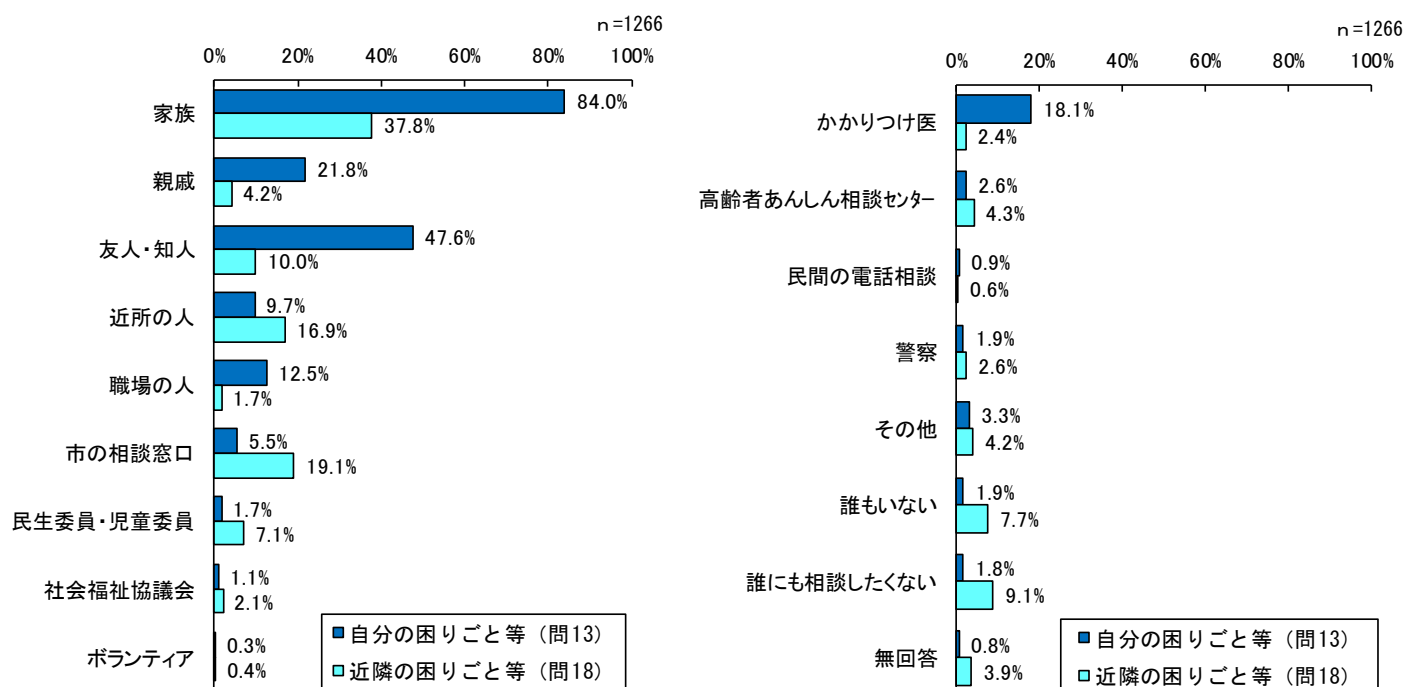
「民生委員・児童委員」については、おおむね年代が上がるにつれ回答が高くなっており、80 歳以上では 16.7%となっています。

(単位: %)	家族	親戚	友人・知人	近所の人	職場の人	市の相談窓口	民生委員・児童委員	社会福祉協議会	ボランティア	かかりつけ医	高齢者あんしん相談センター	民間の電話相談	警察	その他	誰もいない	誰にも相談したくない	無回答
全体 (n=1266)	37.8	4.2	10.0	16.9	1.7	19.1	7.1	2.1	0.4	2.4	4.3	0.6	2.6	4.2	7.7	9.1	3.9
29 歳以下 (n=103)	57.3	3.9	12.6	3.9	4.9	7.8	1.0	1.0	0.0	2.9	1.0	1.0	2.9	1.9	14.6	11.7	1.0
30 歳代 (n=140)	47.1	6.4	18.6	11.4	5.0	17.1	0.0	2.1	0.0	0.7	0.7	0.7	2.1	3.6	10.0	17.9	0.0
40 歳代 (n=215)	42.8	3.7	11.6	11.2	2.8	19.5	2.3	1.4	0.0	0.9	4.2	0.5	1.4	4.2	8.4	13.5	2.3
50 歳代 (n=184)	29.9	3.8	7.1	17.9	0.5	24.5	8.2	3.8	0.5	2.7	3.8	1.1	2.2	6.0	9.2	8.7	2.7
60 歳代 (n=279)	30.1	2.5	7.5	20.1	1.1	24.4	9.0	2.9	0.4	1.8	4.7	0.4	3.9	6.1	6.5	7.2	3.6
70 歳代 (n=227)	34.8	4.0	9.3	26.9	0.0	17.2	11.0	0.4	0.9	4.4	7.0	0.4	3.1	2.6	3.5	4.4	7.0
80 歳以上 (n=114)	38.6	7.9	6.1	17.5	0.0	12.3	16.7	2.6	0.9	4.4	6.1	0.0	1.8	2.6	7.0	2.6	9.6

■「困ったときの相談相手」と「近隣世帯についての相談相手」

「困ったときの相談相手（問 13）」と「近隣世帯についての相談相手（問 18）」を比較すると、「問 13」に比べ「問 18」の方が「誰もいない」や「誰にも相談したくない」との回答が高くなっており、「家族」や「友人・知人」、「親戚」、「かかりつけ医」などの回答は低くなっています。

一方、「問 18」の方が高い相談相手としては、「市の相談窓口」が挙げられており、「民生委員・児童委員」、「近所の人」などこのような傾向が見られます。

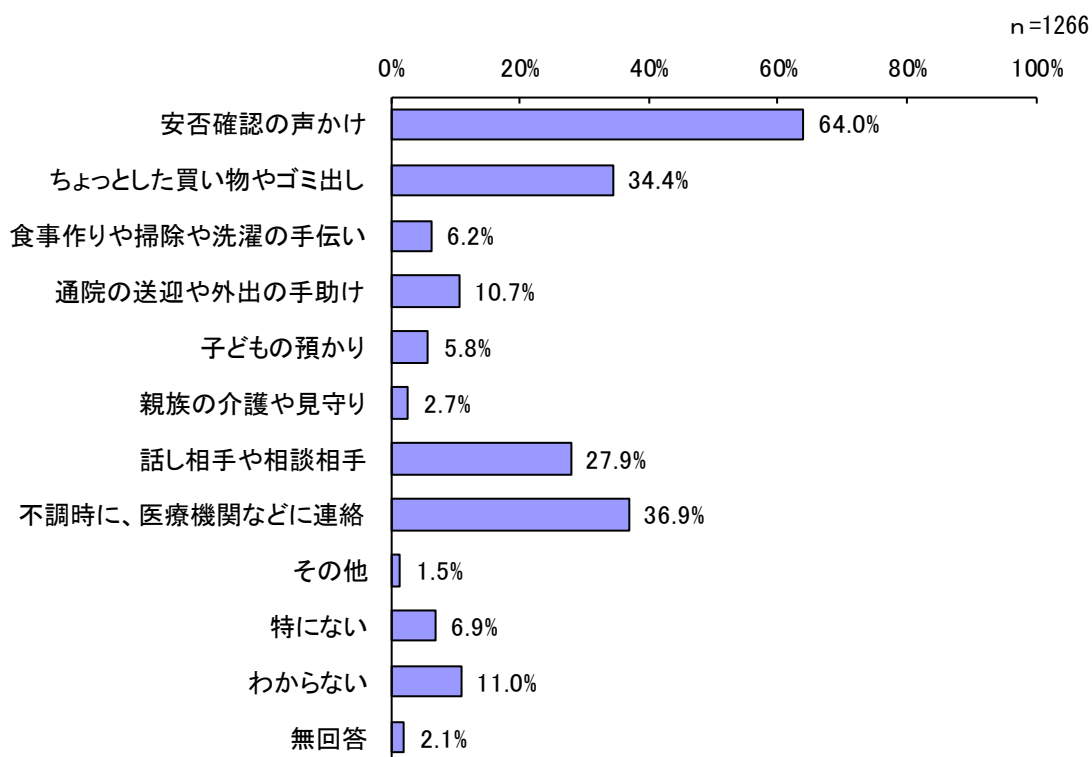


(9) 近隣世帯にできること

問 19 近所で高齢や病気、事故などで、生活に困ったり日常生活が不自由になったりした世帯があった場合、あなたができることはどれですか。

(あてはまるものすべてに○)

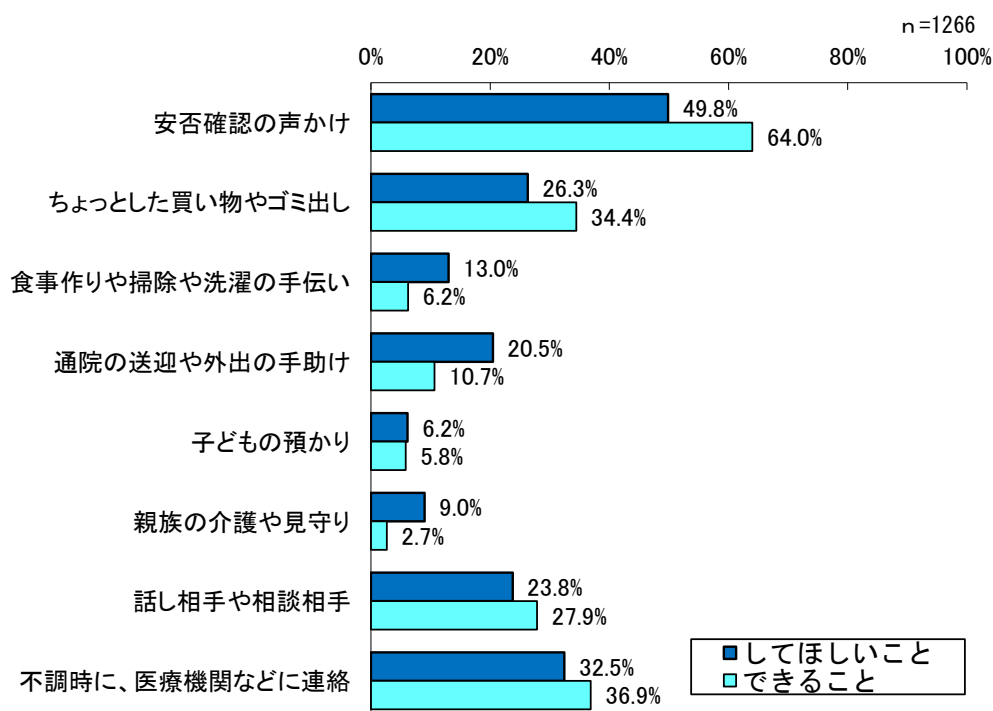
「安否確認の声かけ」が 64.0%と最も高くなっています。次いで、「不調時に、医療機関などに連絡」、「ちょっとした買い出しやゴミ出し」、「話し相手や相談相手」と続いており、これらの回答が2割を超えています。



■「地域の人にしてほしいこと」と「近隣世帯にできること」

「地域の人にしてほしいこと（問 16）」と「近隣世帯にできること（問 19）」を比較すると、「してほしいこと」（需要）が「できること」（供給）を上回っていることには「通院の送迎や外出の手助け」が最も差が大きく、次いで「食事作りや掃除や洗濯の手伝い」、「親族の介護や見守り」などとなっています。

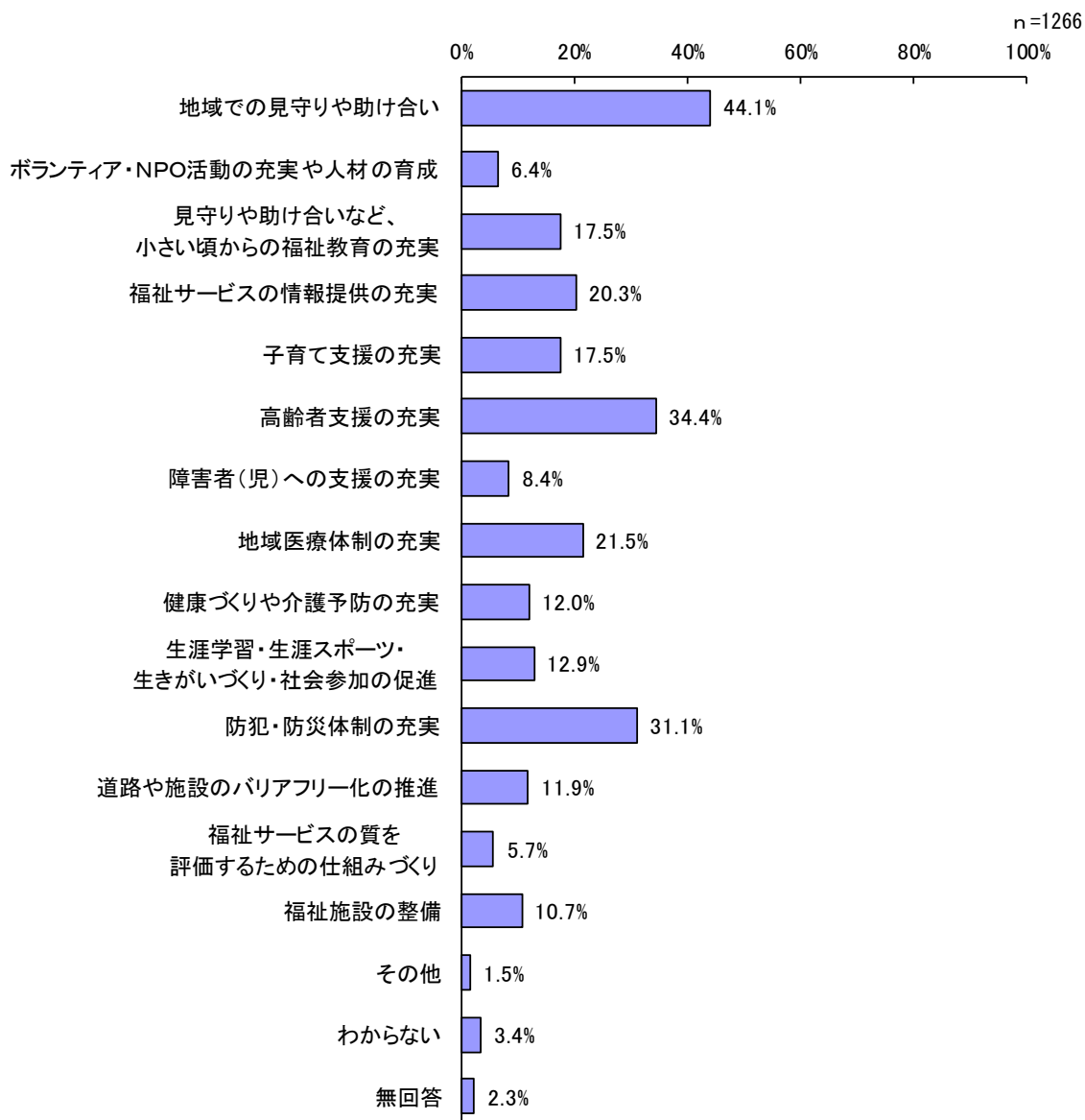
一方、「できること」（供給）が「してほしいこと」（需要）を上回っている項目としては、「安否確認の声かけ」が最も差が大きく、「ちょっとした買い出しやゴミ出し」、「不調時に、医療機関などに連絡」、「話し相手や相談相手」などはそのような傾向があり、地域の力を活用することが、解決に資することが可能な項目ではないかと考えられます。



(10) 地域での安心した暮らしに必要なこと

問 20 あなたの地域で誰もが安心して暮らしていくために、必要なことは何だと思いますか。(〇は3つまで)

「地域での見守りや助け合い」が44.1%と最も高く、次いで、「高齢者支援の充実」、「防犯・防災体制の充実」と続いており、これらの回答が3割を上回っています。



■年齢別に見た傾向

「バリアフリー化の推進」では、29歳以下の回答が高くなっています。

「障害者（児）への支援の充実」では、30歳代の回答が高くなっています。

「防犯・防災体制の充実」では、30歳代以下の回答が高くなっています。

「福祉教育の充実」では、40歳代の回答が高くなっています。

「子育て支援の充実」では、40歳代以下の回答が高くなっています。

「地域医療体制の充実」では、50歳代の回答が高くなっています。

「情報提供の充実」では、60歳代の回答が高くなっています。

「高齢者支援の充実」では、70歳以上の回答が高くなっています。

「地域での見守りや助け合い」では、80歳以上の回答が高くなっています。

(単位：%)	地域での見守りや助け合い	ボランティア・NPO活動の充実や人材の育成	見守りや助け合いなど、小さい頃からの福祉教育の充実	福祉サービスの情報提供の充実	子育て支援の充実	高齢者支援の充実	障害者（児）への支援の充実	地域医療体制の充実	健康づくりや介護予防の充実	生涯学習・生涯スポーツ・生きがいづくり・社会参加の促進	防犯・防災体制の充実	道路や施設のバリアフリー化の推進	福祉サービスの質を評価するための仕組みづくり	福祉施設の整備	その他	わからない	無回答
全体(n=1266)	44.1	6.4	17.5	20.3	17.5	34.4	8.4	21.5	12.0	12.9	31.1	11.9	5.7	10.7	1.5	3.4	2.3
29歳以下(n=103)	42.7	5.8	20.4	9.7	31.1	25.2	8.7	19.4	9.7	10.7	48.5	18.4	3.9	5.8	1.9	3.9	1.0
30歳代(n=140)	32.9	4.3	14.3	12.9	46.4	27.1	14.3	17.1	7.9	7.1	41.4	15.0	4.3	9.3	1.4	5.7	0.7
40歳代(n=215)	48.8	6.5	25.6	16.7	27.0	25.6	9.8	19.1	6.5	14.0	35.8	15.8	6.5	10.2	1.9	1.9	0.5
50歳代(n=184)	43.5	6.0	18.5	22.3	11.4	37.0	8.2	26.6	13.6	9.8	37.0	13.0	4.9	9.2	1.6	3.8	1.1
60歳代(n=279)	44.8	7.5	16.5	28.0	10.0	34.8	9.0	22.6	12.5	16.5	27.2	8.2	6.5	11.8	1.4	3.2	1.4
70歳代(n=227)	43.6	7.5	15.0	22.5	6.6	41.9	4.0	21.6	16.7	15.9	20.7	8.8	7.0	11.9	1.8	3.1	4.8
80歳以上(n=114)	51.8	5.3	10.5	20.2	2.6	50.0	5.3	21.9	16.7	10.5	14.9	8.8	4.4	14.9	0.0	3.5	6.1

3. 地域活動への参加について

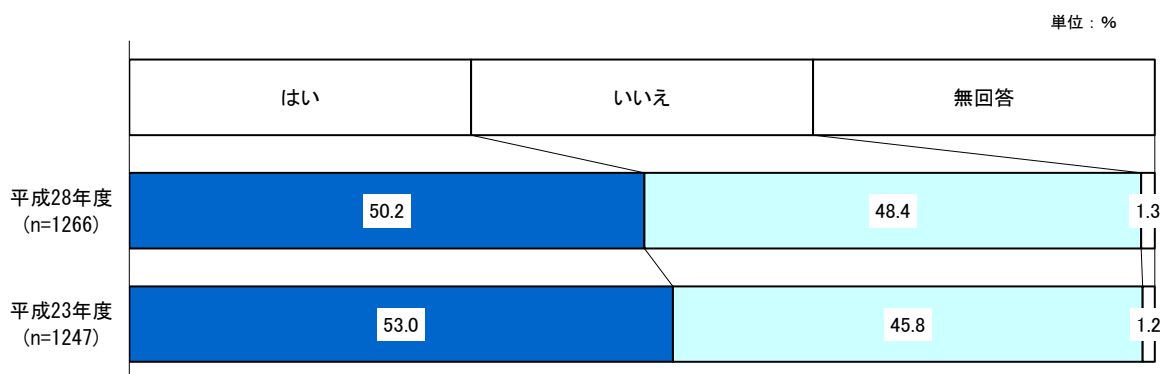
(1) 地域活動への参加

①地域活動への参加状況

問 21 あなたは、これまでに地域での活動に担い手として参加したことがありますか。
(○はひとつ)

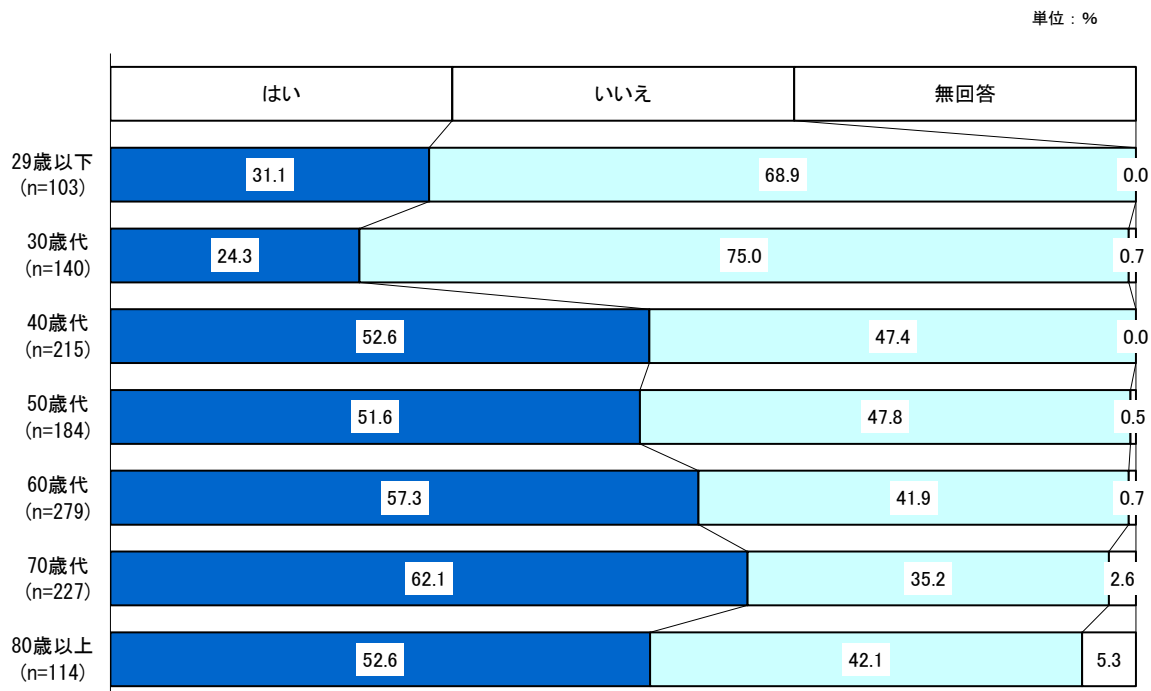
■経年変化

「はい」が50.2%、「いいえ」が48.4%です。
前回との比較では、大きな変化は見られません。



■年齢別に見た傾向

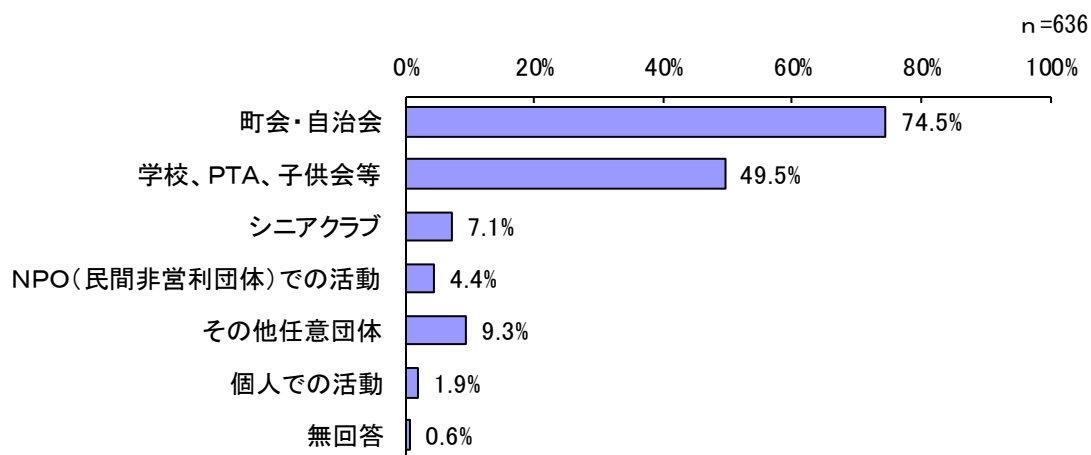
70歳代が「はい」との回答が62.1%で最も高く、40歳以上では半数が「はい」と回答しています。



②参加している地域活動の場

問 21-1 (問 21 で「1.はい」に○をつけた方にお聞きします。) どういった団体に活動されましたか。(あてはまるものすべてに○)

「町会・自治会」が 74.5%で最も高く、次いで「学校、PTA、子供会等」が続いており、この 2 項目が特に高くなっています。



■年齢別に見た傾向

「学校、PTA、子供会等」では、子供を抱える世代と重なる 50 歳代以下の回答が高くなっており、「シニアクラブ」では、利用できる世代である 70 歳代以上の回答が高くなっています。

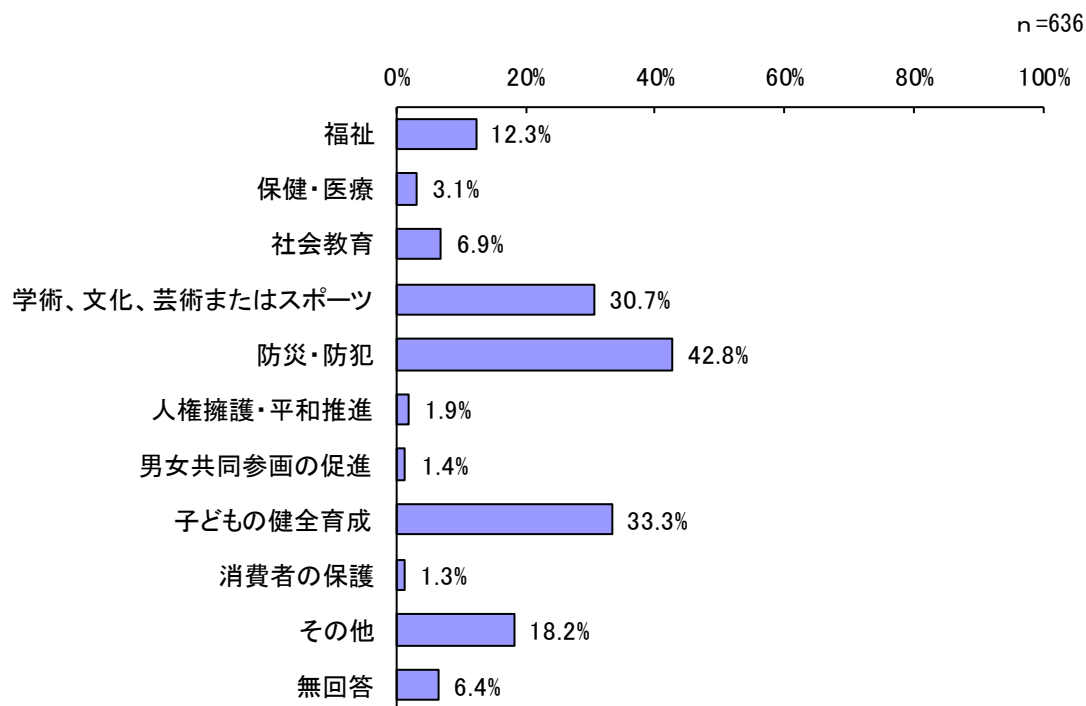
他には、「町会・自治会」では、50 歳代以上の回答が高く、「その他任意団体」では、30 歳代の回答が高くなっています。

(単位: %)	町会・自治会	学校、PTA、子供会等	シニアクラブ	NPOでの活動	その他任意団体	個人での活動	無回答
全体(n=1266)	74.5	49.5	7.1	4.4	9.3	1.9	0.6
29 歳以下(n=103)	37.5	59.4	0.0	9.4	6.3	9.4	3.1
30 歳代(n=140)	58.8	55.9	2.9	5.9	17.6	2.9	0.0
40 歳代(n=215)	57.5	73.5	0.9	3.5	6.2	0.9	0.0
50 歳代(n=184)	84.2	64.2	0.0	1.1	6.3	0.0	0.0
60 歳代(n=279)	83.1	42.5	6.3	3.8	11.9	1.9	0.6
70 歳代(n=227)	81.6	35.5	14.9	7.1	11.3	1.4	1.4
80 歳以上(n=114)	80.0	23.3	20.0	3.3	5.0	3.3	0.0

③参加している地域活動の内容

問 21-2 (問 21 で「1.はい」に○をつけた方にお聞きします。) それはどのような活動ですか。(あてはまるものすべてに○)

「防災・防犯」が 42.8%で最も高く、次いで、「子どもの健全育成」、「学術、文化、芸術またはスポーツ」が続いており、これらの回答が3割を超えています。

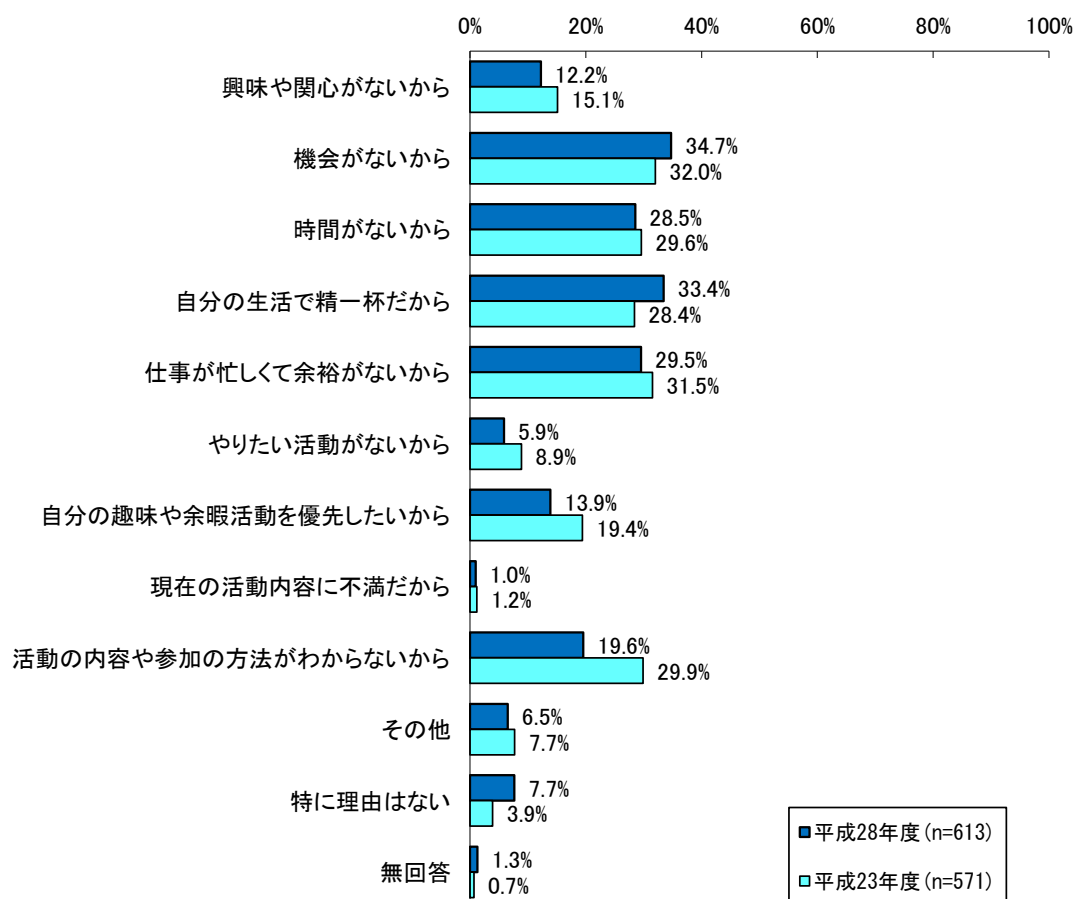


④地域活動に参加していない理由

問 21-3 (問 21 で「2.いいえ」に○をつけた方にお聞きします。) 地域での活動に参加していないのはなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

■経年変化

「機会がないから」が 34.7%で最も高いものの、次いで「自分の生活で精一杯だから」、「仕事が忙しくて余裕がないから」、「時間がないから」などが3割前後で続いています。前回との比較では「自分の生活で精一杯だから」が前回よりも高くなっており、「活動の内容や方法がわからないから」、「自分の趣味や余暇活動を優先したいから」は低くなっています。



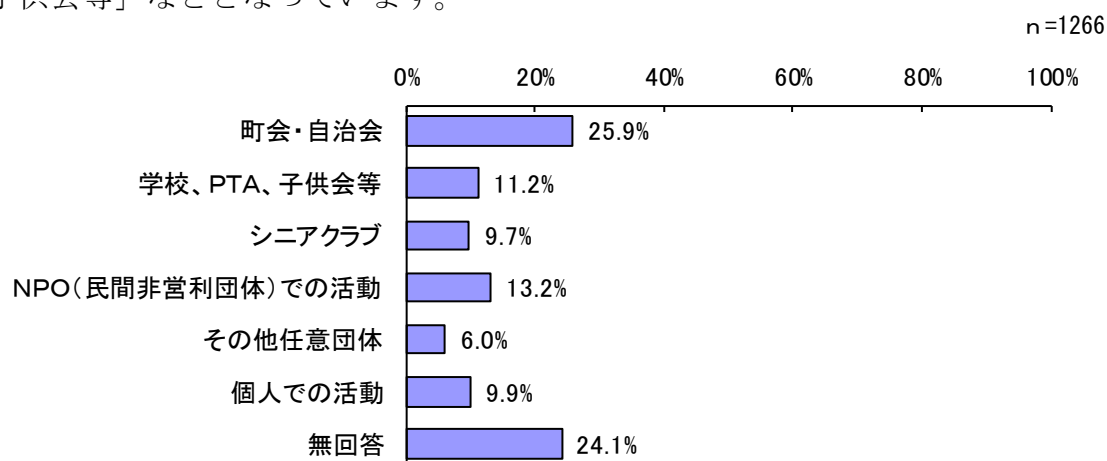
(2) 今後参加したい活動

①参加したい活動の場

問 22 あなたが、今後参加したいと思う地域での団体（現在参加している地域での活動も含む）をあげてください。

（問 21-1 の選択肢の番号からひとつ選んで、番号を下の□に記入してください）

「町会・自治会」との回答が 25.9%で最も高く、次いで「NPOでの活動」、「学校、PTA、子供会等」などとなっています。



■年齢別に見た傾向

「学校、PTA、子供会等」では、40 歳代以下での参加意向が高くなっています。

「町会・自治会」では、50 歳代の回答が、「NPOでの活動」では、30 歳代の回答が高くなっています。

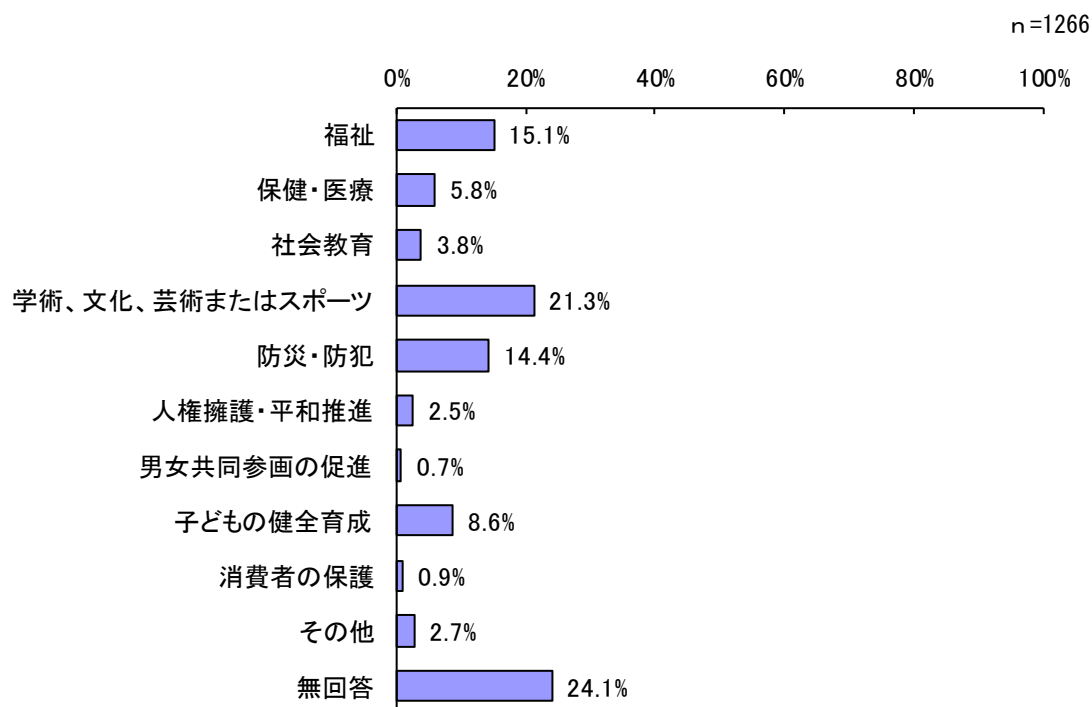
(単位: %)	町会・自治会	学校、PTA、子供会等	シニアクラブ	NPOでの活動	その他任意団体	個人での活動	無回答
全体(n=1266)	25.9	11.2	9.7	13.2	6.0	9.9	24.1
29 歳以下(n=103)	15.5	23.3	1.0	31.1	1.0	9.7	18.4
30 歳代(n=140)	20.0	30.7	0.7	13.6	6.4	11.4	17.1
40 歳代(n=215)	26.5	21.9	2.3	14.9	7.4	10.2	16.7
50 歳代(n=184)	34.2	8.2	7.1	16.3	4.3	9.8	20.1
60 歳代(n=279)	29.0	2.2	15.1	12.5	7.9	14.0	19.4
70 歳代(n=227)	24.7	1.8	18.9	6.6	7.0	7.0	33.9
80 歳以上(n=114)	23.7	1.8	15.8	3.5	2.6	3.5	49.1

②参加したい活動の分野

問 23 あなたが、今後参加したいと思う地域での活動の分野（現在参加している地域での活動も含む）をあげてください。

（問 21-2 の選択肢の番号からひとつ選んで、番号を下の□に記入してください）

「学術、文化、芸術またはスポーツ」との回答が 21.3%最も高く、次いで「福祉」、「防災・防犯」と続いており、これらの回答が 1 割を超えています。



■年齢別に見た傾向

29 歳以下では「学術、文化、芸術またはスポーツ」、30 歳代では「子どもの健全育成」、40 歳代では「防災・防犯」が高くなっています。

問 21（*ページ）のように、地域活動への参加が低調となりやすい若い世代への参加を促すためには、このような興味の高い分野の活動の支援などが有効であると考えられます。

(単位: %)	福祉	保健・医療	社会教育	学術、文化、芸術またはスポーツ	防災・防犯	人権擁護・平和推進	男女共同参画の促進	子どもの健全育成	消費者の保護	その他	無回答
全体(n=1266)	15.1	5.8	3.8	21.3	14.4	2.5	0.7	8.6	0.9	2.7	24.1
29 歳以下(n=103)	11.7	8.7	1.9	34.0	17.5	1.9	0.0	7.8	1.0	1.0	14.6
30 歳代(n=140)	12.1	5.0	5.7	21.4	14.3	3.6	0.7	17.9	2.1	2.1	15.0
40 歳代(n=215)	16.7	7.0	3.7	17.7	20.9	2.8	0.5	13.0	0.0	2.3	15.3
50 歳代(n=184)	17.9	7.1	2.2	24.5	14.1	2.2	1.1	7.1	1.1	3.3	19.6
60 歳代(n=279)	16.5	5.7	3.9	23.7	15.8	4.3	0.7	6.1	0.4	4.3	18.6
70 歳代(n=227)	15.9	4.4	4.0	17.6	9.3	0.9	0.9	7.9	1.3	1.3	36.6
80 歳以上(n=114)	9.6	2.6	5.3	12.3	7.0	0.9	0.9	0.0	1.8	3.5	56.1

(3) 参考にすべき事例等

問 24 あなたは、他の街で活動に参加したり、テレビや新聞等を見る中で、八王子市でもこのような地域での活動を行ったらよい、と思うものはありますか。具体的にお書きください。

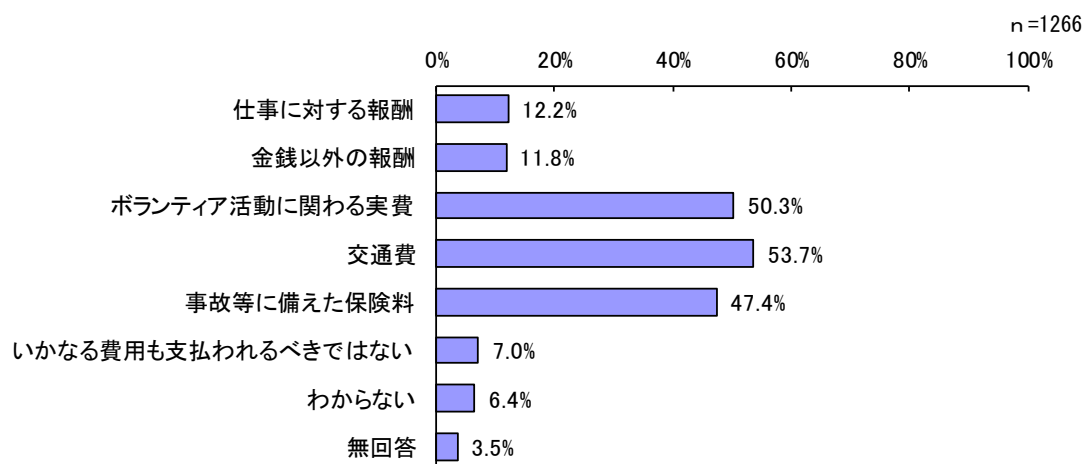
■主な回答の分類

分類	回答数(人)	主な意見
地域活動	46	交流の場づくり、活動団体の連携、若い世代(学生)が参加できるもの
子ども・子育て支援	30	子ども食堂、地域での見守り
環境	27	町や川の清掃活動、捨て犬・猫について、
イベント	26	イベントや行事、町を知る試みの開催
高齢者施策	25	気軽に集まれる場所、買い物への支援
まちづくり	22	公園等の改修、自転車のルールの方策
ボランティア	16	ポイント制度、フードバンク
スポーツ	14	施設の増加、スポーツサークルへの支援
防災・防犯	14	被災時の対応、地域ごとの見回り
福祉施策全般	9	AIの活用、空き家等の活用
教育	7	道徳教育、小中学生への学習指導
障害者施策	4	障害者の社会の受け入れ、障害者にたずさわる行事
情報	4	地域のケーブルTV等の活用、「地域活動のヒント集」(横浜市)
健康・医療	3	保健所との連携、減塩運動(長野県)
その他	20	
回答者数	268	

(4) ボランティアの報酬

問 25 あなたは、ボランティアが活動を行う際、どのような費用が支払われるべきだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

「交通費」との回答が最も高いものの、次いで「ボランティア活動にかかわる実費」、「事故等に備えた保険料」と続いており、これらの回答が半数前後と高くなっています。



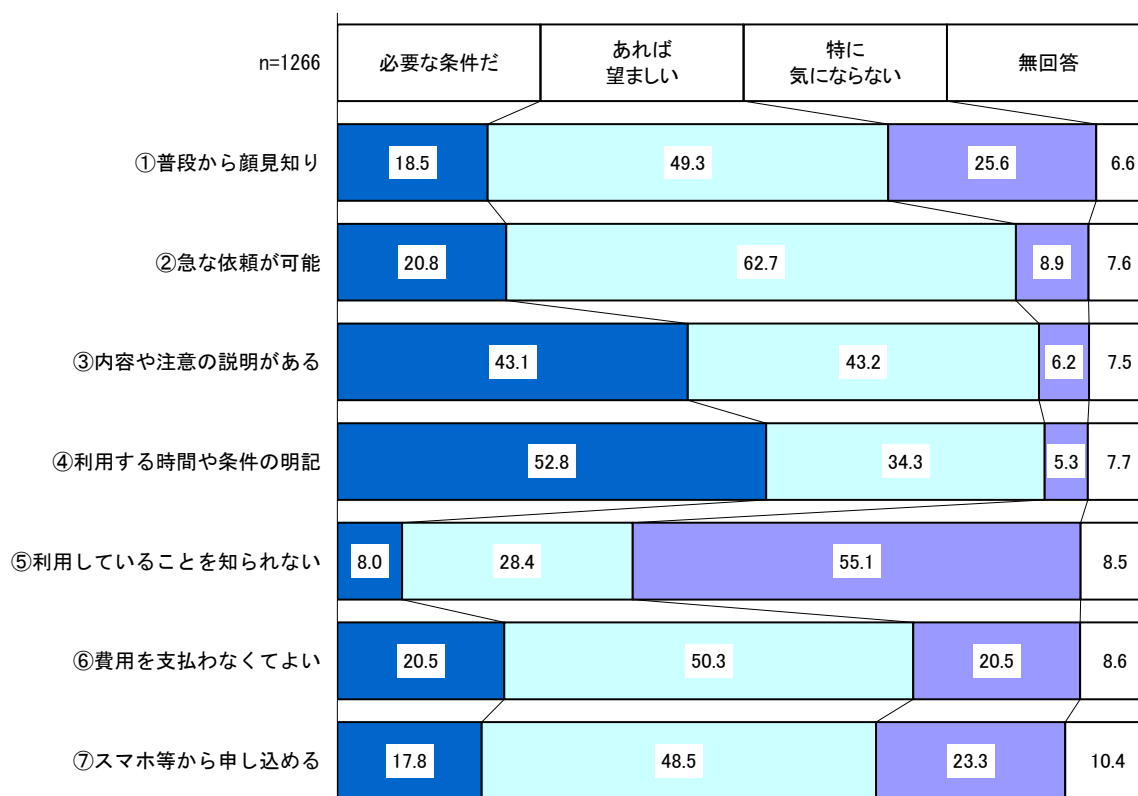
(5) ボランティアが活動しやすくなる条件

問 26 あなたが、ボランティアによる支援を自分が受け入れることを想像したとき、どのような条件が整えば受け入れやすいと考えますか。(項目ごとに○はひとつ)

「必要な条件だ」との回答については、「④利用する時間や条件の明記」が 52.8%で最も高く、次いで「③内容や注意の説明がある」などとなっています。

「必要な条件だ」と「あれば望ましい」を併せた、『望ましい条件となっている』について見ると、上記の「③」、「④」に加え、「②急な依頼が可能」までが 8 割を超えて高くなっており、さらに、「⑥費用を払わなくてよい」、「⑦スマホ等から申し込める」、「①普段から顔見知り」も 7 割前後となっています。

単位：%



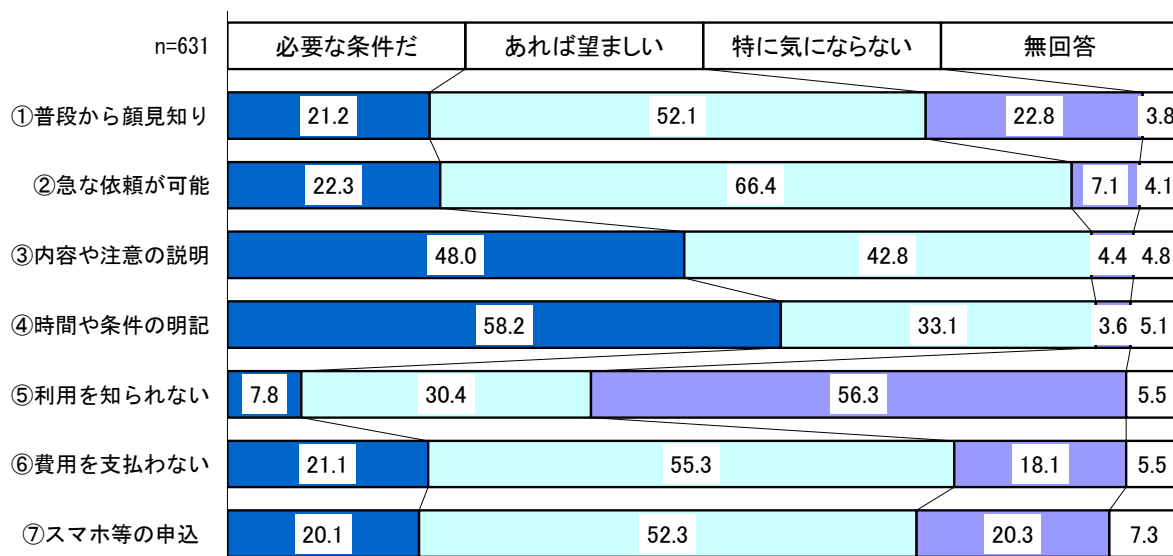
■「地域の人にしてほしいこと」（問 16）別に見た傾向

以下は、問 16（*ページ）の選択肢を選んだ、地域の人にしてほしいことがある人ごとに、ボランティアが活動しやすくなる条件を抽出したものです。

1. 安否確認の声かけ

[時間や条件の明記]を「必要な条件」とする回答が高くなっています。

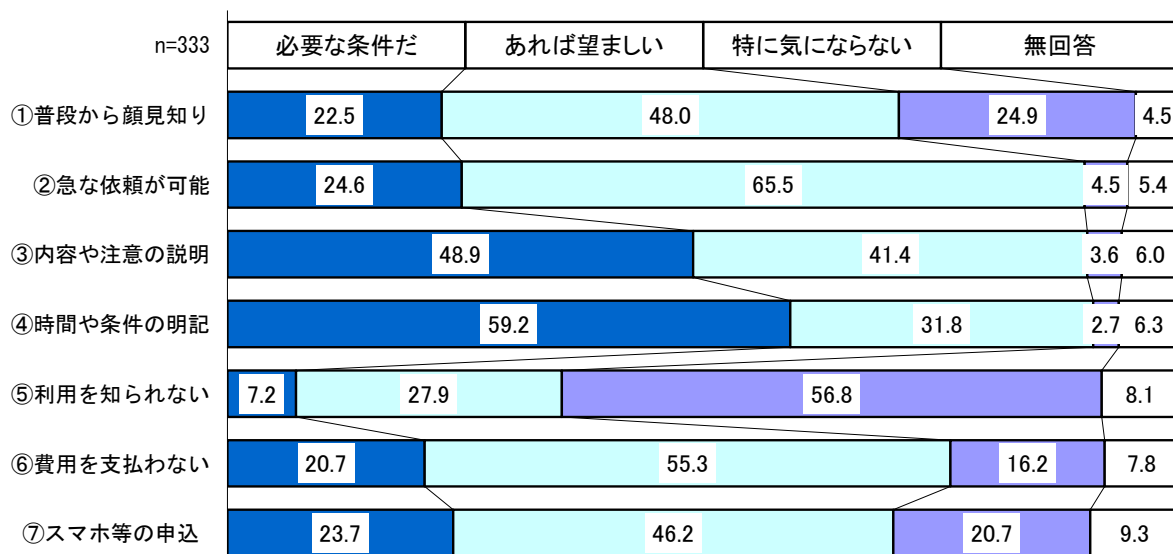
単位：％



2. ちょっとした買い物やゴミ出し

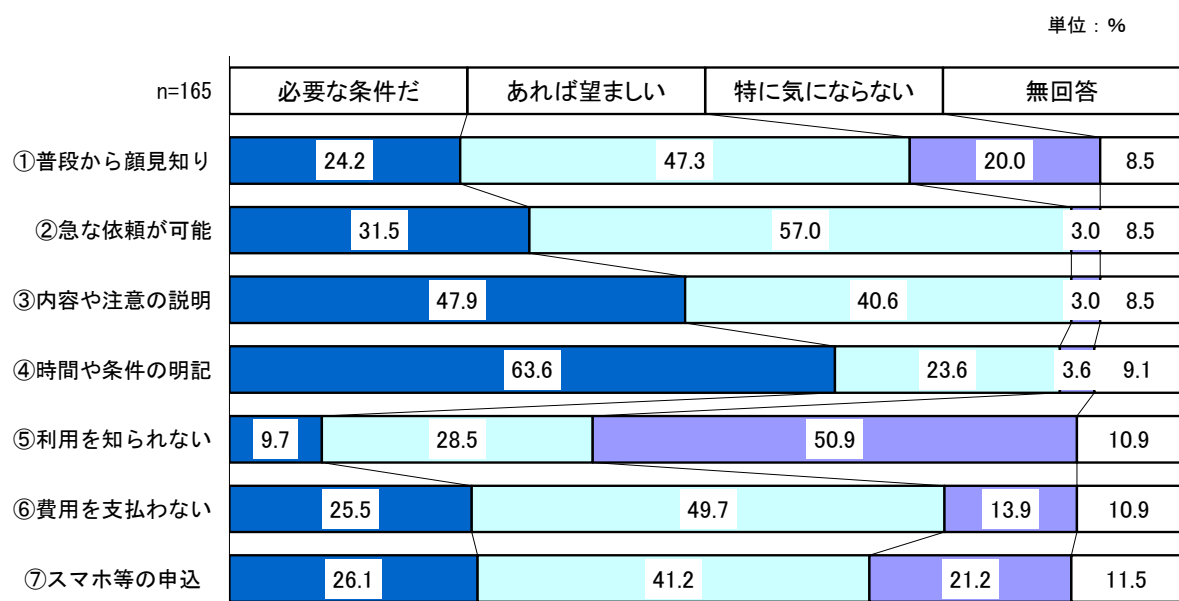
[内容や注意の説明]、[時間や条件の明記]、[スマホ等の申込]を「必要な条件」とする回答が高くなっています。

単位：％



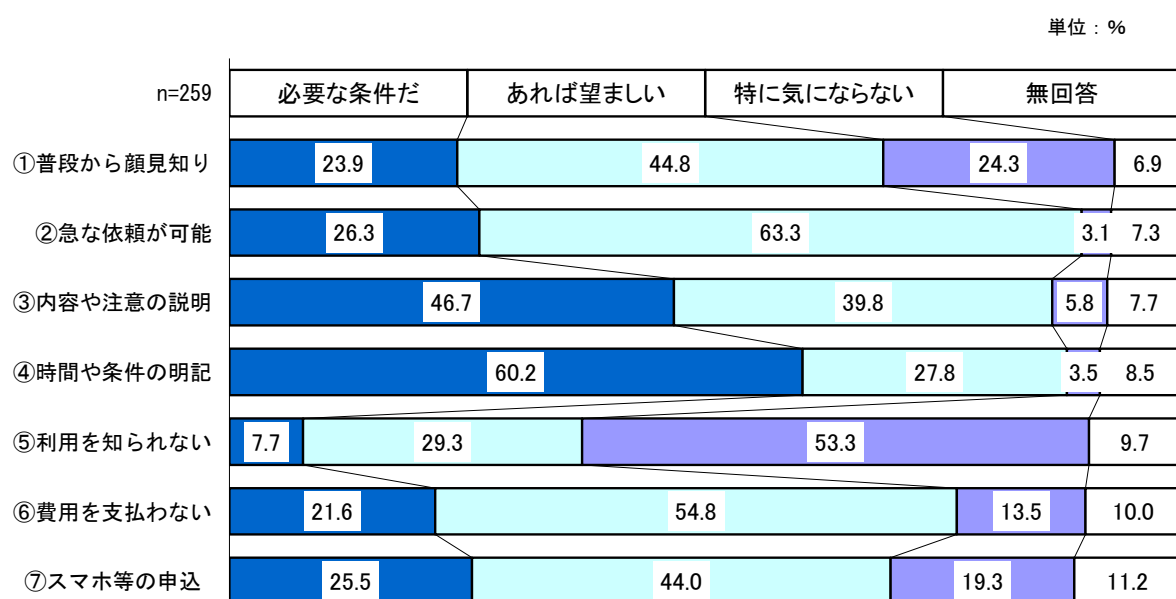
3. 食事作りや掃除や洗濯の手伝い

[普段から顔見知り]、[急な依頼が可能]、[時間や条件の明記]、[費用を支払わない]、[スマホ等の申込]と、5つの項目で「必要な条件だ」との回答が高くなっています。



4. 通院の送迎や外出の手助け

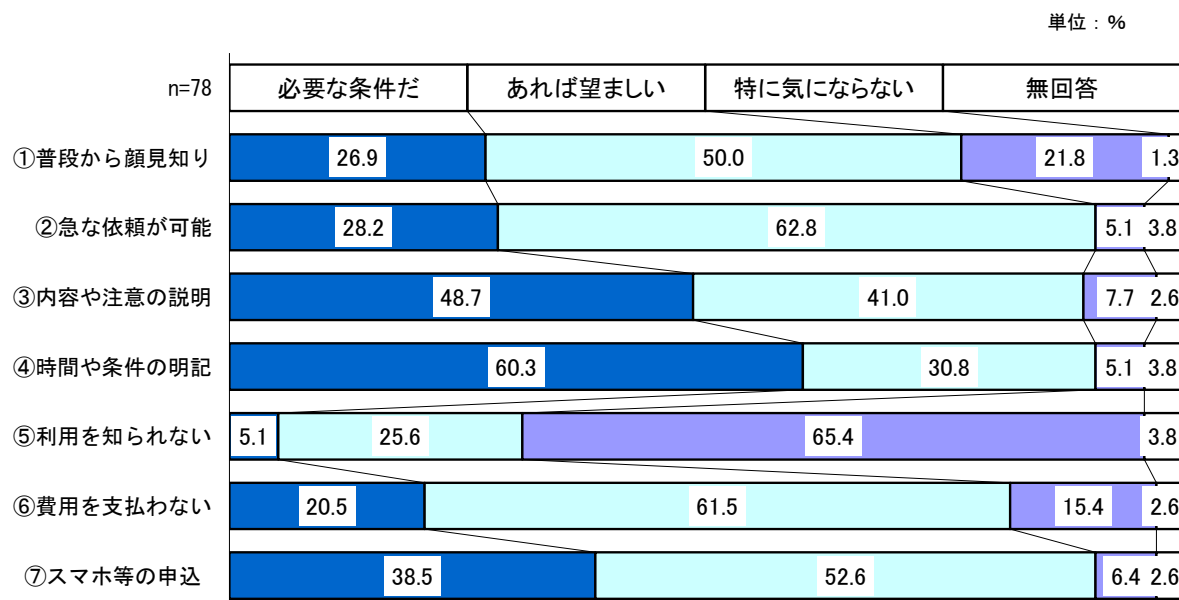
[普段から顔見知り]、[急な依頼が可能]、[時間や条件の明記]、[スマホ等の申込]で「必要な条件だ」との回答が高く、[費用を支払わない]でも「特に気にならない」の回答が低く、条件として望まれていることがわかります。



5. 子どもの預かり

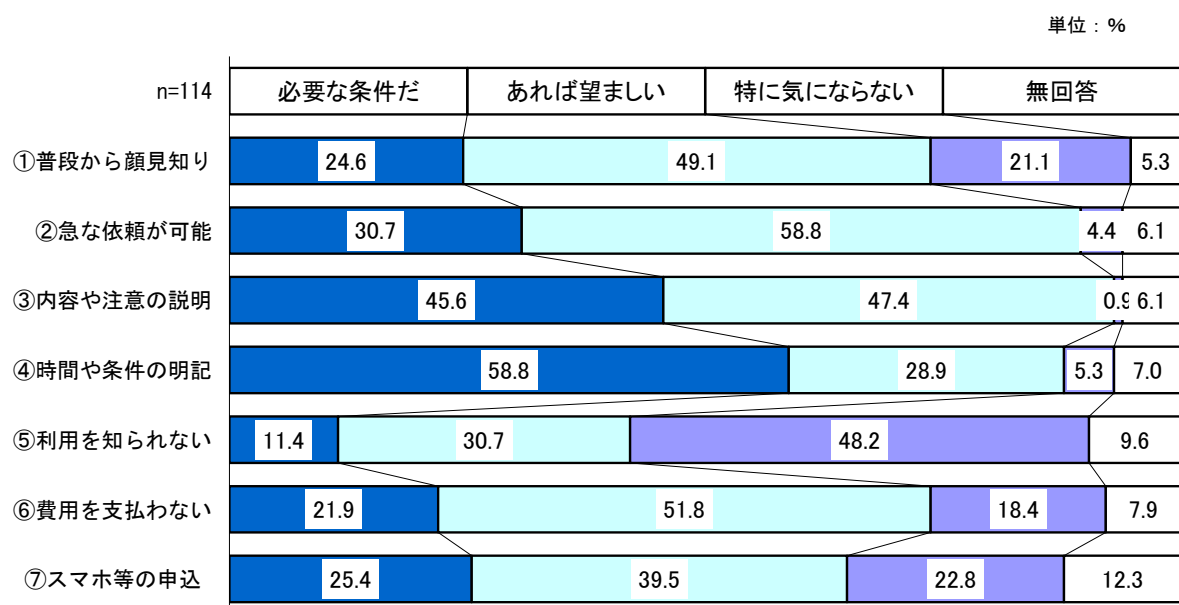
[普段から顔見知り]、[急な依頼が可能]、[内容や注意の説明]、[時間や条件の明記]、[スマホ等の申込]と、5つの項目で「必要な条件だ」との回答が高くなっています。

一方、[利用を知られない]、[費用を支払わない]の2項目では「特に気にならない」との回答が高くなっています。



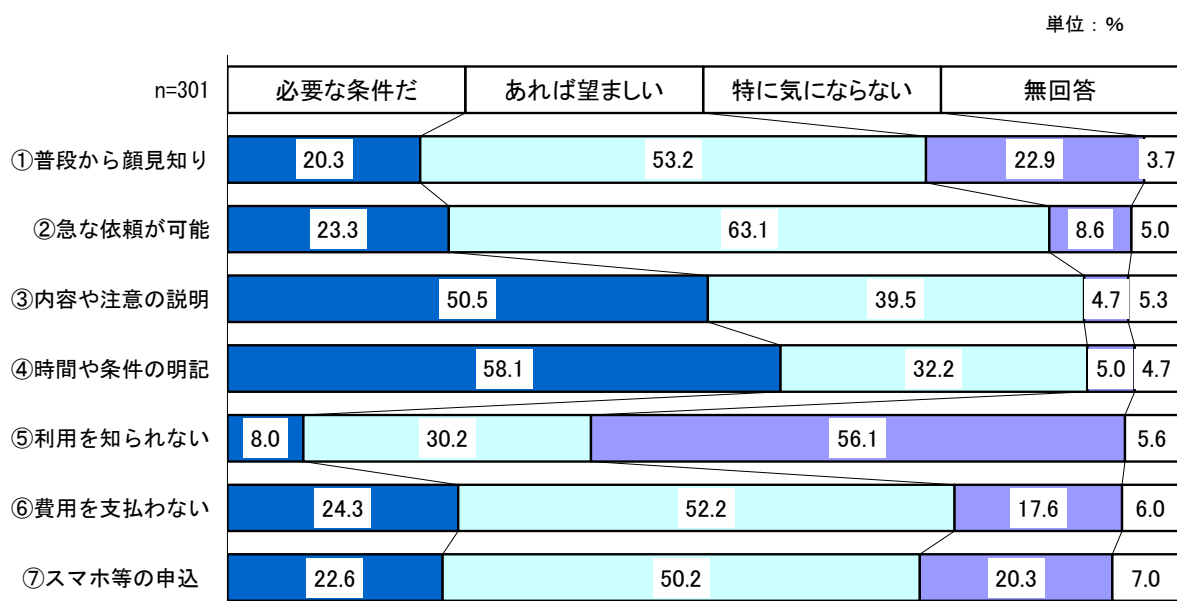
6. 親族の介護や見守り

[普段から顔見知り]、[時間や条件の明記]、[スマホ等の申込]で「必要な条件だ」との回答が高く、[利用を知られない]でも「特に気にならない」の回答が低くなっています。



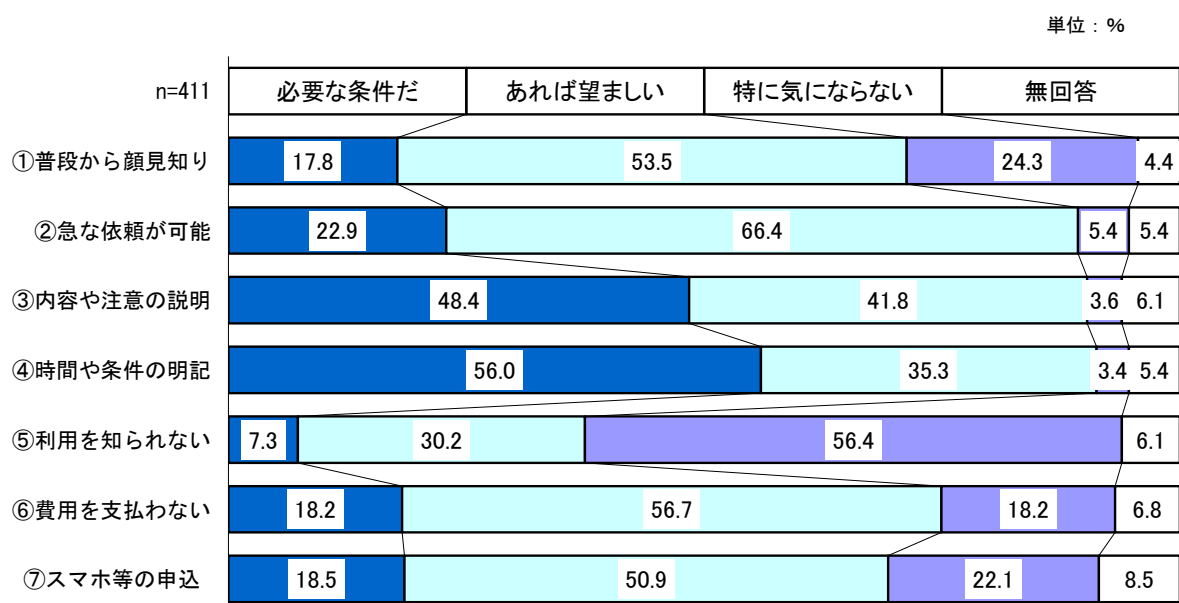
7. 話し相手や相談相手

[内容や注意の説明]で「必要な条件だ」との回答が高くなっています。



8. 不調時に、医療機関などに連絡

[内容や注意の説明]で「必要な条件だ」との回答が高く、[費用を支払わない]は「あれば望ましい」との回答が高くなっています。



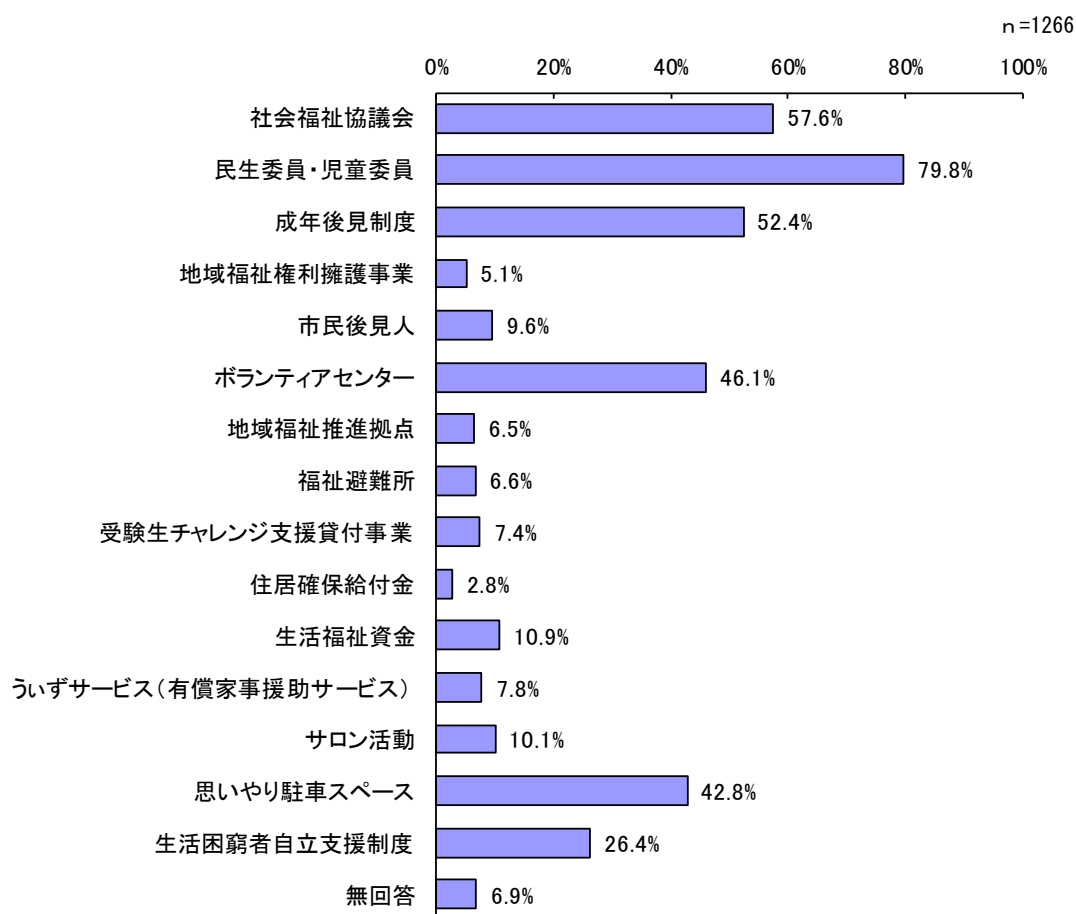
4. 福祉施策や制度、サービスについて

(1) 福祉にまつわる用語等の認知度

問 27 あなたは、次に挙げるような福祉にかかわる制度や言葉の中で、どれを知っていますか。(あてはまるものすべてに○)

「民生委員・児童委員」が79.8%と最も高く、次いで、「社会福祉協議会」、「成年後見制度」などとなっています。

一方、「住宅確保給付金」が最も低く、次いで、「地域福祉権利擁護事業」など、これらを含む7項目では1割にも満たない結果となっています。



■年齢別に見た傾向

「社会福祉協議会」では60歳代から70歳代、「民生委員・児童委員」では50歳代から70歳代、「成年後見制度」と「ボランティアセンター」については、50歳代から60歳代にかけて高くなっています。

「思いやり駐車スペース」については40歳代以下での認知度が高くなっています。

(単位: %)	社会福祉協議会	民生委員・児童委員	成年後見制度	地域福祉権利擁護事業	市民後見人	ボランティアセンター	地域福祉推進拠点	福祉避難所	受験生チャレンジ支援貸付事業	住居確保給付金	生活福祉資金	ういずサービス	サロン活動	思いやり駐車スペース	生活困窮者自立支援制度
全体(n=1266)	57.6	79.8	52.4	5.1	9.6	46.1	6.5	6.6	7.4	2.8	10.9	7.8	10.1	42.8	26.4
29歳以下(n=103)	31.1	45.6	36.9	5.8	7.8	49.5	3.9	8.7	4.9	3.9	10.7	4.9	3.9	50.5	21.4
30歳代(n=140)	40.0	62.1	41.4	7.1	11.4	37.1	7.9	11.4	6.4	5.7	9.3	4.3	7.1	57.1	22.1
40歳代(n=215)	52.6	79.5	53.0	6.5	8.4	47.0	5.6	8.8	12.1	0.9	11.2	10.2	9.3	60.9	28.8
50歳代(n=184)	62.0	89.7	58.7	3.3	10.9	52.2	4.3	4.3	12.5	2.2	9.8	10.3	8.7	44.6	29.9
60歳代(n=279)	70.6	91.4	64.5	4.3	8.6	55.2	6.5	5.0	5.4	2.9	12.2	9.3	12.9	39.4	30.5
70歳代(n=227)	66.5	85.9	53.3	4.8	12.3	39.6	8.4	6.2	5.7	2.2	12.3	7.5	14.1	29.5	24.2
80歳以上(n=114)	57.0	78.1	37.7	4.4	6.1	35.1	8.8	2.6	2.6	3.5	8.8	3.5	8.8	16.7	21.1

(2) 福祉制度等のわかりやすさ

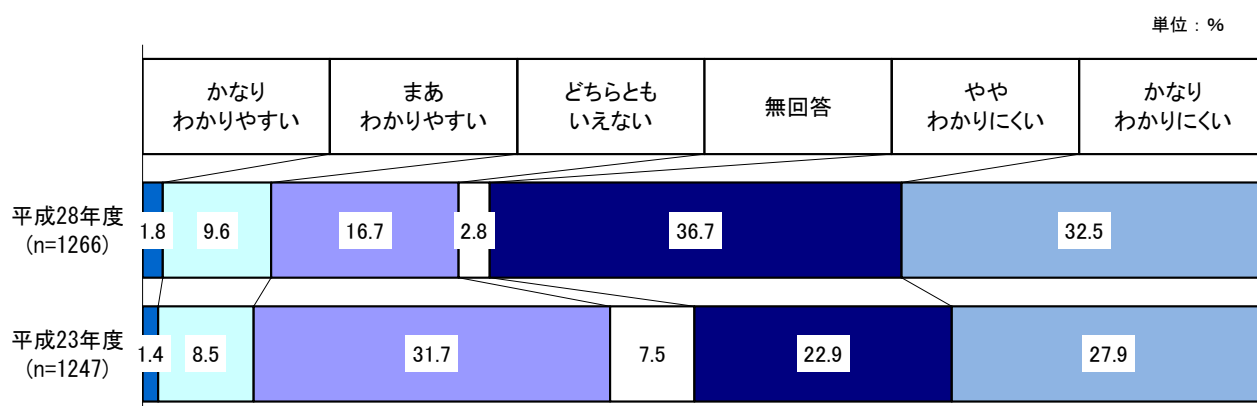
問 28 あなたにとって、福祉サービスや制度の仕組みはわかりやすいですか。

(○はひとつ)

■経年変化

「ややわかりにくい」が 36.7%で最も高く、「ややわかりにくい」と「かなりわかりにくい」を併せた『わかりにくい』と感じている層は全体の 69.2%となっています。

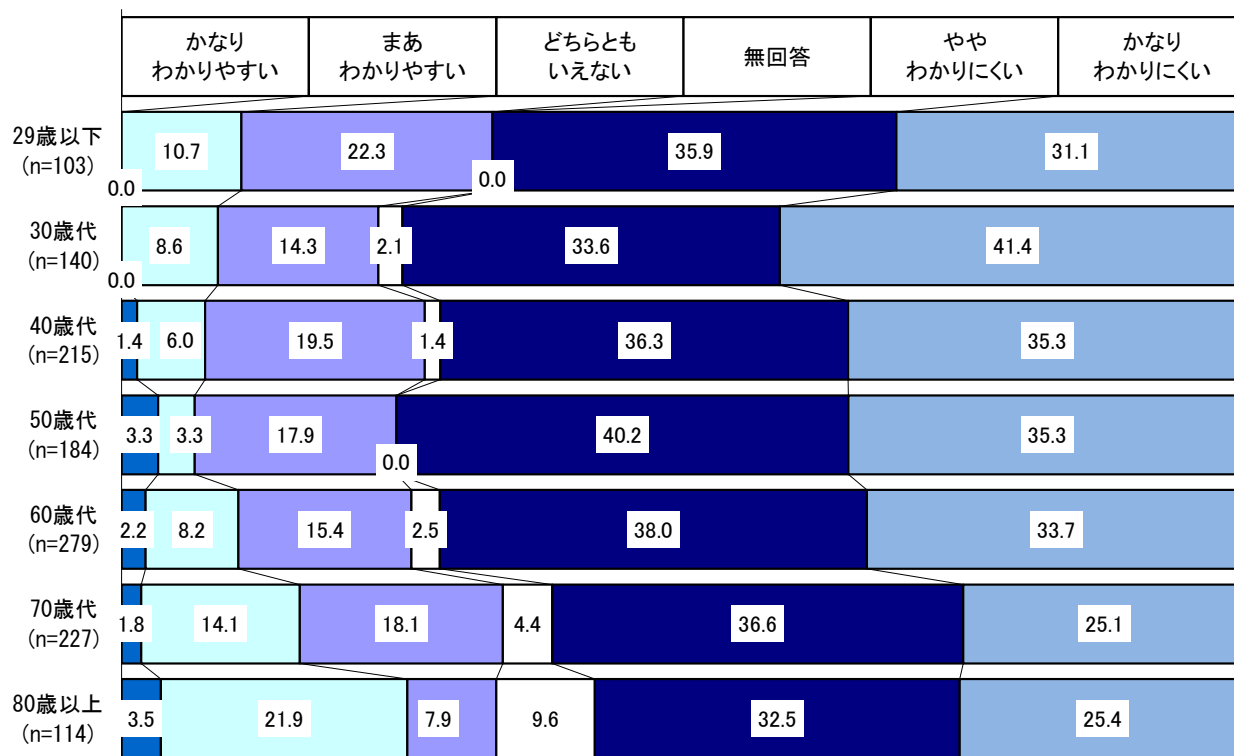
前回との変化では、「どちらともいえない」との回答が低くなり、一方で『わかりにくい』と感じている層が伸びています。



■年齢別に見た傾向

30歳代から50歳代では「ややわかりにくい」と「かなりわかりにくい」を併せた『わかりにくい』との回答が7割代半ばと全体と比べてもさらに高くなっています。また30歳代以下では「かなりわかりやすい」との回答がなく、わかりやすい情報提供の在り方が求められています。

単位：％



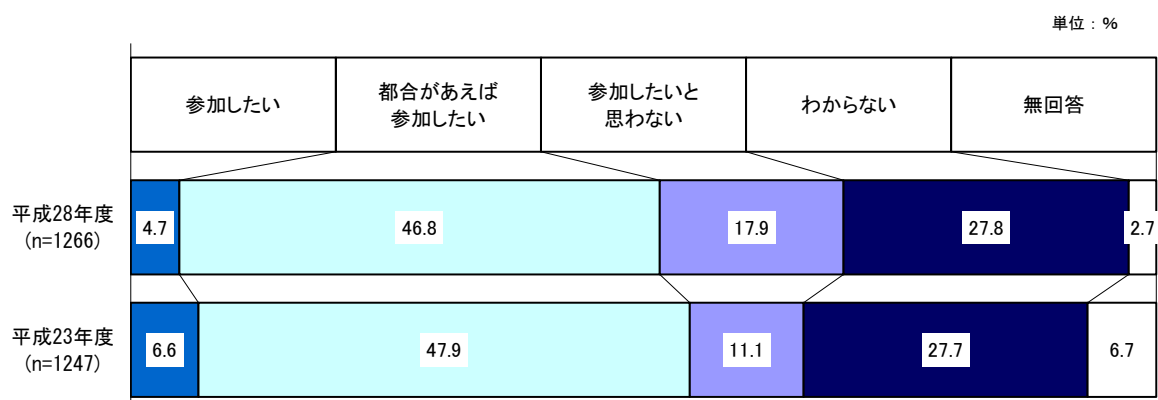
(3) 福祉についての講習会等への意向

問 29 あなたは、今後福祉に関する講習や説明会などに参加したいと思いますか。
(○はひとつ)

■経年変化

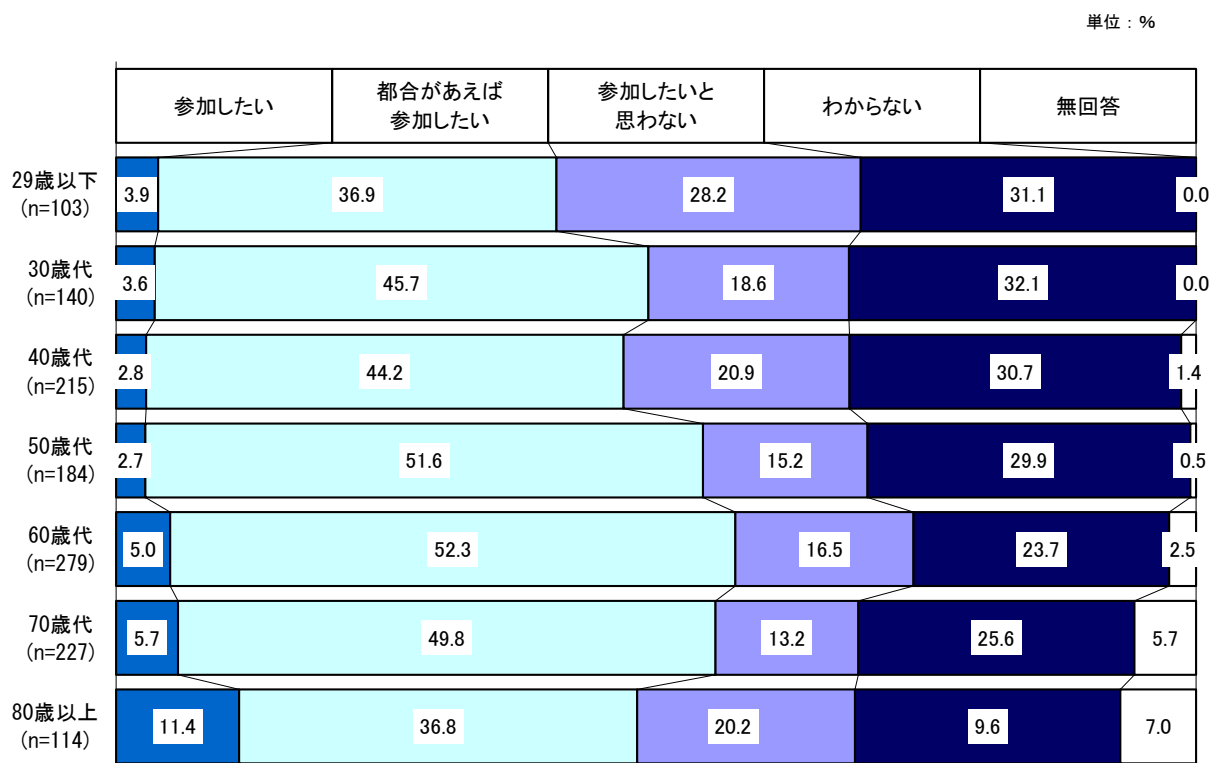
「参加したい」と「都合が合えば参加したい」を併せた『参加の意向がある』層は全体の51.5%となっています。

前回との比較では、「参加したいと思わない」との回答が高くなっています。



■年齢別に見た傾向

50歳代から70歳代にかけては『参加の意向がある』層が5割を超えて高くなっています。また、問21（*ページ）のように、地域活動への参加が低調となりやすい30歳代以下の若い世代についても、4割程度の『参加の意向がある』層が見られるため、各世代のニーズに合わせた開催が必要と考えられます。

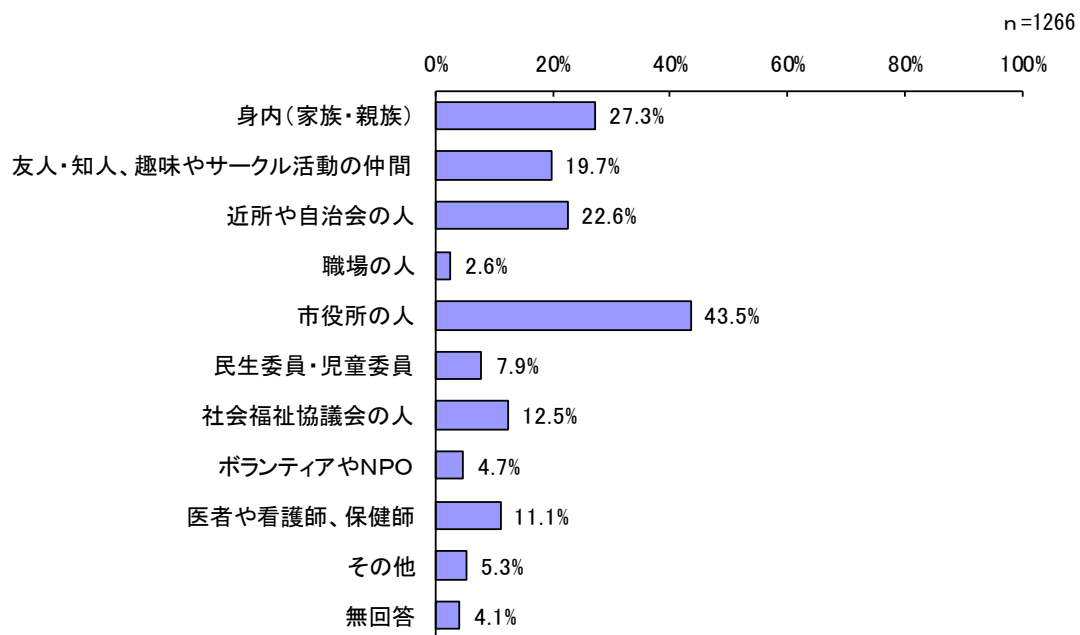


(4) 情報の入手先

①情報を入手する相手

問 30 あなたは、地域や福祉の情報を誰から得たいと思いますか。(○は2つまで)

「市役所の人」との回答が 43.5%と最も高く、次いで「身内」、「近所や自治会の人」などとなっています。



■年代別に見た傾向

30 歳代以下は「身内」との回答が高く、40 歳代と 50 歳代では「市役所の人」、70 歳代では「社会福祉協議会の人」、80 歳以上では「民生委員・児童委員」との回答が高くなっています。

(単位: %)	身内(家族・親族)	友人・知人、趣味やサークル活動の仲間	近所や自治会の人	職場の人	市役所の人	民生委員・児童委員	社会福祉協議会の人	ボランティアやNPO	医者や看護師、保健師	その他	無回答
全体(n=1266)	27.3	19.7	22.6	2.6	43.5	7.9	12.5	4.7	11.1	5.3	4.1
29 歳以下(n=103)	41.7	24.3	15.5	3.9	35.9	4.9	6.8	10.7	10.7	5.8	0.0
30 歳代(n=140)	35.0	22.1	27.9	7.1	36.4	3.6	5.7	2.9	12.1	8.6	1.4
40 歳代(n=215)	26.5	18.6	20.5	4.2	55.8	6.0	9.8	3.7	11.6	7.4	2.3
50 歳代(n=184)	22.8	17.4	20.7	3.8	56.0	4.9	11.4	3.8	11.4	6.0	3.3
60 歳代(n=279)	19.7	19.4	24.7	1.1	47.7	10.0	13.6	6.1	10.4	5.4	2.9
70 歳代(n=227)	24.7	21.6	24.7	0.0	35.7	10.1	20.3	4.8	11.5	1.8	7.0
80 歳以上(n=114)	37.7	16.7	21.1	0.0	21.1	14.9	14.9	1.8	9.6	2.6	11.4

■地区別に見た傾向

東部では「市役所の人」との回答が高くなっています。

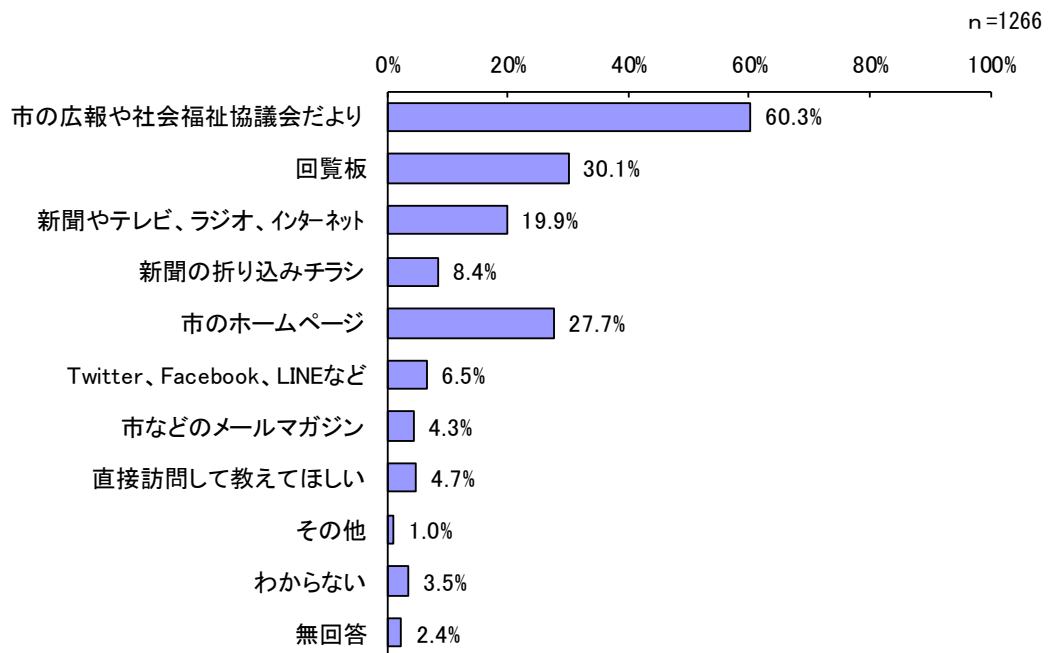
(単位: %)	身内(家族・親族)	友人・知人、趣味やサークル活動の仲間	近所や自治会の人	職場の人	市役所の人	民生委員・児童委員	社会福祉協議会の人	ボランティアやNPO	医者や看護師、保健師	その他	無回答
全体(n=1266)	27.3	19.7	22.6	2.6	43.5	7.9	12.5	4.7	11.1	5.3	4.1
北部(n=95)	27.4	14.7	26.3	3.2	45.3	7.4	15.8	1.1	11.6	5.3	3.2
中央(n=272)	31.3	20.2	21.7	2.2	43.0	7.0	10.7	4.0	9.9	5.5	5.1
西部(n=226)	31.4	21.2	22.6	1.3	42.9	4.9	14.6	3.1	11.9	3.5	2.7
西南部(n=221)	24.4	23.1	26.7	3.6	39.8	10.9	14.0	5.9	11.3	4.1	3.2
東南部(n=179)	21.8	21.2	24.0	2.2	45.8	8.9	8.9	7.3	10.6	4.5	2.2
東部(n=222)	25.7	15.8	20.3	3.6	50.0	7.2	13.1	5.4	12.2	8.6	3.6

②情報を入手する方法

問 31 あなたは、地域や福祉の情報をどのような方法で得たいと思いますか。

(○は2つまで)

「市の広報や社会福祉協議会だより」との回答が 60.3%と最も高く、次いで「回覧板」、「市のホームページ」となっています。



■年齢別に見た傾向

40 歳以上では、「市の広報や社会福祉協議会だより」がいずれも 6 割を超えており、60 歳以上では「回覧板」がいずれも 3 割を超えており、この 2 つが上位となっています。

30 歳代では、「市の広報や社会福祉協議会だより」が 50.0%で最も高いものの、次いで「市のホームページ」、「新聞やテレビ、ラジオ、インターネット」の順となっています。

29 歳以下では、「市のホームページ」が 35.0%で最も高く、次いで「市の広報や社会福祉協議会だより」、「Twitter、Facebook、LINE など」、「新聞やテレビ、ラジオ、インターネット」が 3 割前後で続いており、入手方法が多様化していることがうかがえます。

(単位: %)	市の広報や社会福祉協議会だより	回覧板	新聞やテレビ、ラジオ、インターネット	新聞の折り込みチラシ	市のホームページ	Twitter、Facebook、LINE など	市などのメールマガジン	直接訪問して教えてほしい	その他	わからない	無回答
全体(n=1266)	60.3	30.1	19.9	8.4	27.7	6.5	4.3	4.7	1.0	3.5	2.4
29 歳以下(n=103)	31.1	18.4	29.1	10.7	35.0	30.1	4.9	2.9	1.9	4.9	0.0
30 歳代(n=140)	50.0	22.1	25.7	4.3	40.7	14.3	6.4	3.6	0.7	2.9	0.0
40 歳代(n=215)	63.3	26.5	16.7	7.0	38.1	5.6	6.5	2.8	0.9	2.8	1.4
50 歳代(n=184)	62.0	22.3	24.5	9.8	36.4	7.1	6.5	2.2	0.5	2.2	0.5
60 歳代(n=279)	68.1	34.1	19.4	9.0	24.7	1.8	3.2	6.5	1.4	2.2	1.8
70 歳代(n=227)	64.8	41.9	11.9	10.1	15.4	0.4	1.8	7.9	0.9	4.8	4.4
80 歳以上(n=114)	63.2	36.0	20.2	7.0	4.4	0.0	1.8	5.3	0.9	7.0	8.8

■地区別に見た傾向

西南部では「市の広報や社協だより」、西部では「回覧板」、東南部では「折り込みチラシ」や「市のホームページ」が高くなっています。

(単位: %)	市の広報や社会福祉協議会だより	回覧板	新聞やテレビ、ラジオ、インターネット	新聞の折り込みチラシ	市のホームページ	Twitter、Facebook、LINE など	市などのメールマガジン	直接訪問して教えてほしい	その他	わからない	無回答
全体(n=1266)	60.3	30.1	19.9	8.4	27.7	6.5	4.3	4.7	1.0	3.5	2.4
北部(n=95)	56.8	26.3	17.9	9.5	27.4	5.3	6.3	6.3	1.1	7.4	0.0
中央(n=272)	58.1	32.4	21.7	7.0	27.6	8.8	3.3	5.5	0.7	2.9	2.2
西部(n=226)	63.3	38.5	18.6	4.4	22.1	4.4	2.2	7.5	0.4	2.2	2.7
西南部(n=221)	65.6	31.7	19.5	9.5	28.5	5.4	3.2	3.2	1.4	3.2	1.4
東南部(n=179)	59.2	27.4	17.3	13.4	33.5	5.0	6.7	5.0	1.7	2.8	1.1
東部(n=222)	59.5	19.4	23.4	8.6	32.0	9.5	6.3	1.8	1.4	3.6	2.3

■「地域活動に参加していない理由」（問 21-3）別にみた傾向

地域活動に参加していない人の、その理由別に利用している情報の入手手段を見たところ、「市のホームページ」や「新聞やテレビ、ラジオ、インターネット」をよく利用していることがわかります。このような手段に情報を適切に掲載することで、関心へとつなげられるのではないかと考えられます。

(単位: %)	市の広報や社会福祉協議会だより	回覧板	新聞やテレビ、ラジオ、インターネット	新聞の折り込みチラシ	市のホームページ	Twitter、Facebook、LINE など	市などのメールマガジン	直接訪問して教えてほしい	その他	わからない	無回答
全体 (n=1266)	60.3	30.1	19.9	8.4	27.7	6.5	4.3	4.7	1.0	3.5	2.4
興味や関心がないから (n=75)	49.3	21.3	32.0	5.3	30.7	12.0	0.0	1.3	0.0	6.7	0.0
機会がないから (n=213)	59.2	19.7	26.8	7.0	37.1	10.3	3.3	3.3	0.5	2.8	0.9
時間がないから (n=175)	55.4	21.7	24.6	8.6	36.0	11.4	6.3	4.0	0.6	2.9	0.6
自分の生活で精一杯だから (n=205)	60.0	22.0	23.9	9.8	30.2	8.8	4.4	2.4	1.0	4.4	1.0
仕事が忙しくて余裕がないから (n=181)	56.4	22.7	22.1	8.8	38.7	10.5	5.5	6.1	1.7	3.3	0.0
やりたい活動がないから (n=36)	58.3	16.7	30.6	11.1	33.3	11.1	0.0	5.6	2.8	0.0	0.0
自分の趣味や余暇活動 優先したいから(n=85)	61.2	20.0	27.1	11.8	28.2	10.6	5.9	4.7	1.2	2.4	0.0
現在の活動内容に 不満だから(n=6)	83.3	33.3	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
活動の内容や参加の方法が わからないから(n=120)	56.7	25.8	21.7	7.5	37.5	6.7	5.8	5.0	0.8	3.3	1.7
その他 (n=40)	45.0	35.0	12.5	12.5	22.5	10.0	2.5	12.5	7.5	7.5	0.0
特に理由はない (n=47)	51.1	14.9	23.4	6.4	29.8	4.3	4.3	4.3	2.1	14.9	2.1

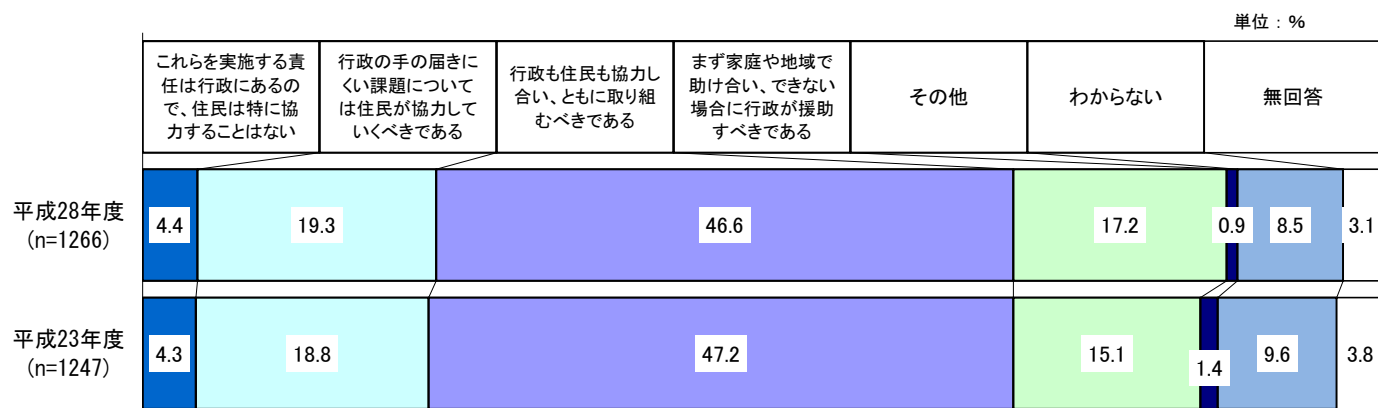
（５）行政と住民の関係

問 32 福祉・保健サービスを充実させていくうえで、行政と住民の関係について、あなたの考えに最も近いものを選んでください。（○はひとつ）

■経年変化

「行政も住民も協力し合い、ともに取り組むべきである」が46.6%と最も高くなっています。

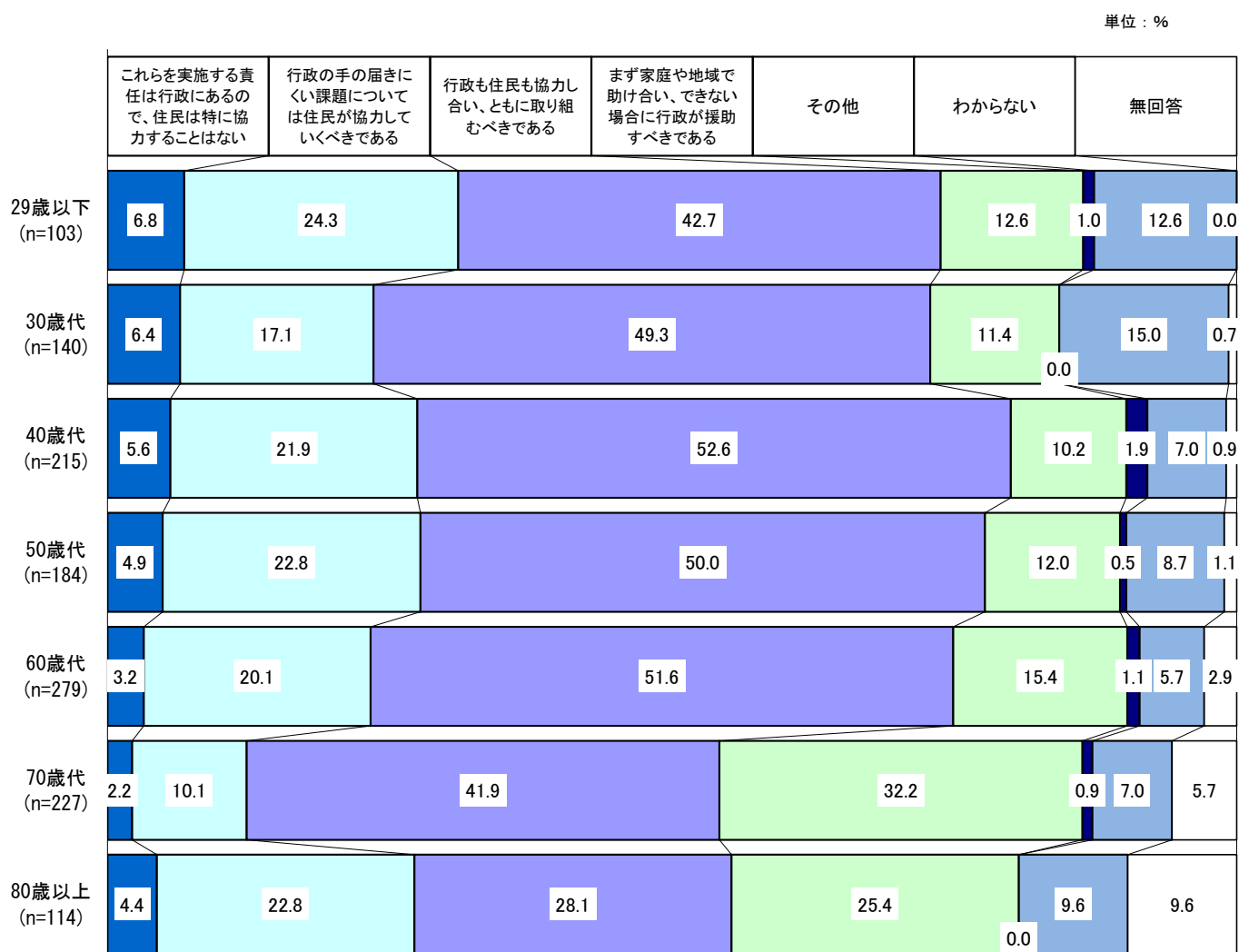
前回との比較では特に大きな変化は見られません。



■年齢別に見た傾向

いずれの世代でも「行政も住民も協力し合い、ともに取り組むべきである」との回答が最も高くなっているものの、70歳以上では「まず家庭や地域で助け合い、できない場合に行政が援助すべきである」との回答が次に高くなっています。

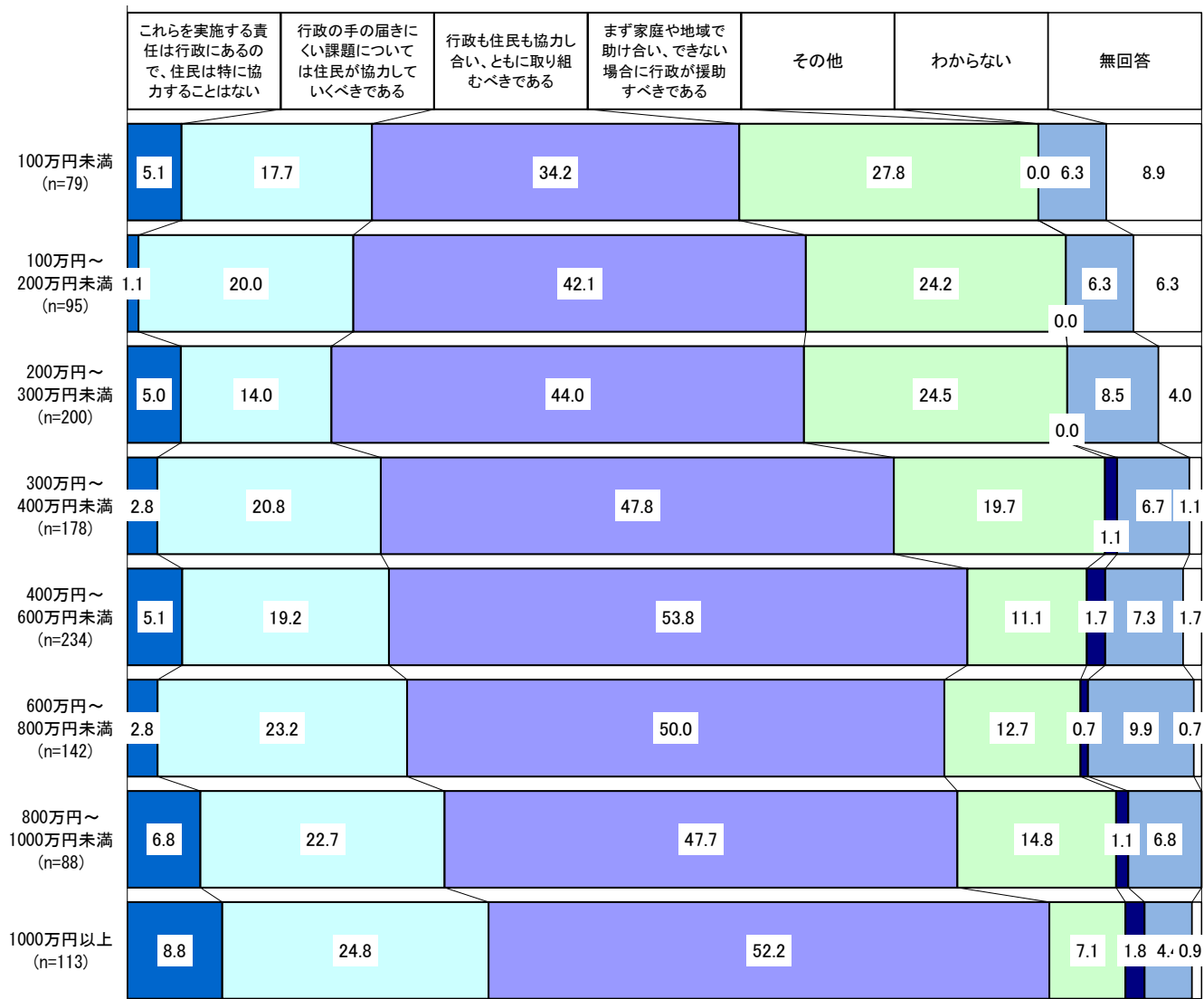
60歳代以下では「行政の手の届きにくい課題については住民が協力していくべきである」との回答が次に高くなっており、中でも29歳以下では24.3%と各世代で最も高い割合となっています。



■年収別にみた傾向

300万円未満と回答した層では「まず家庭や地域で助け合い、できない場合に行政が援助すべきである」との回答が高くなっています。

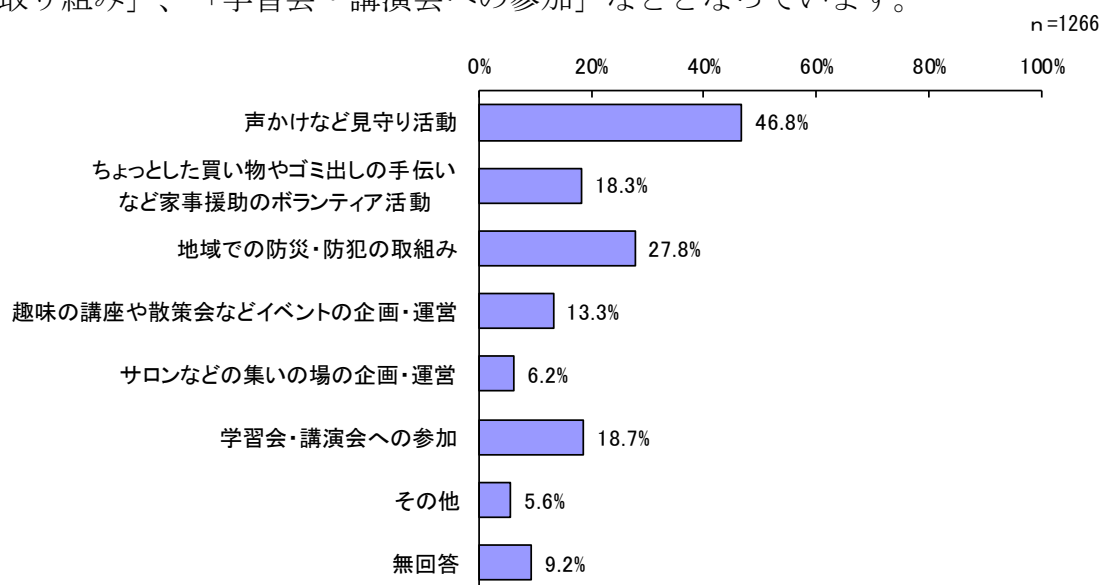
単位：％



(6) 地域福祉推進拠点

問 33 あなたは、あなたの住む地域に「地域福祉推進拠点」が設置された場合、どんな活動をしてみたいと考えますか。(○は2つまで)

「声かけなど見守り活動」が46.8%と最も高くなっており、次いで、「地域での防犯・防犯の取り組み」、「学習会・講演会への参加」などとなっています。



■年齢別に見た傾向

29歳以下では「趣味の講座やイベントの企画・運営」、30歳代以下では「地域での防犯・防災の取り組み」、50歳代では「声掛けなどの見守り活動」との回答が高くなっています。

(単位: %)	声かけなど見守り活動	ちょっとした買い物やゴミ出しの手伝いなど家事援助のボランティア活動	地域での防犯・防犯の取り組み	趣味の講座や散策会などイベントの企画・運営	サロンなどの集いの場の企画・運営	学習会・講演会への参加	その他	無回答
全体(n=1266)	46.8	18.3	27.8	13.3	6.2	18.7	5.6	9.2
29歳以下(n=103)	38.8	19.4	35.9	19.4	1.0	13.6	3.9	9.7
30歳代(n=140)	43.6	15.7	40.0	16.4	5.7	12.9	7.1	4.3
40歳代(n=215)	51.6	18.1	29.3	12.6	4.2	21.4	3.7	5.6
50歳代(n=184)	54.9	20.7	29.9	8.7	7.1	23.4	3.3	5.4
60歳代(n=279)	47.7	21.5	23.3	13.3	6.8	22.2	8.2	7.2
70歳代(n=227)	48.0	17.6	20.7	16.3	7.9	16.3	5.7	11.9
80歳以上(n=114)	33.3	10.5	23.7	7.0	8.8	14.9	6.1	26.3

■地域別に見た傾向

北部や西部では「声かけなどの見守り活動」との回答が高く、東南部では「家事援助のボランティア活動」や「学習会・講演会への参加」との回答が高くなっています。

(単位: %)	声かけなど見守り活動	ちよつとした買い物やゴミ出しの手伝いなど家事援助のボランティア活動	地域での防災・防犯の取り組み	趣味の講座や散策会などイベントの企画・運営	サロンなどの集いの場の企画・運営	学習会・講演会への参加	その他	無回答
全体(n=1266)	46.8	18.3	27.8	13.3	6.2	18.7	5.6	9.2
北部(n=95)	53.7	13.7	29.5	17.9	6.3	8.4	9.5	5.3
中央(n=272)	46.0	17.3	22.8	13.2	5.5	21.0	4.0	11.0
西部(n=226)	54.4	19.0	27.0	13.3	7.5	13.3	7.1	7.1
西南部(n=221)	48.0	15.4	29.0	12.7	7.7	19.0	6.3	10.4
東南部(n=179)	47.5	24.0	30.2	11.7	7.3	24.0	4.5	2.8
東部(n=222)	39.2	21.6	31.1	14.9	3.2	23.0	5.0	9.5

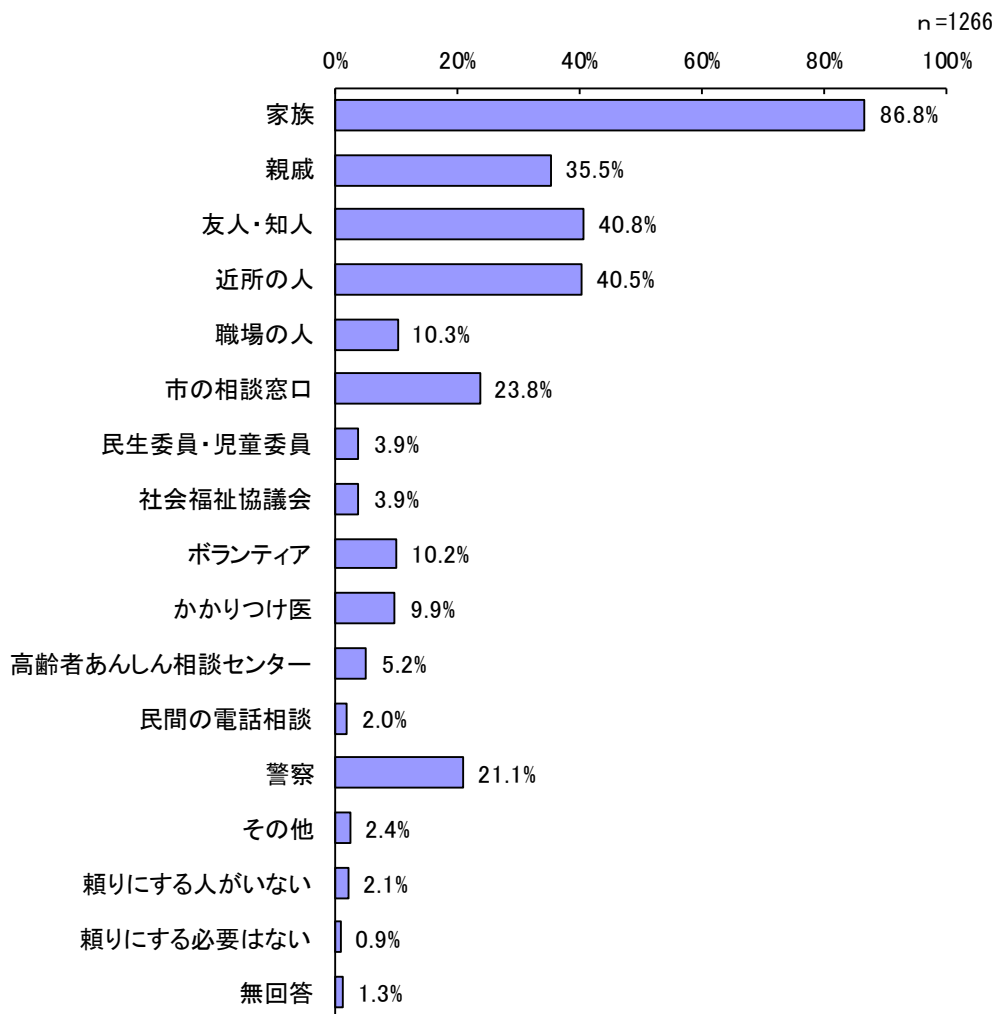
5. 地震や災害があったときの対応等について

(1) 災害時に頼れる人

問 34 大規模災害等が発生した時、あなたは誰を頼りにしていますか。

(あてはまるものすべてに○)

「家族」との回答が 86.8%と最も高く、次いで「友人・知人」、「近所の人」、「親戚」、「市の相談窓口」などとなっています。



■「困ったときの相談相手」(問 14) 別にみた傾向

問 14 の回答別に災害時の頼れる人を見たところ、「困ったときの相談先」と「災害時に頼れる人」(網掛けの部分) が重なる人は、いずれも全体より高い傾向が見られます。また、家庭や近所の人など、普段から顔を合わせる機会が多いほど高くなっているのではないかと考えられます。

一方、相談先が誰もいない、または誰にも相談したくない人でも災害時には「家族」に頼る人が 4 割から 5 割程度見られますが、全体と比べると低く、「頼りにする人がいない」と回答した人も 1 割程度見られます。

(単位: %)	家族	親戚	友人・知人	近所の人	職場の人	市の相談窓口	民生委員・児童委員	社会福祉協議会	ボランティア	かかりつけ医	高齢者あんしん相談センター	民間の電話相談	警察	その他	頼りにする人がいない	必要はない	頼りにする
全体 (n=1266)	86.8	35.5	40.8	40.5	10.3	23.8	3.9	3.9	10.2	9.9	5.2	2.0	21.1	2.4	2.1	0.9	
家族 (n=1064)	93.9	38.3	43.0	43.5	11.0	24.3	3.9	4.1	11.0	10.2	5.9	2.0	21.3	2.3	0.6	0.3	
親戚 (n=276)	90.9	68.5	50.4	57.2	12.3	34.8	6.2	8.7	15.6	16.3	8.0	2.9	26.1	3.3	1.1	0.0	
友人・知人 (n=602)	91.5	37.7	61.5	48.0	13.3	25.6	3.0	3.7	12.5	11.0	4.5	2.5	22.6	2.0	1.3	0.3	
近所の人 (n=123)	88.6	41.5	56.1	83.7	6.5	32.5	7.3	9.8	13.8	18.7	11.4	3.3	22.8	0.0	0.0	0.0	
職場の人 (n=158)	89.9	41.8	58.2	44.3	41.8	17.7	3.2	3.8	12.0	8.9	3.2	4.4	24.7	0.6	1.3	1.3	
市の相談窓口 (n=70)	81.4	30.0	27.1	35.7	8.6	51.4	7.1	12.9	24.3	15.7	14.3	5.7	30.0	1.4	1.4	1.4	
民生委員・児童委員(n=22)	77.3	27.3	27.3	68.2	0.0	36.4	50.0	40.9	27.3	36.4	40.9	18.2	36.4	9.1	0.0	0.0	
社会福祉協議会(n=14)	85.7	35.7	28.6	57.1	14.3	42.9	28.6	35.7	42.9	28.6	21.4	35.7	35.7	0.0	0.0	0.0	
ボランティア (n=4)	75.0	25.0	100.0	75.0	25.0	50.0	0.0	0.0	75.0	75.0	25.0	25.0	75.0	0.0	0.0	0.0	
かかりつけ医 (n=229)	89.1	41.5	45.4	57.6	7.0	31.9	9.2	9.6	18.3	32.3	12.2	3.5	30.1	1.3	1.7	0.9	
高齢者あんしん相談センター(n=33)	93.9	39.4	51.5	69.7	6.1	48.5	21.2	24.2	27.3	39.4	45.5	12.1	27.3	0.0	0.0	0.0	
民間の電話相談(n=11)	90.9	27.3	45.5	18.2	18.2	36.4	0.0	9.1	27.3	9.1	9.1	18.2	36.4	9.1	9.1	0.0	
警察 (n=24)	62.5	33.3	33.3	50.0	4.2	45.8	20.8	25.0	25.0	33.3	16.7	8.3	45.8	0.0	0.0	4.2	
その他 (n=42)	69.0	23.8	31.0	33.3	9.5	21.4	0.0	0.0	4.8	9.5	7.1	2.4	23.8	19.0	2.4	0.0	
誰もいない (n=24)	41.7	12.5	16.7	20.8	0.0	20.8	12.5	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	20.8	0.0	16.7	4.2	
誰にも相談したくない(n=23)	56.5	17.4	17.4	13.0	8.7	17.4	0.0	0.0	8.7	4.3	0.0	0.0	17.4	4.3	17.4	13.0	

(2) 災害時に地域で支えあうしくみ

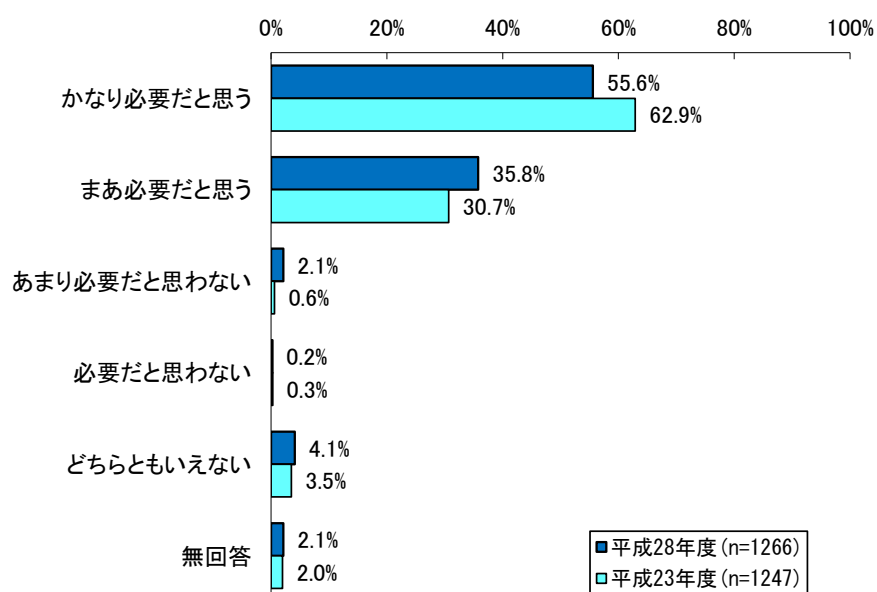
問 35 大規模災害等の備えとして、地域で支え合う仕組みは必要だと思いますか。

(○はひとつ)

■経年変化

「かなり必要だと思う」、「まあ必要だと思う」を併せた『必要だと思う』が全体の 91.4% となっています。

前回との比較では、「かなり必要だと思う」が低く、「まあ必要だと思う」が高くなっていますが、『必要だと思う』層の割合には大きな変化は見られません。



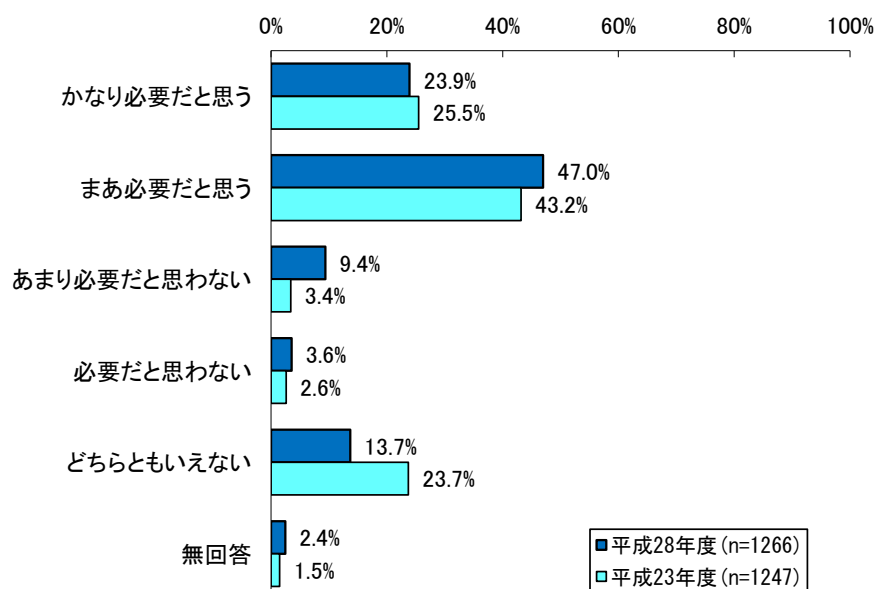
(3) 災害時への備えと個人情報

問 36 大規模災害等の備えとして、災害時要援護者支援台帳などの作成が求められていますが、地域で個人情報を共有することは必要だと思いますか。(○はひとつ)

■経年変化

「かなり必要だと思う」、「まあ必要だと思う」を併せた『必要だと思う』が全体の70.9%と高くなっています。

前回との比較では、「どちらともいえない」との回答が低く、「あまり必要だと思わない」との回答が高くなっています。



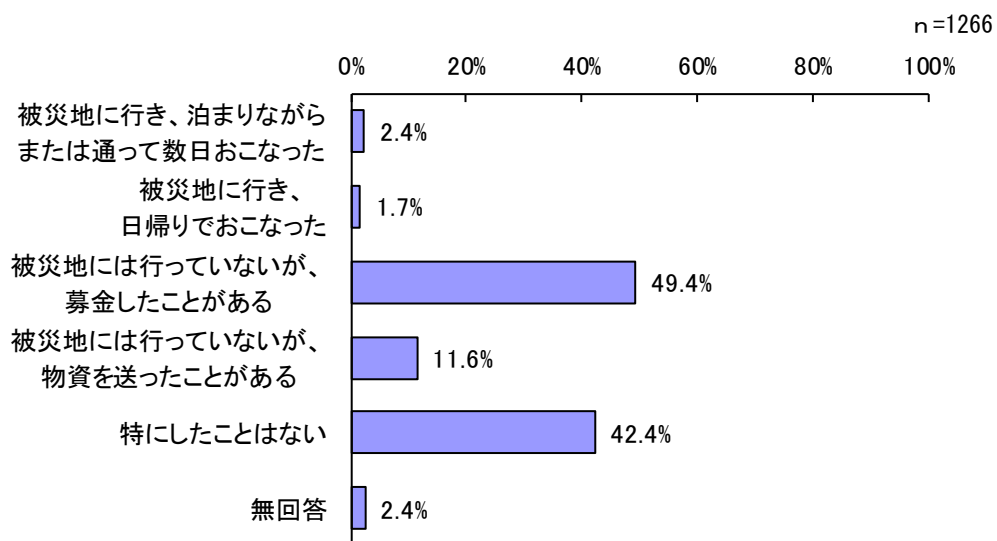
(4) 災害時のボランティア

①災害ボランティアの経験

問 37 あなたは、どのような災害ボランティアをしたことがありますか。

(あてはまるものすべてに○)

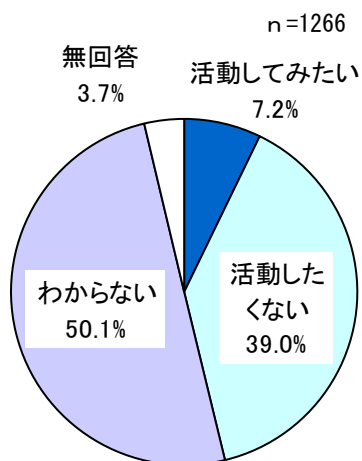
「募金をしたことがある」人が 49.4%で最も高い一方、「特にしたことはない」人も 42.4%となっています。



②災害ボランティアリーダー

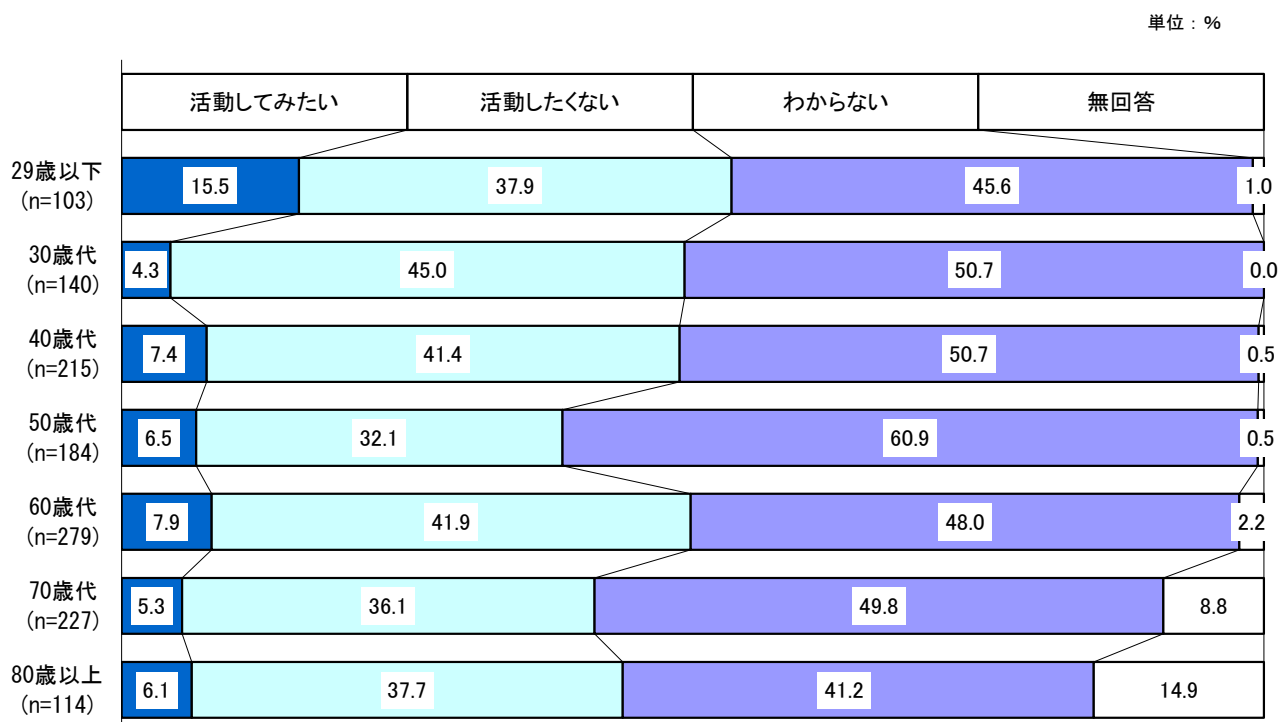
問 38 あなたは、災害ボランティアリーダーとして活動してみたいですか。(〇はひとつ)

「活動してみたい」と回答した人は全体の 7.2%です。



■年齢別に見た傾向

29歳以下では、ボランティアリーダーとして「活動してみたい」との回答が 15.5%と高くなっています。

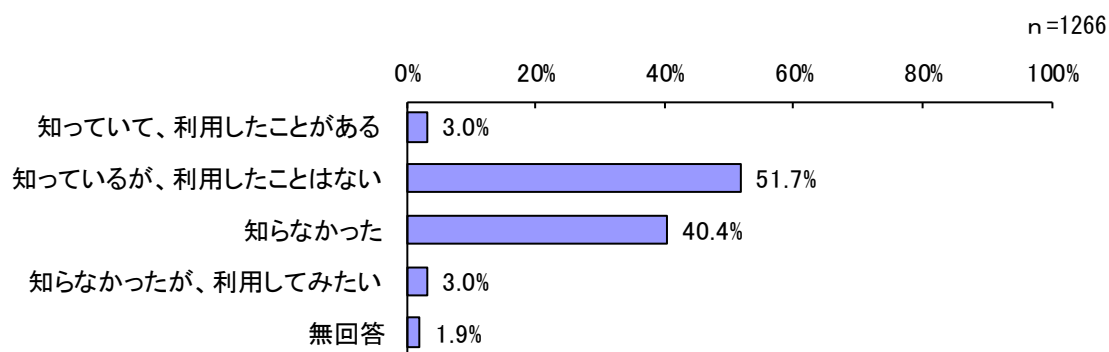


6. 生活が苦しくなった場合の支援について

(1) 生活困窮時の相談窓口の認知度

問 39 生活に困窮している方への相談窓口が市役所（生活自立支援課）にあることを、あなたは知っていますか。（○はひとつ）

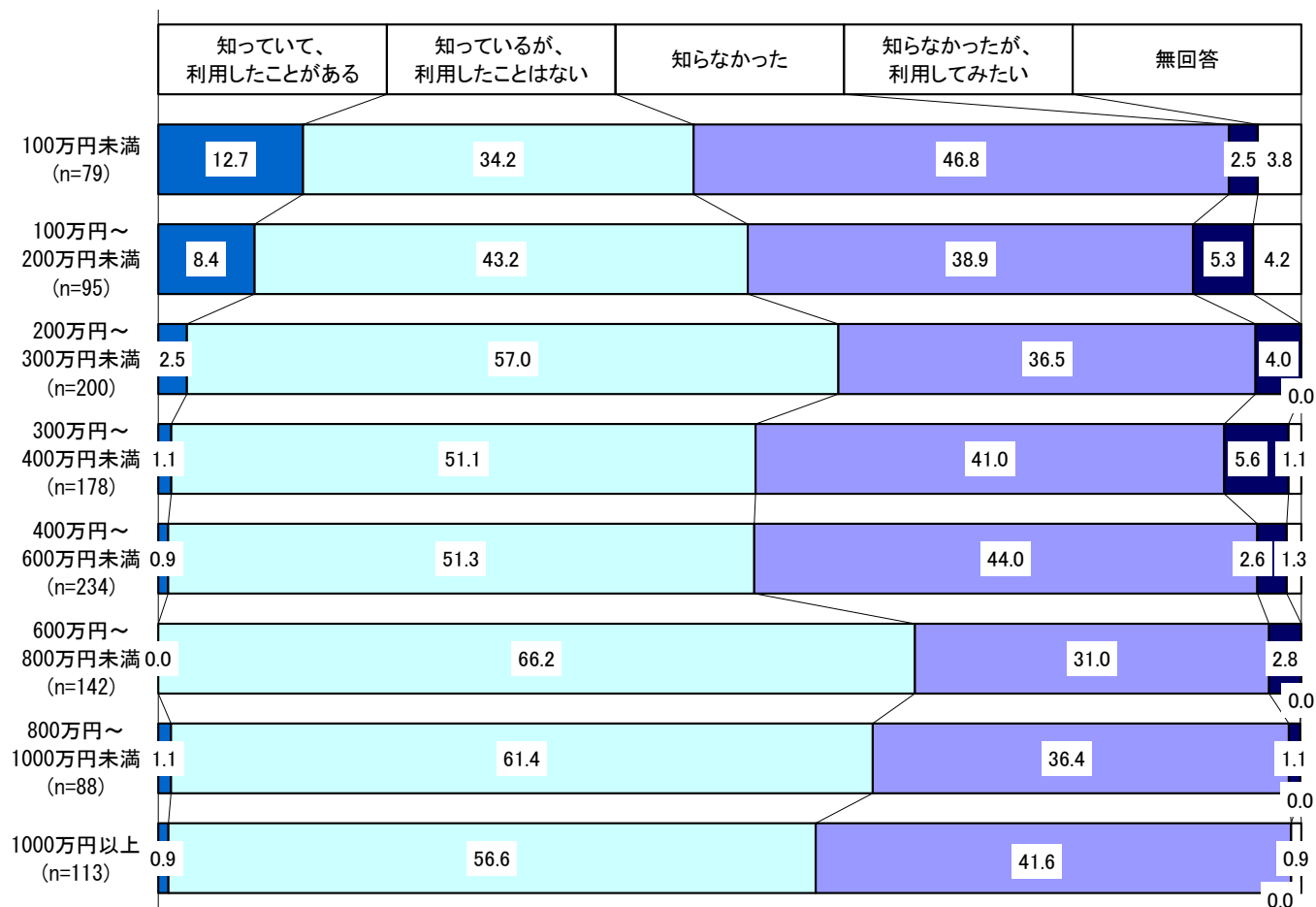
「知っているが、利用したことはない」人が 51.7%で最も高くなっており、「知っていて利用したことがある」と回答した人と併せた『知っている』人は全体の 54.7%となっています。



■年収別にみた傾向

200万円未満の回答者では「知っていて、利用したことがある」との回答が高くなっていますが、「知らなかった」と「知らなかったが利用してみたい」を併せた『知らない』との回答も4割台となっています。

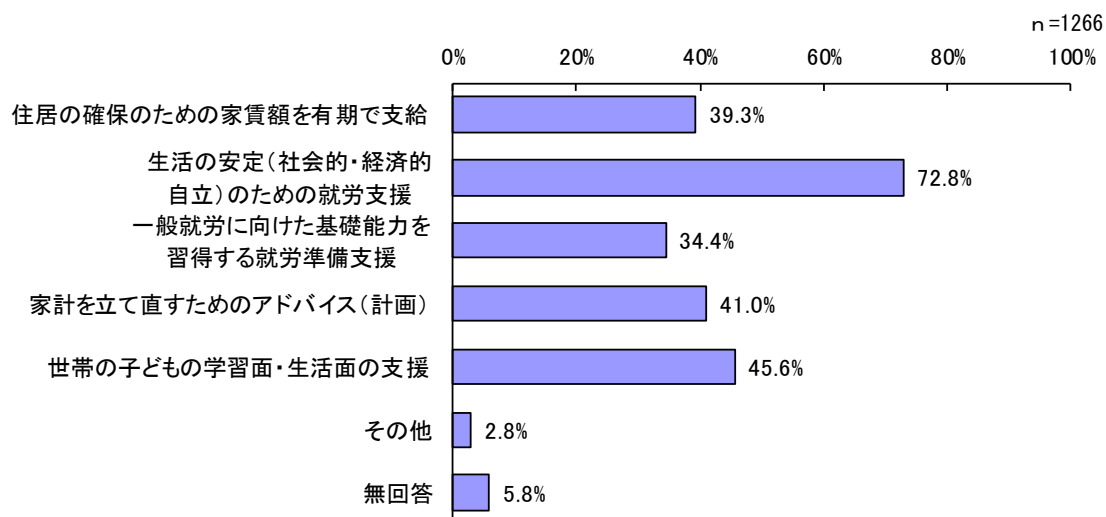
単位：％



(2) 生活困窮者自立支援制度で重視する点

問 40 八王子市の生活困窮者自立支援制度では、生活困窮者に対して、次のような取組を実施していますが、生活困窮者に対する取組として重要だと思うものはなんですか。
(あてはまるものすべてに○)

「生活の安定のための就労支援」が 72.8%と最も高く、その他の選択肢もいずれも 3 割から 4 割の回答を集めています。



■年収別にみた傾向

100 万円未満では、「住居の確保のための家賃額を有期で支給」が高くなっています。一方で、200 万円未満では、「就労支援」、「就労準備支援」、「家計のためのアドバイス」、「子どもの学習面・生活面の支援」については、回答の割合が全体を下回っています。

(単位: %)	住居の確保のための 家賃額を有期で支給	生活の安定のための就労支援	一般就労に向けた基礎能力を 習得する就労準備支援	家計を立て直すための アドバイス(計画)	世帯の子どもの 学習面・生活面の支援	その他	無回答
全体(n=1266)	39.3	72.8	34.4	41.0	45.6	2.8	5.8
100 万円未満(n=79)	48.1	57.0	26.6	40.5	32.9	6.3	11.4
100 万円～200 万円未満(n=95)	43.2	65.3	34.7	33.7	32.6	1.1	13.7
200 万円～300 万円未満(n=200)	34.0	72.0	29.5	41.5	37.5	2.0	7.0
300 万円～400 万円未満(n=178)	41.0	74.2	35.4	43.8	44.4	2.8	3.4
400 万円～600 万円未満(n=234)	38.0	77.4	38.0	42.7	54.3	3.4	3.8
600 万円～800 万円未満(n=142)	40.8	78.9	39.4	40.1	51.4	3.5	1.4
800 万円～1000 万円未満(n=88)	42.0	77.3	35.2	55.7	61.4	2.3	0.0
1000 万円以上(n=113)	35.4	83.2	38.1	38.9	58.4	0.0	0.9

第3章

調査結果の概要

第3章 調査結果の概要

1 回答者について

- ・30歳代以下では居住年数が10年未満、居住地区は東部や中央が特に高く、住まいを「借りている」人の割合が高くなっており、町会や自治会、マンションの管理組合などへの加入率が低い傾向が見られます。
- ・40歳代から60歳代にかけては、居住年数が10年から20年で、持ち家率も30歳代以下に比べると高くなる傾向が見られます。
- ・65歳以上の、いわゆる高齢者層では、居住年数が20年以上、居住地区は西部や東南部で特に高く、持ち家率が8割を超えており、町会や自治会、マンションの管理組合などへの加入率が高いものの、年収の回答では200万円以下との回答の割合が高くなっています。
- ・町会や自治会の加入率は東部で特に低くなっているものの、東部ではマンションの管理組合への加入が高く、『加入をしている』世帯の割合は、他地区と遜色ないものとなっています。
- ・このように、本市は市域が広く、自然の多い地域や、多くの企業や学校を抱えている地域があることから、地域ごとに特性があることがわかります。

2 世代ごとのとらえ方の違い

- ・「地区についての認識」（問10）では70歳以上では「町会・自治会」が高いように、近隣をイメージする方が多いのに対し、29歳以下では「町」や「市全体」などの回答が高くなっています。
- ・「地域で必要な取り組み」（問17-1）では、70歳以上では、地域活動や高齢者の環境、健康などが高いのに対し、40歳代以下では、防犯・防災、子どもの環境が高くなっています。
- ・「近隣世帯についての相談相手」（問18）や「地域での安心した暮らしに必要なこと」（問20）では、各年代ごとに特徴的な回答が見られます。
- ・「地域の課題」と一口に言っても、地域のとらえ方や課題のとらえ方が世代により異なることがわかります。そのため、地域での課題を考える際に、自分にとっての課題だけでなく、地域には様々な方が暮らしていることについて理解を深めることが大切です。

3 若い世代の地域への取り込み

- ・「近所づきあい」（問 14）をみると、40 歳代までの世代では「会えばあいさつをかわす程度」が多く、「たまに立ち話をする程度」から濃いつきあいがみられるのは 50 歳以上の世代となっています。
- ・「地域活動への参加状況」（問 21）についても、30 歳代以下で参加したことがあるとの回答が低くなっています。
- ・しかし、「近所の人にしてほしいこと」（問 16）について「特にない」との回答や「地域課題と住民の協力」が『必要だと思わない』といった回答について、40 歳代以下が特に高いということではなく、その重要性は若い世代にも浸透しているものと考えられます。
- ・「参加している活動の場」（問 21-1）としては、「学校、PTA、子供会等」が 40 歳代まで最も高くなっており、学校を通して地域の方と触れ合う機会を持ち、そこから町会・自治会等へと地域のつながりを持つ方も多いのではないかと考えられます。
- ・「地域での安心した暮らしに必要なこと」では、30 歳代以下では「防犯・防災」やへの意向が高く、「地域福祉推進拠点」（問 33）」でも、「防犯・防災」の回答が高くなっており、さらに 29 歳以下では「災害ボランティアリーダー」（問 38）への意向が高くなっています。
- ・若い世代ではまだ家庭を持つことが少なかったり、居住年数が短いことなどから、地域と深くかかわる機会を持たずに暮らしている層がいることがうかがえます。一方で、防災・防犯への関心は高いものがあります。そのため、例えば地域おける防災・防犯への取り組みなどを通して、若い世代の取り込みを図るきっかけづくりが重要です。

4 虐待・孤立化の防止

- ・「地域の人にしてほしいこと」（問 16）と「近隣世帯にできること」（問 19）からは、「安否確認の声かけ」や「ちょっとした買い出しやゴミ出し」、「不調時に、医療機関などに連絡」、「話し相手や相談相手」といった項目では、「してほしい」よりも「できる」との回答が高く、こういった項目は地域の力を活かすことで解決につなげられるのではないかと考えられます。
- ・「近所づきあい」についても、実際の付き合いよりも濃い付き合いを望んでいる方が全体の 4 割程度見られるため、「安否確認の声かけ」などが普段から行える地域の関係づくりが必要です。

5 社会的弱者の支援

- ・「地域の人にしてほしいこと」別に、「ボランティアが活動しやすくなる条件」（問 26）を抽出したところ、極端な傾向の差ではなかったものの、全体に比べこれらを条件としてほしいとの回答が見られます。
- ・そのため、実施する事業・活動の性格や目的、実際に活動する人やサービスを必要としている人たちに応じて、柔軟に対応できるよう考慮することが必要です。

6 災害時の要援護者支援

- ・「災害時に頼れる人」（問 34）は、「困ったときの相談相手」（問 13）であるケースが多く見られます。普段からのつながりが生きてくることがうかがえます。
- ・この点について、相談先が誰もいない、または誰にも相談したくない人でも災害時には「家族」に頼る人がある程度見られるものの、「頼りにする人がいない」と回答した人も 1 割程度見られます。

7 地域福祉の担い手の確保

- ・「情報の提供の方法」（問 31）としては、60 歳以上では「市の広報、社協だより」や「回覧板」が力を発揮するものの、若い世代では、入手手段が多様化していることがわかります。
- ・地域活動に参加していない人の、その理由別に利用している情報の入手手段を見たところ、「市のホームページ」や「新聞やテレビ、ラジオ、インターネット」をよく利用していることがわかります。このような手段に情報を適切に掲載することで、関心へとつながられるのではないかと考えられます。

8 用語の認知度と生活困窮者制度

- ・「福祉にまつわる用語等の認知度」（問 27）については、40 歳代から 60 歳代では半数の人が知っている項目が 4 項目と多くなっていますが、設問全体が 15 項目ということを考えれば十分な結果とは言えない状況です。
- ・特に全体で認知度が 1 割にも満たない項目が 7 つあり、全体的な認知度の向上が求められます。
- ・また、近年取り組みが強化された生活困窮制度については相談窓口があることを知っている人は全体の 5 割程度となっており、年収で 200 万円未満と回答した方では「知っていて、利用したことがある」との回答が高くなっていますが、「知らなかった」と「知らなかったが利用してみたい」を併せた『知らない』との回答も 4 割台となっており、周知の強化が求められます。